

































出資 (何省)ヨリ引受 國庫ニ歸屬	株式及持分	礦業權	公用財産ヨリ種別替 營林財産ヨリ種別替	買賣 讓與 誤謬 訂取 正消 除消	船舶
賣資 本 減 拂少	出資	出資	誤讓 擊解 沈失 與拂 正	訂 謬	
民法第七十二條、第一千五十九條等ニ因リ國庫ニ歸屬シタル場合					



大學並學校及圖書館特別會計所屬國有財產管理規程

大正十一年四月十日  
發會六八號ノ一文部大臣訓令

- 第一條 本規程ニ於テ部局ト稱スルハ帝國大學、官立大學、直轄諸學校及帝國圖書館ヲ謂ヒ部局長ト稱スルハ帝國大學ニ在リテハ總長、官立大學ニ在リテハ大學長、直轄諸學校ニ在リテハ學校長、帝國圖書館ニ在リテハ館長ヲ謂フ
- 第二條 帝國大學、官立大學並學校及圖書館特別會計ニ屬スル國有財產ニ關スル事務ハ部局長之ヲ管理スヘシ
- 第三條 部局長ハ左ニ掲ケル場合ニ於テハ文部大臣ノ認可ヲ受クヘシ
  - 一 公用財產ノ用途ヲ廢止セムトスルトキ
  - 二 公用財產タル土地ノ用途ヲ變更セムトスルトキ
  - 三 土地ノ買入又ハ交換ヲ爲シ若ハ寄附ヲ受ケムトスルトキ
  - 四 建物ヲ買入レ又ハ寄附ヲ受ケムトスルトキ
  - 五 土地建物船舶ヲ處分セムトスルトキ
  - 六 建物ヲ移轉セムトスルトキ
  - 七 公用財產ト爲スノ目的ヲ以テ地上權、地役權、鑛業權、砂鑛權其ノ他之ニ準スヘキ權利ヲ取得セントスルトキ
  - 八 雜種財產ヲ公用財產ト爲サムトスルトキ

- 價格其ノ他必要ナル事項ヲ具シ且圖面ヲ添付スヘシ
- 第四條 部局長ハ國有財產ノ管理換ヲ受クルノ必要アリト認ムルトキハ之ヲ文部大臣ニ稟請スヘシ
- 第五條 部局長ハ第三條及第四條又ハ其ノ事由ニ依リ國有財產ノ増減異動ヲ生シタルトキハ直ニ名稱及國有財產法施行令第三十一條各號ノ事項ヲ具シ之ヲ文部大臣ニ報告スヘシ
- 第六條 部局長ハ國有財產ノ境界査定ヲ施行セントスルトキハ豫メ之ヲ文部大臣ニ報告スヘシ
- 境界査定ヲ了シタルトキハ詳細ノ事項ヲ具シ之ヲ文部大臣ニ報告スヘシ
- 第七條 部局長ハ國有財產ノ貸付ヲ爲シ又ハ使用若ハ收益ヲ爲サシムトスルトキハ文部大臣ノ認可ヲ受クヘシ但シ其ノ期間一月ヲ超エサル場合ハ此ノ限ニ在ラス
- 前項ノ場合ニハ所在地、種目、名稱、數量、目的、料金其ノ他必要ナル條件ヲ具シ且圖面ヲ添付シ公用財產ニ在リテハ其ノ用途又ハ目的ヲ妨ケサル事由ヲ記載スヘシ
- 第八條 部局長ハ國有財產ノ貸付ヲ爲シ又ハ使用若ハ收益ヲ爲サシムル契約ヲ爲シタルトキハ之ヲ文部大臣ニ報告スヘシ
- 契約期間滿了シタルトキ又ハ契約ノ解除若ハ取消アリタルトキハ其ノ都度之ヲ文部大臣ニ報告スヘシ
- 第九條 部局長ハ國有財產ノ臺帳ヲ備フヘシ

追條第十號

第十條 大臣官房會計課ハ帝國大學、官立大學並學校及圖書館特別會計ニ屬スル國有財產ノ總括簿ヲ備フヘシ

第十一條 部局長ハ國有財產法施行令第三十三條ノ規定ニ依リ土地及立木竹ノ價格ヲ改定セントスルトキハ文部大臣ノ認可ヲ受クヘシ

前項ノ場合ニ於テハ土地及立木竹ノ所在地、種目、數量、現在價格並改定價格ヲ詳記シタル調査、價格算定調査及圖面ヲ添付スヘシ

第十二條 部局長ハ文部大臣ヲ經由シ國有財產法施行令第三十五條及大正十一年三月會計検査院達第一號計算證明規程第六十九條ノ規定ニ依リ國有財產増減計算書及證書類ヲ會計検査院ニ送付スヘシ

第十三條 部局長ハ前年度間ニ於ケル國有財產増減報告書ヲ調製シ毎年五月三十一日迄ニ之ヲ文部大臣ニ提出スヘシ

第十四條 部局長ハ每五年三月三十一日現在ニ於ケル國有財產現在額報告書ヲ調製シ其ノ年六月三十日迄ニ之ヲ文部大臣ニ提出スヘシ

第十五條 大正十一年二月大藏省令第十四號國有財產法施行規則第五條ノ規定ハ前二條ノ報告書ニ關シ之ヲ準用ス

第十六條 部局長ハ便宜區域ヲ定メ部下ノ職員中ヨリ國有財產ノ監守者ヲ命スヘシ

監守者ノ官職氏名及監守區域ハ任免ノ都度之ヲ文部大臣ニ報

告スヘシ

第十七條 部局長ハ監守者ヲ指揮監督シテ國有財產ノ保存利用其ノ他管理上必要ナル事項ヲ處理スヘシ

附 則

本規程ハ大正十一年度ヨリ之ヲ施行ス

明治三十七年文部省訓令帝國大學並學校及圖書館資金所屬不動產管理規程ハ之ヲ廢止ス

- 注意 一 土地、建物等ヲ資金所屬ノ不動產トシテ取扱フ方法ハ特別會計ノ資金部ニ掲載シ在ルヲ以テ参照スルヲ要ス
- 二 資金(不動產)關係ト國有財產關係トハ整理方法トシテ二途ニ出ツルモ其ノ實同一ノ關係ニ在ルヲ以テ資金(不動產)ノ部ハ常ニ詳細参照スルヲ要ス

文部省所管一般會計所屬國有財產管理規程

昭和六年五月  
文部省訓令第十八號

第一條 本規程ニ於テ部局ト稱スルハ大臣官房會計課、氣象臺、緯度觀測所、測地學委員會、東京科學博物館、帝國學士院、體育研究所ヲ謂フ

第二條 文部省所管一般會計所屬國有財產ニシテ各部局所屬ノモノハ當該部局長之ヲ管理スヘシ

第三條 部局長ハ左ニ掲ケル場合ニ於テハ文部大臣ノ認可ヲ受クヘシ



一、土地ノ用途ヲ變更セムトスルトキ  
 二、土地ノ買入又ハ交換ヲ爲シ若ハ寄附ヲ受ケムトスルトキ  
 三、地上權、地役權、鋪業權、砂鑛權其ノ他之ニ準スヘキ權  
 利ヲ取得セムトスルトキ

四、建物ヲ買入レ又ハ寄附ヲ受ケムトスルトキ  
 五、建物ヲ移轉セムトスルトキ  
 六、移築、改築其ノ他ノ理由ニ依リ建物ノ取毀ヲ爲サムトス  
 ルトキ

前項ノ稟請書ニハ事由、用途、名稱、種目、所在、所屬口座  
 名、數量、價格、經費及支出科目其ノ他必要ナル事項ヲ具シ  
 圖面ヲ添付スヘシ

**第四條** 部局長公用財產ノ用途ヲ廢止セムトスルトキハ文部大  
 臣ニ稟請スヘシ但シ臺帳價格千圓ヲ超ユル工作物ノ取毀ヲ爲  
 サムトスルトキハ豫メ文部大臣ニ用途廢止ノ報告ヲ爲シ部局  
 長限リ之ヲ處分スヘシ立木竹ノ内庭木其ノ他材積ヲ基準トシ  
 テ算定シ難キ樹木及臺帳價格千圓以下ノ工作物ノ取毀ヲ爲サ  
 ムトスルトキハ豫メ所轄稅務監督局長ニ用途廢止ノ通知ヲ爲  
 シ部局長限リ之ヲ處分スヘシ

前項ノ稟請書ニハ事由、名稱、種目、所在、所屬口座名、數  
 量、價格、用途廢止ノ時期其ノ他必要ナル事項ヲ具シ圖面ヲ  
 添付スヘシ

**第五條** 部局長國有財產ノ管理換又ハ部局間ニ於テ所屬換ヲ受

**第十條** 部局長ハ國有財產ノ臺帳ヲ備フヘシ

大臣官房會計課長ハ國有財產ノ總括簿ヲ備フヘシ

**第十一條** 部局長ハ國有財產法施行令第三十三條ノ規定ニ依リ  
 土地及立木竹ノ價格ヲ改定セムトスルトキハ文部大臣ノ認可  
 ヲ受クヘシ

前項ノ稟請書ニハ土地及立木竹ノ所在、所屬口座名、種目、  
 數量、現在價格並改定價格ヲ詳記シタル調査書、價格算定調査  
 書及圖面ヲ添付スヘシ

**第十二條** 部局長ハ文部大臣ヲ經由シ國有財產法施行令第三十  
 五條及計算證明規程第六十九條ノ規定ニ依ル國有財產増減計  
 算書及證書類ヲ會計検査院ニ送附スヘシ

**第十三條** 部局長ハ前年度間ニ於ケル國有財產増減報告書ヲ調  
 製シ毎年五月三十一日迄ニ之ヲ文部大臣ニ提出スヘシ

**第十四條** 部局長ハ每五年三月三十一日現在ニ於ケル國有財產  
 現在額報告書ヲ調製シ其ノ年六月三十日迄ニ之ヲ文部大臣ニ  
 提出スヘシ

**第十五條** 國有財產法施行規則第五條ノ規定ハ前二條ノ報告書  
 ニ關シ之ヲ準用ス

**第十六條** 部局長ハ部下ノ職員中ヨリ國有財產ノ監守者ヲ命ジ  
 區域ヲ定メ之ヲ監守セシムヘシ

附 則

本規程ハ昭和六年度ヨリ施行ス

ケムトスルトキハ文部大臣ニ稟請スヘシ但シ公用財產ヲ公共  
 用財產ト爲スタメ又ハ公共用財產ヲ公用財產ト爲スタメノ管  
 理換ニ付テハ部局長ニ於テ内務省當該部局長並所轄稅務監督  
 局長ト協議ヲ爲シ之ヲ處理スヘシ

前項ノ稟請書ニハ第三條第二項ノ事項ヲ具シ當該管理廳ノ内  
 諾書及圖面ヲ添付スヘシ

**第六條** 部局長ハ國有財產ニ増減異動ヲ生シタルトキハ直チニ  
 名稱、所屬口座名及國有財產法施行令第三十一條各號ノ事項  
 ヲ具シ之ヲ文部大臣ニ報告スヘシ

**第七條** 部局長ハ國有財產ノ境界査定ヲ施行セムトスルトキハ  
 豫メ之ヲ文部大臣ニ報告スヘシ

境界査定ヲ了シタルトキハ詳細ノ事項ヲ具シ圖面ヲ添付シ之  
 ヲ文部大臣ニ報告スヘシ

**第八條** 部局長ハ國有財產ノ貸付ヲ爲シ又ハ使用若ハ收益ヲ爲  
 サシメムトスルトキハ文部大臣ノ認可ヲ受クヘシ但シ其ノ期  
 間一月ヲ超エサル場合ハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ稟請書ニハ所在地、所屬口座名、種目、名稱、數量、  
 目的、料金、公用財產タル用途又ハ目的ヲ妨ケサル事由其ノ  
 他必要ナル條件ヲ具シ圖面ヲ添付スヘシ

**第九條** 部局長ハ國有財產ノ貸付ヲ爲シ又ハ使用若ハ收益ヲ爲  
 サシメタルトキハ遲滞ナク之ヲ文部大臣ニ報告スヘシ期間滿  
 了シタルトキ又ハ解除若ハ取消アリタルトキ亦同シ

●史蹟名勝天然紀念物ニ指定セラレタ  
 ル文部省所管國有財產管理規程

昭和四年十一月  
 文部省訓令第二十二號

**第一條** 史蹟名勝天然紀念物ニ指定セラレタル文部省所管國有  
 財產ニ關スル事務ハ府縣ニ在リテハ府縣知事北海道廳ニ在リ  
 テハ北海道廳長官之ヲ管理スヘシ

**第二條** 前條ノ管理ニ付テハ他ニ別段ノ定メナキ限り大學並學  
 校及圖書館特別會計所屬國有財產管理規程ヲ準用ス

附 則

本規程ハ昭和四年度ヨリ之ヲ施行ス

●史蹟名勝天然紀念物保存法ニ依リ國  
 有地ヲ指定セムトスル場合ハ大藏省  
 へ協議スルノ件

大正十三年十月九日藏理一六〇五  
 一號大藏次官ヨリ内務次官へ照會  
 同年十二月二十五日内務次官回答

(照會)



從來史蹟名勝天然紀念物調査會ニハ當省ヨリモ臨時委員調査  
審議ニ相加ハリ處理致來リ候處今同調査會ハ廢止セラレ候ニ  
付テハ將來國有地ヲ史蹟名勝天然紀念物ニ指定セラレ、場合  
ニハ豫メ御協議ヲ受クル事ニ致度比段及照會候也

(回答)

史蹟名勝天然紀念物保存法ニヨリ貴省所管ノ國有地指定ノ場  
合ハ本月九日藏理一六〇五一號御照會ノ趣ニ依リ御意見ヲ伺  
フ事ト可致候

●史蹟名勝天然紀念物保存法ニ依ル指

定地ノ管理換手續ニ關スル件

大正十二年十二月十一日國有財產整理局長照會  
同年十二月十四日內務大臣官房地理課長回答

大正七年四月十日法律第四十四號ニ依リ史蹟名勝天然紀念物ニ  
指定セラレ內務大臣ニ於テ管理セラレヘキ本省所管雜種財產ノ  
管理換ニ付テハ貴省ノ通知ヲ俟チテ引繼手續ヲ爲スコトニ取扱  
度候條此段及協議候也

本月十一日藏理第一三六二四號ヲ以テ御協議ノ件史蹟名勝天然紀  
念物保存法ニ依リ指定ヲ爲シタルトキハ官報ヲ以テ其ノ地域ヲ  
告示致候ヘ共念ノ爲御協議ノ通り貴省ヘ通知致スヘク候間之ニ  
依リ部局長ヘ引渡方御取扱相成度

●建物引渡其他國有財產増減報告等ニ  
關スル件

大正十二年三月四日  
發會七八號會計課長通牒

本省ヨリ工事落成引渡ヲ受ケタル場合其ノ領收書ニハ土地種目  
及建物番號等記入ノ上御送付相成度旨大正十一年七月五日付發  
會第二二九號ヲ以テ申進メ置キタルモ往々右記載ヲ脱漏スル向  
モ有之尙大學並學校及圖書館特別會計所屬國有財產管理規程第  
五條ニ依リ増減異動報告ヲナス場合延坪口座名等ヲ脱漏シ又ハ  
國有財產ノ處分買入等認可濟ノモノニ對シ實行濟報告ノ遅延シ  
或ハ全然之ヲナササル向モ有之整理上差支ヲ生スルニ依リ今後  
ハ右脱漏報告洩等無之様一層御注意相成度此段申進ム

●外濠埋立ニ關スル件

大正十三年六月九日發一二三號  
內務大臣官房地理課長ヨリ復興局長官ヘ照會

舊江戸城廓外濠中四谷見附埋立ノ件ニ關シ東京府ヨリ具申並管  
理換協議等ノ書類ヲ目下貴局ニ於テ御處理中ナルヤニ聞及候處  
外濠ノ埋立ニ就テハ大正九年中內務次官ヨリ別紙寫ノ通東京府  
知事ヘ通牒ノ次第モ之アリ舊態ヲ保存スルノ必要アルモノト認  
メ候間右趣旨御含ミノ上御處理相成候様致度候

●史蹟名勝天然紀念物ノ所屬地ヨリ生  
スル收益ノ所得ニ關スル件

大正十四年四月四日長崎縣知事照會  
同年四月十一日內務大臣官房地理課長回答

史蹟シールポルト宅趾ニハ孟宗竹ノ生育アリテ其ノ季節ニ至レハ  
相當筍發生有之候ニ付テハ史蹟名勝天然紀念物保存法施行令第  
六條ニ依リ當該管理者ニ於テ適宜處分致シ差支無之哉至急御回  
示相煩度此段及照會候也

本月四日十三兵社第四〇〇號ヲ以テ御照會ニ係ル標記ノ件ハ左  
記ノ通御了知相成度

記

- 一 民有地ニ生スル分ハ所有者又ハ其ノ他權利者ヲシテ適度ニ  
取得セシムヘク又國有地ニ生スル分ニ在リテモ其ノ收益ヲ管  
理者ノ所得トナスニハ史蹟名勝天然紀念物保存法施行令第六  
條ニ依リ內務大臣ノ指令アルコトヲ要スル次第ニ有之候
- 二 右指令ヲ受ケムトスル場合ハ當該地ヨリ生スル收益見込額  
及其ノ使途並本年度管理費豫算決議書ヲ具シ申出シメラレ度  
候

●朝鮮、臺灣、樺太及關東州ニ於ケル  
國有財產ノ取扱方ニ關スル件

大正十一年三月二十九日藏三三四七號大藏次  
官照會同年四月十三日官會一五五號次官通牒

朝鮮、臺灣、樺太及關東州ニ於ケル國有財產ノ取扱方ニ關シ大  
藏次官ヨリ別紙寫ノ通照會有之タルニ付右様御了知相成度此段  
通牒ス

(別紙寫)

國有財產法ハ本年四月一日ヨリ朝鮮、臺灣及樺太ニモ之ヲ施行  
シ又關東州ニハ別ニ單行勅令制定ノ見込ニテ夫々拓殖局ト協議  
中ニ有之候處尙調査ヲナスノ必要有之到底豫定ノ通り實施相成  
難ク認メラレ候ニ付テハ該地方所在ノ國有財產ニシテ朝鮮、臺  
灣各總督府樺太廳及關東廳ノ所屬ニアラサルモノハ本年四月一  
日以降手續ヲ了スルニ至ル迄ノ間國有財產法令ノ規定ニ依リ  
御取扱相成候様致度此段及照會候也

●火災其他災害ニ因ル國有財產増減異  
動報告ノ件

昭和十一年五月二十九日  
發會一九〇號會計課長通牒

從來火災其他災害ノ爲國有財產ニ損害アリタル場合ハ大學並學  
校及圖書館特別會計所屬國有財產管理規程第五條及文部省所管



一般會計所屬國有財產管理規程第六條ニ依リ報告有之タル處爾今該報告書ニハ災害ニ關スル詳細ナル頭末書添付相成度

右ニ依リ御報告相成ル場合ハ大學並學校及圖書館特別會計所屬國有財產管理規程第五條ニ依ル異動報告ハ之ヲ省略シ差支無之ニ付右様御了知相成度依命此段通牒ス  
注意 別紙訓令ハ昭和五年三月一日文訓新營工事施行方ノ件

●本省ニ於テ施行ノ工事ニ件ヒ既設建物等ニ異動ヲ生スル場合ノ取扱方ノ件

昭和九年五月二十五日  
發會一八八號會計課長通牒

從來本省ニ於テ施行スル工事ニ件ヒ貴官管理ニ屬スル土地ノ用途變更又ハ既設建物ノ移轉、移築及取毀等ヲ要スル場合往々之カ手續無之向モ有之タル處斯クテハ整理上支障尠カラサルニ付爾今右ノ場合ニ於テハ大學並學校及圖書館特別會計(文部省所管一般會計)所屬國有財產管理規程第三條ニ依リ事前ニ於テ遺漏ナク御手續相成様致度依命此段通牒ス

●大學並學校及圖書館特別會計所屬國有財產管理規程第五條ニ依ル異動報告ニ關スル件

昭和五年三月一日  
會計課長通牒

新營工事施行方ノ件ニ關シ本日別紙ノ通訓令相成タルニ付テハ

●國有財產管理換方手續省略ノ件

大正十三年二月二十日  
藏三〇五號大藏大臣回答

疊ニ河川、堤塘、溝渠等公共用財產ヲ公用財產ト爲ス爲又公用財產ヲ河川、堤塘、溝渠等公共用財產ト爲ス爲之カ管理換ヲ爲

サムトスル場合ニ於テハ各省部局長ト所轄稅務監督局長トノ協議ヲ以テ國有財產法施行令第三條ノ手續ヲ了ルコトニ取扱ヒタキ件ニ付御協議相成候處右ハ異存無之候此段及回答候也

●國有林野等管理換ノ協議ヲ受ケタル場合處理方

昭和三年四月  
大藏省訓令第六號

昭和十一年  
一〇號改正  
稅務監督局

- 左記事項ニ付テハ調査ノ上其ノ局限リ處理スヘシ
- 一 內務省部局長ヨリ農林省所管國有林野ヲ公共用財產ト爲ス爲管理換ノ協議ヲ受ケタルトキ
- 二 營林局長ヨリ內務省所管公共用財產若ハ神社ノ用ニ供スル公用財產ヲ營林財產ト爲ス爲管理換ノ協議ヲ受ケタルトキ
- 三 內務省部局長ヨリ農林省所管國有林野ヲ神社ノ用ニ供スル公用財產トナス爲管理換ノ協議ヲ受ケタルトキ
- 四 內務省部局長ヨリ神社ノ用ニ供スルノ目的ヲ以テ土地ノ寄附受納ニ付協議ヲ受ケタルトキ
- 五 各省部局長ヨリ內務省所管公共用財產ヲ公用財產ト爲ス

- 爲管理換ノ協議ヲ受ケタルトキ
- 六 內務省部局長ヨリ各省所管公用財產ヲ公共用財產ト爲ス爲管理換ノ協議ヲ受ケタルトキ
- 七 內務省部局長ヨリ公共用財產ノ用途ヲ廢止シ之ヲ公用財產ト爲ス爲又公用財產ノ用途ヲ廢止シ之ヲ公共用財產ト爲ス爲之カ引繼ヲ爲ササルコトノ協議ヲ受ケタルトキ
- 八 內務省部局長ヨリ神社用地又ハ公共用財產タル土地ノ用途ヲ廢止シ之ヲ神社用地又ハ公共用財產ト爲スノ必要アル他ノ民有地ト交換ヲ爲サムトスル場合ノ協議ヲ受ケタルトキ
- 九 各省部局長ヨリ立木竹ノ內庭木其他材積ヲ基準トシテ算定シ難キ樹木及工作中臺帳價格千圓以下ノモノニツキ取毀ノ目的ヲ以テ用途廢止ヲナサムトスル場合ニ於テ之カ用途廢止ニ付事前ノ通知ヲ受ケタルトキ
- 十 營林局長又ハ北海道廳長官ヨリ營林財產タル建物及工作中臺帳價格千圓以下ノモノノ目的廢止ヲ爲サムトスル場合ノ協議ヲ受ケタルトキ
- 十一 北海道廳長官ヨリ營林財產ヲ公共用財產ト爲ス爲營林財產ノ目的廢止ノ協議ヲ受ケタルトキ
- 十二 北海道廳長官ヨリ營林財產ト爲ス爲公共用財產ノ用途ヲ廢止スルモ之カ引繼ヲ爲ササルコトノ協議ヲ受ケタルトキ



十三 內務省部長ヨリ大藏省所管雜種財産中帳臺價格一〇〇圓以下ノモノヲ公共用財産ト爲ス爲管理換ノ協議ヲ受ケタルトキ

● 內務省所管國有財産取扱規程

大正十一年六月 昭五五年  
內務省訓令第十號抄 五號改正

(第三條)左ニ掲クル事項ハ部局長限リ之ヲ處理スヘシ

- 一 國有財産ノ管理ニ關スル事項
- 二 公用財産ノ一時使用許可ニ關スル事項
- 三 公用財産タル土地ノ用途變更ニシテ大藏大臣ノ定メタルモノニ該當セサルモノ、其ノ異動面積百坪ヲ超エサルモノ、相續スル兩敷地區域ノ相互變更面積カ其ノ敷地ノ一割ヲ超エサルモノノ用途ヲ變更スル事項
- 四 國有財産法施行令第一條第一項第二號ノ從物ヲ主物ヨリ分離シ公用財産タル用途ヲ廢止スル事項
- 五 公共用財産ト爲ス爲土地ノ買入、收用若ハ寄附受納ヲ爲ス事項
- 六 公共用財産ノ使用又ハ收益ヲナサシムル事項
- 七 公共用財産ノ用途ヲ變更スル事項
- 八 公共用財産及神社用ニ供スル公用財産ノ用途ヲ廢止シ之ヲ大藏省所管ニ引繼ヲナス事項
- 九 公共用財産ヲ公用財産ト爲ス爲他省所管ニ管理換ヲ爲ス事項
- 十 公共用財産若ハ神社ノ用ニ供スル公用財産ヲ營林財産ト爲ス爲農林省所管ニ管理換ヲ爲ス事項

十一 史蹟、名勝、天然紀念物ニ指定セラレタル財産ヲ他省ヨリ引繼ヲ受ケ若ハ所有者ヨリ寄附ヲ受納スル事項

十二 他省所管ノ公用財産ヲ公共用財産ト爲ス爲管理換ヲ受クル事項

十三 農林省所管ノ國有林野ヲ公共用財産ト爲ス爲又ハ神社上地ノ農林省所管國有林野ヲ神社ノ用ニ供スル公用財産ト爲ス爲管理換ヲ受クル事項

十四 神社ノ用ニ供スル爲土地ノ寄附ヲ受納スル事項

十五 神社用地又ハ公共用財産タル土地ノ用途ヲ廢止シ之ヲ神社用地又ハ公共用財産ト爲スノ必要アル民有地ト交換スル事項

十六 公用財産ノ用途ヲ廢止シ之ヲ公共用財産ト爲ス爲又ハ公共用財産ノ用途ヲ廢止シ之ヲ公用財産ト爲ス爲大藏省所管ニ引繼ヲ爲ササル事項

十七 公用財産タル立木竹中庭木其他材積ヲ基準トシテ算定シ難キモノ及工作物中臺帳價格千圓以下ノモノニ付取毀ノ目的ヲ以テ用途廢止ヲ爲ス事項

前項第十二號及第十三號ノ場合ニ於テハ各省關係部局長及所轄稅務監督局長ニ、第十四號乃至第十六號ノ場合ニ於テハ所轄稅務監督局長ニ協議シ第十七號ノ場合ニ於テハ所轄稅務監督局長事前通知ヲナスヘシ

注意 本規程ニ於ケル部局長左ノ如シ(規程第二條)

五三七







- スマテハ建築課出張所長ニ於テ監守スヘキコト
- 二 前項ノ引渡後ニ施行シタル附帶工事ニ付テハ全部完成ノ上之ヲ當該部局ニ通知スルコト
- 三 改築又ハ移築ノタメ取毀チタル建物、工作物及移轉ノ建物、工作物ハ落成調書ニ朱記シ且平面圖ニ其ノ新舊位置ヲ示スコト
- 四 部局ヨリ徵スル受領書ハ建築課ヲ經テ會計課ニ引繼クヘキコト且平面圖一葉ヲ添附スルコト
- 五 豫算ニ於テ定メタル一費目ノ工事全部完成シタルトキハ建築課ハ落成頭末調書並ニ百分一詳細平面圖ヲ添ヘテ之ヲ上申スルコト

落成調書		落成調書		落成調書		落成調書		落成調書	
所在地	土地種目	建物種目	名稱	構造	數量	價格	竣工	備考	
何市何町	校舎事務	講堂	木造	二階	延坪	...	...	...	...
何番地敷地	敷地	講堂	木造	二階	延坪	...	...	...	...
同	同	同	同	同	同	...	...	...	...
同	同	同	同	同	同	...	...	...	...

●工事落成引渡ニ對スル領收書ノ件

大正十一年七月五日  
發會二二九號會計課長通牒

本省ヨリ工事落成引渡ニ對スル領收書ニハ爾今土地種目及建物等番號ヲ記入ノ上御回付相成度此段通牒ス

●公用財産用途廢止ノ場合ニ於テ引繼ヲ爲ササル件

大正十一年五月二十七日  
官會三二九號文部大臣照會

國有財産法施行令第二條第一項ノ規定ニ依リ當省所管ニ係ル公用財産ノ用途廢止ニシテ左記ノ場合ニハ單ニ事前ノ通知ニ止メ之カ引繼ヲ爲ササルコトニ致度此段御協議ス(大藏大臣宛)

- 一 國有財産法施行地外ニ在ル財産
- 二 建物又ハ工作物ニシテ取毀ノ目的ヲ以テ其ノ用途ヲ廢止スルモノ

右ニ對シ異存無之旨回答アリタリ(大正十一年六月二日)  
(藏六〇五八號大藏大臣回答)

●工作物用途廢止ノ場合ニ於ケル取扱方ノ件

昭和三年五月八日  
官會八三號會計課長移牒

本年四月二十一日付藏管第九二七號ヲ以テ大藏大臣ヨリ別紙ノ通り通牒アリタルニ付移牒ス

藏管第九二七號  
昭和三年四月二十一日  
大藏大臣ヨリ文部大臣宛通牒

今般内務省ヨリ公用財産タル立木竹(但土地ト共ニ其ノ用途ヲ廢止シタル場合ヲ除ク)及工作物用途廢止ノ場合ニ於ケル取扱方ニ付協議有之候處右ニ付テハ「立木竹ノ内庭木其他材積ヲ基準トシテ算定シ難キ樹木及工作物中臺帳價格千圓以下ノ工作物ニ付取毀ノ目的ヲ以テ用途廢止ヲ爲サムトスル場合ニ於テハ各省部局長ヨリ所轄稅務監督局長ニ對シ事前ノ通知ヲ爲シ以テ國有財産法施行令第二條第一項ノ手續ヲ了スルコト」ニ決定致候條今後貴省ニ於テ右公用財産ニ付用途廢止ヲ爲サムトスル場合ニ於テハ右ニ依リ御取扱相成度此段及通牒候也

追テ右工作物ノ用途廢止ハ曩ニ貴省ト協定濟ニ係ル取毀ノ目的ヲ以テ其ノ用途ヲ廢止スル場合ノモノニシテ其ノ内臺帳價格千圓以下ノ工作物ニ付テハ貴省部局長ヨリ所轄稅務監督局長ニ對シ單ニ事前ノ通知ニ止メ之カ引繼ヲ爲ササル儀ニ付御了知相成度爲念申添候

●公用財産タル土地ノ用途變更手續ニ關スル件

大正十四年十二月四日  
發會四二二號會計課長通牒

公用財産タル土地ノ用途變更ヲ要スルモノニシテ從來官舎等建設ノ場合往々之カ手續ヲ爲サスニテ實行ニ着手スル向有之モ右ハ國有財産法施行令第四條第一號ノ規定モアリ其ノ他整理上支

障ヲ生スルヲ以テ爾後ハ建物、工作物等ノ建設實行ニ着手以前ニ於テ大學並學校及圖書館特別會計所屬國有財産管理規程第三條第二號ニ依リ文部大臣ノ認可ヲ經ラルル様御留意相成度、尤モ官舎ト應合其他トカ敷地ヲ共通スル場合ニ於テ相互ニ區分スルコト困難ナルトキハ事情ヲ具シテ御打合ノ上御處理相成可然此段通牒ス

備考  
一般會計所屬部局長ニ對シテモ同趣旨ノ通牒ヲ爲セリ

●公用財産中整理ノ爲其ノ用途ヲ廢止セムトスル場合ニ於ケル處分方ノ件

大正十二年八月二十四日  
官會三〇八號會計課長移牒

公用財産中整理ノ爲其ノ用途ヲ廢止セムトスル場合ニ於ケル處分方ニ關シ大藏省ヨリ別紙寫ノ通り照會有之タルニ付右御承知置相成度爲念通牒ス

(別紙寫)

公用財産中整理ノ爲其ノ用途ヲ廢止セムトスル場合ニ於テ往々公共團體其ノ他ト豫メ之カ處分ニ付交渉セラルル向有之候處右處分ハ引受後當省ニ於テ爲スヘキ筋合ニ有之且往々相手方ノ誤解ヲ生シ支障ヲ來ス場合モ有之候ニ付テハ今後此ノ如キコト無之様致度若シ特別ノ事情ニ依リ財産ノ處分ニ付豫メ公共團體其



ノ他ト内交渉ヲ遂クルノ必要アル場合ニ於テハ一應當省ニ御内  
議相成様致度此段及照會候也(大正十二年八月十八日藏七二〇  
五號大藏次官通牒)

●官舎貸渡規則

明治九年五月十五日 明治一〇年  
第五三三號 公達 八七號改正

七年七月第九十三號、八年五月第八十八號達ヲ廢シ更ニ官舎貸  
渡規則別紙ノ通相設候條從來ノ官舎或ハ官廳附屬ノ家屋等貸渡  
候向ハ本年一月一日ヨリ宿代取立大藏省へ可相納尤元金建坪等  
取調ノ儀院省(使)ハ大藏省廳府縣ハ内務省へ申出ツヘシ  
但借地料ノ儀ハ八年第百十四號布告官有地第二種但書ノ通相  
心得ヘシ

參考 明治八年第百十四號布告官有地第二種但書ハ左ノ如シ  
但此ノ地ニ在ル官舎ヲ貸渡ストキハ借地料ヲ賦スヘシ

(別紙)

官舎貸渡規則

第一條 官舎貸渡ス時ハ毎月宿代取立ツヘシ

但シ獄舎(懲役場)倉庫定番見張番等並鐵道各驛長各所燈明番  
等ハ此ノ限ニアラス其ノ他公務ノ都合ヲ以テ官舎貸渡ス者ト  
雖宿代取立ルハ勿論ナレ共該官舎ノ内公用私用ニ供スル間  
席ヲ區劃シタル向ハ其ノ私用ニ供スル間席ノミ宿代取立ツヘ

シ

第二條 宿代ハ元金ノ八分ヨリ一割迄ヲ制限トシ適宜斟酌シテ  
取立ツヘシ(右取立高ノ内七分ハ上納三分ハ其ノ廳ニ備置修  
繕費ニ充ツヘシ)

第三條 官舎新營ノ分ハ其ノ建築費ノ總額古家作ノ分ハ買上値  
段或ハ當時賣買スヘキ値段ヲ以テ滿三年間ノ元金ト定メ爾後  
滿三年毎ニ一旦評價セシメテ元金ヲ改ムヘシ自今新營或ハ買  
上ノ年度ヨリ既ニ滿三年ヲ過ルモノハ此ノ節一旦評價セシメ  
テ元金ヲ改ムヘシ但新營ノ分元金ハ石礎入費ヨリ計算スヘシ  
且貸渡ノ節修繕ノ分ハ其ノ費額ヲ元金ニ加ヘ爾後修繕ノ費額  
ハ加ヘサルヘシ

第四條 宿代ハ年ヲ以テ計算スヘシト雖取立方ハ月割タルヘシ  
但シ十六日以後ニ貸渡シタル時又ハ十五日以前ニ返却シタル  
時ハ半月分取立ヘシ

第五條 宿代上納方ハ三ヶ月毎ニ取調修繕費遺拂ノ分ハ毎年六  
月迄ニ精算帳差出シ殘金アラハ後日ノ費用ニ充置スヘシ

第六條 官舎外廻リ雨漏又ハ臨時大破ノ外一切ノ修繕ハ自費タ  
ルヘシ

第七條 拜借人自費建増等願出ル時ハ實地検査ノ差支ナキ分ハ  
允許スヘシ

第八條 拜借人交換ノ節ハ篤ト検査ヲ遂ケ若シ毀損スル所アル  
カ又ハ附屬品等不足スル時ハ辨償セシムヘシ但自費建増等ノ

存廢ハ新舊拜借人ノ示談ニ任スヘシ

參照 官舎障子紙ノ張替ハ自費ヲ以テ支辨スヘシ(明治三十五年十一月  
五日文部次官裁定)

●官舎貸渡内規

明治二十一年十二月二  
十二日 内閣通達

改正通達年  
月日ハ略之

明治九年太政官達第五十三號官舎貸渡規則ノ不完全ナルニヨリ  
管理上不都合不尠ニ付今般別紙ノ通内規ヲ定メ其ノ足ラサル所  
ヲ補ヒ明治二十二年一月一日以降之ヲ施行ス依テ此ノ意ヲ諒セ  
ラルヘシ

官舎貸渡内規

第一條 別表ニ掲タル所ノ官吏ハ官舎ニ居住スヘキモノトス  
但シ公務上差支ナキ者ハ所屬長官ノ意見ニ由リ又ハ其ノ認許  
ヲ經テ官舎ニ居住セサルモ妨ナシ

第二條 官舎相當ノ建具、疊、敷物、窓掛、煖爐、通信器、點火  
器及對客室必要ノ椅卓ニ限り官費ヲ以テ之ヲ設クルモノトス  
但シ大臣ノ官舎ニ限リ以上物品ノ外接客用飲食器、接客室ニ  
備フル所ノ花瓶、書棚、物置臺、鏡、時計ハ官費ヲ以テ之ヲ  
設ケ且ツ公用室、客室及館外ノ點火竝公用室ノ石炭ハ官費供  
用スルコトヲ得

第三條 官舎及官舎附屬ノ建物物品等ノ保存上必用ナル手入ハ  
一切居住人ノ自費トシ天災若クハ自然ノ腐朽ニ由リ修繕ヲ加  
フルコトヲ必要トスル時ハ官費ヲ以テ支辨ス

通達第十一號

存廢ハ新舊拜借人ノ示談ニ任スヘシ

參照 官舎障子紙ノ張替ハ自費ヲ以テ支辨スヘシ(明治三十五年十一月  
五日文部次官裁定)

●官舎貸渡内規

明治二十一年十二月二  
十二日 内閣通達

改正通達年  
月日ハ略之

明治九年太政官達第五十三號官舎貸渡規則ノ不完全ナルニヨリ  
管理上不都合不尠ニ付今般別紙ノ通内規ヲ定メ其ノ足ラサル所  
ヲ補ヒ明治二十二年一月一日以降之ヲ施行ス依テ此ノ意ヲ諒セ  
ラルヘシ

官舎貸渡内規

第一條 別表ニ掲タル所ノ官吏ハ官舎ニ居住スヘキモノトス  
但シ公務上差支ナキ者ハ所屬長官ノ意見ニ由リ又ハ其ノ認許  
ヲ經テ官舎ニ居住セサルモ妨ナシ

第二條 官舎相當ノ建具、疊、敷物、窓掛、煖爐、通信器、點火  
器及對客室必要ノ椅卓ニ限り官費ヲ以テ之ヲ設クルモノトス  
但シ大臣ノ官舎ニ限リ以上物品ノ外接客用飲食器、接客室ニ  
備フル所ノ花瓶、書棚、物置臺、鏡、時計ハ官費ヲ以テ之ヲ  
設ケ且ツ公用室、客室及館外ノ點火竝公用室ノ石炭ハ官費供  
用スルコトヲ得

第三條 官舎及官舎附屬ノ建物物品等ノ保存上必用ナル手入ハ  
一切居住人ノ自費トシ天災若クハ自然ノ腐朽ニ由リ修繕ヲ加  
フルコトヲ必要トスル時ハ官費ヲ以テ支辨ス

第四條 官舎居住人ノ不注意ニ因リ官舎及其ノ附屬ノ物品ヲ毀  
損シタルトキハ自費ヲ以テ支辨セシム

第五條 各廳ノ便宜ニ由リ其ノ長官ニ於テ別表外ノ官吏ヲ官舎  
ニ居住セシムル時ハ總テ官舎貸渡規則ニ據ルヘキモノトス

(別表)

- 總理大臣
- 各省大臣
- 内閣書記官長
- 内閣書記官ノ内一名若クハ二名
- 法制局長官
- 印刷局長若クハ印刷局事務官ノ内一名
- 樞密院議長
- 樞密院書記官長
- 樞密院書記官ノ内一名
- 樞密院秘書官
- 大臣秘書官
- 外務次官
- 外務大臣官房電信課、文書課、人事課又ハ會計課ノ職員ノ内  
職務ニ由リ外務大臣ニ於テ特ニ官舎居住ヲ命スル者
- 内務次官
- 内務大臣官房秘書課、文書課又ハ會計課職員ノ内職務ニ由リ  
内務大臣ニ於テ特ニ官舎居住ヲ命スル者



内務省地方局長  
 内務省警保局長  
 内務省警保局長ノ内職務ニ由リ内務大臣ニ於テ特ニ官舎居住ヲ命スル者  
 内務省土木出張所職員ノ内職務ニ由リ内務大臣ニ於テ特ニ官舎居住ヲ命スル者  
 内務省衛生局長  
 (社會局長官明治神宮造營局職員ノ内職務ニ由リ内務大臣ニ於テ特ニ官舎居住ヲ命スル者)  
 國立感化院職員ノ内職務ニ由リ内務大臣ニ於テ特ニ官舎居住ヲ命スル者  
 國立癩療養所職員ノ内職務ニ由リ内務大臣ニ於テ特ニ官舎居住ヲ命スル者  
 衛生試驗所職員ノ内職務ニ由リ内務大臣ニ於テ特ニ官舎居住ヲ命スル者  
 (内務省地理局測候所專務ノ技師及技手)  
 (内閣官報局長若クハ局長)  
 (大藏省、金庫局長若クハ局長)  
 大藏大臣官房臨時建築課出張所職員ノ内職務ニ由リ大藏大臣ニ於テ特ニ官舎居住ヲ命スル者  
 造幣局職員ノ内職務ニ由リ大藏大臣ニ於テ特ニ官舎居住ヲ命スル者

陸軍次官  
 海軍次官  
 陸海軍武官ノ内職務ニ由リ特ニ官舎居住ヲ命スル者  
 陸軍監獄職員ノ内職務ニ由リ陸軍大臣ニ於テ特ニ官舎居住ヲ命スル者  
 司法大臣官房職員課長  
 司法省(各始審裁判所)豫審判事及上席檢事  
 司法大臣ニ於テ指定スル島嶼ニ在勤スル判事檢事及裁判所書記  
 少年審判所及矯正院ノ職員ノ内職務ニ由リ司法大臣ニ於テ特ニ官舎居住ヲ命スル者  
 (内務省)司獄官吏ノ内職務ニ由リ特ニ官舎居住ヲ命スル者  
 文部省直轄各學校圖書館氣象臺緯度觀測所及測地學委員會職員ノ内職務ニ由リ文部大臣ニ於テ特ニ官舎居住ヲ命スル者  
 種牛牧場員ニシテ特ニ官舎居住ヲ命スル者  
 農林大臣ニ於テ特ニ官舎居住ヲ命スル毛皮獸養殖所職員  
 農商務省鳥獸實驗場員ニシテ特ニ官舎居住ヲ命スル者  
 燃料研究所職員ニシテ特ニ官舎居住ヲ命スル者  
 工藝指導所職員ニシテ商工大臣ニ於テ特ニ官舎居住ヲ命スル者  
 鑛害調査ニ従事職員ノ内農商務大臣ニ於テ特ニ官舎居住ヲ命スル者

農商務省(山林局試驗場)詰官吏  
 農商務大臣ニ於テ特ニ官舎居住ヲ命スル食糧局出張所職員  
 農商務大臣ニ於テ特ニ官舎居住ヲ命スル茶業試驗場職員  
 農商務大臣ニ於テ特ニ官舎居住ヲ命スル種羊場職員  
 農林大臣ニ於テ特ニ官舎居住ヲ命スル在青島帝國總領事館附獸疫調査所職員  
 商工大臣ニ於テ特ニ官舎居住ヲ命スル工業試驗所職員  
 農商務大臣ニ於テ特ニ官舎居住ヲ命スル陶磁器試驗所職員  
 農商務大臣ニ於テ特ニ官舎居住ヲ命スル花菴検査所職員  
 小林區署各官舎詰官吏  
 種馬牧場種馬育成所及種馬所員ニシテ特ニ官舎居住ヲ命スル者  
 (製鐵所長官同事務官一名同書記ノ内十五名)  
 (製鐵所職員中特ニ官舎居住ヲ命スル者)  
 水産講習所職員ニシテ特ニ官舎居住ヲ命スル者一名  
 選信次官  
 選信大臣官房秘書課及文書課職員ノ内職務ニ由リ選信大臣ニ於テ特ニ官舎居住ヲ命スル者  
 選信省通信局及經理局職員ノ内職務ニ由リ選信大臣ニ於テ特ニ官舎居住ヲ命スル者  
 貯金支局職員ノ内職務ニ由リ選信大臣ニ於テ特ニ官舎居住ヲ命スル者

航路標識管理所職員ノ内職務ニ由リ選信大臣ニ於テ特ニ官舎居住ヲ命スル者  
 臨時電信電話建設局出張所職員ノ内職務ニ由リ選信大臣ニ於テ特ニ官舎居住ヲ命スル者  
 選信局職員ノ内職務ニ由リ選信大臣ニ於テ特ニ官舎居住ヲ命スル者  
 一、二等郵便局電信局電話局職員ノ内職務ニ由リ選信大臣ニ於テ特ニ官舎居住ヲ命スル者  
 商船學校學生監ノ内二名  
 (鐵道局)各驛長若クハ助役  
 (帝國鐵道總總裁、副總裁)、(工務部長)(運輸部長)(計理部長)管理局長、營業事務所長及(選信大臣ニ於テ指定スル)奏任以下ノ(帝國鐵道廳)職員  
 警視總監(及副總監)  
 警視廳(一等警視以下)並沖繩縣警察官吏ノ内職務ニ由リ特ニ官舎居住ヲ命スル者  
 北海道廳長官府縣知事(警部長)  
 (北海道尋常師範學校長舍監)  
 北海道廳及沖繩縣(司獄官吏及北海道廳鐵道部員ノ内)特ニ官舎居住ヲ命スル者  
 港務部長並内務大臣ニ於テ特ニ官舎居住ヲ命スル港務部職員及海港檢疫所職員



北海道廳府縣職員ノ内賑恤救濟、土木、會計、兵事、産業、拓殖、警察又ハ衛生ニ關シ急務ヲ要スルコトアルヘキ事務又ハ技術ニ従事スル者ニシテ職務ニ由リ内務大臣ニ於テ特ニ官舎居住ヲ命スルモノ

沖繩縣官吏ノ内特ニ官吏居住ヲ命スル者  
其ノ他各廳ノ技術員ニシテ必要アルトキ各廳長官ニ於テ大藏大臣ト協議ノ上官舎居住ヲ命スル者  
帝室費及地方稅經濟ニ屬スル官舎ハ本表ノ外トス

●國有地内官舎敷地料徵收ニ關スル件

昭和十年二月十三日付官會一三號  
會計課長 移牒

國有地内官舎敷地料徵收ニ關スル件ニ關シ大藏次官ヨリ別紙寫ノ通通牒有之タルニ付御了知相成度此段移牒ス

追而官舎貸渡内規別表掲記ニ係ル官吏居住ノ官舎敷地料ニ付テハ徵收ニ及ハサル儀ニ付御了知相成度

(別紙)

昭和六年三月法律第二十八號ニ依リ明治七年太政官布告第二百一十號地所名稱區別ハ廢止セラレタル後ニ於ケル國有地ノ官舎敷地料徵收ノ可否ニ付疑義ヲ生シタル趣ヲ以テ照會シ來レルモノ有之候ヘ共右太政官布告ノ廢止ハ只單ニ從來ノ地所名稱區別及地租條例ヲ綜合統一シタル地租法ノ制定ニ伴フモノニシテ國有地ノ官舎敷地料ニ關シ從來ノ取扱ヲ變更スル意義ハ毫モ存セサ

ルモノナルニ付一般國有財產ノ管理ヲ規定シタル國有財產法ノ精神ニ則リ從來通貨地料ヲ徵收スヘキモノト被存候條御了知相成度此段爲念及御通牒候也

●官舎調書提出方照會ノ件

大正十四年五月十五日  
直照會一號會計課長照會

大正十四年三月三十一日現在貴學(校、臺、等)所屬官舎調左記様式ニ依リ御取調ノ上御送付相成度、尙爾後異動ヲ生シタル場合ニ於テハ其ノ都度左記様式ニヨリ御報告相成度此段照會ス

記

所在地	口座名	官舎名稱	坪數	價	格	義務又ハ有料官舎	貸付料金	居住任命又ハ貸付年月日	居年月日	居住者官氏名	備考

備考

- 一 官舎ハ一棟毎ニ記載スルコト、但シ一棟ニシテ二戸以上ノモノハ區分記載ノコト、官舎ニ附屬物アルトキハ備考欄ニ棟數、坪數、價格ヲ附記スルコト、現ニ居住セサル官舎モ掲上スルコト
- 二 公用、私用ノ間區分ノ官舎ニ付テハ備考欄ニ公用間、私用間坪數ヲ附記スルコト
- 三 官舎敷地圖面中ニ所在地、官舎敷地、坪數、官舎建物、名稱番號、坪數及疊數(外國人官舎ニシテ疊ナキモノハ坪數ノミ)ヲ掲上シタル各棟毎ノ詳細平面圖ヲ添付スルコト

●私設團體事務所設置許可内規ニ關スル件

件

昭和八年八月十六日  
發會二一九號次官裁定

目今本省廳舎ノ一部ヲ私設團體ノ事務所トシテ使用ヲ許可スル場合ハ別紙内規ニ依リ處理致度右仰御裁定

私設團體事務所設置許可内規

第一條 廳舎内ニ於ケル私設團體事務所ノ設置許可ニ關シテハ本内規ニ定ムル手續ニ依ル

第二條 私設團體事務所ノ設置ヲ必要ト認ムル部局長ハ其ノ理由ヲ具シ文書課長ニ部局長會議ノ開會ヲ請求スヘシ

第三條 設置ノ許否ハ部局長會議ヲ經テ次官之ヲ決定ス

第四條 許可ノ事務的手續ハ文書課長之ヲ發案シ會計課長及第二條ノ部局長ノ合議ヲ經テ次官ノ決裁ヲ經ヘシ

第五條 既ニ設置ヲ許可シタル私設團體ノ事務所ニシテ廳舎内ニ存在セシムルヲ不當ナリト認ムルトキハ部局長會議ヲ經テ次官其ノ許可ヲ取消スモノトス

第六條 本内規ニ於テ私設團體トイフハ本省員ノミヨリ成リ專任職員ヲ有セサル團體ヲモ包含ス

第七條 廳舎内ニ存在スル私設團體事務所ニ關スル事務ハ文書課長ヲ主管課長トシ會計課長及私設團體ノ事業ヲ監督スル部局長ノ合議ヲ經テ之ヲ行フモノトス



附 則

本内規ハ昭和八年八月一日ヨリ之ヲ施行ス

●不動産増減報告ノ件

大正十年五月十一日  
發會四七號會計課長通牒

建築工事ニシテ竣工ノモノ若クハ買入交換寄附等ノ不動産ニシテ受授済ノモノ其ノ他不動産ニ増減異動ヲ生シタル場合ニハ其ノ都度(價格ニ付精算未済ノ)直ニ御報告相成度從テ當該年度内ニ竣工ノモノ其ノ他異動ノ不動産ハ其ノ年度ノ(官有財產)トシテ御處理相成度申進メマス

●演習林立木減少報告ニ關スル件

昭和四年五月十日  
發會二九六號會計課長通牒

演習林ニ於ケル立木ハ從來伐採等ノ場合減少報告ヲ爲ササリシ向モ有之タル處賣却又ハ經營上伐採枯損等ニ依リ立木トシテ事實上減減シタルモノ或ハ離權シタルモノハ總テ國有財產臺帳ヨリ減少スルヲ至當ト存セラルルニ付今後ハ右等ノ場合ハ其ノ都度(但シ少額ノモノハ一月又ハ年ニ一回或ハ二回ニ取纏メテ報告ノコト)左記様式ニ依リ減少報告相成度又成長ニ依ル増加ノ分ニ付テハ每五年ニ於ケル國有財產土地立木價格改定ノ際調査ノ上臺帳ニ掲記相成様致度猶昭和三年度中ニ於ケル減少ニ付テハ此際一括御報告ノ上(既ニ報告済ノモノハ除ク)同年度國有財產増減報告書並同計算書ニモ掲記相成度

演習林立木減少報告

口座名 (演習林名)	數量	臺帳 價格	減少 年月日	減少理由	處分方法		數量	處分價格 及單價	買受人	備考
					立木ノマ、賣却	枯伐經營等採				
					立木ノマ、賣却	製造、薪材				
					枯伐經營等採	造材ノタメ貯藏(即チ翌年ノ度へ持越ノモノ等)				

備考

- 一 立木ノマ、賣却スルモノハ減少理由處分方法共立木ノ儘賣却トス
- 一 經營上伐採シタルモノノ内造材ノ上貯藏賣却若ハ消費シタルモノ製炭材又ハ薪材トシテ貯藏賣却若クハ消費セシモノ等アル場合ハ處分方法以下ノ欄ニ其ノ旨區分シテ記載ノコト



●演習林內陸地測量標設置ノ件

昭和七年十月十一日  
官會一八五號會計課長通知

陸地測量部ニ於テ大學(學校)演習林内へ陸地測量標設置ノ際ハ出張測量官ト演習林事務所トノ直接ノ協議ヲ以テ陸地測量標條例施行細則第八條第二項ノ手續ヲ了ルコトト致シタルニ付御了知相成度此段通知ス

追而右ノ場合ニ於テハ大學並學校及圖書館特別會計所屬國有財產管理規程第七條ニ依ル認可申請ハ要セサルモ測量標設置ノ際ハ直ニソノ所在地、口座名、數量、建設年月日、其他必要ナル事項ヲ具シ圖面ヲ添へ御報告相成度

●國有財產增減報告ノ年度區分ニ關スル件

大正十三年八月二十日  
官會二二二號會計課長移牒

國有財產增減報告書ニ記載スヘキモノノ年度區分ニ關シ別紙寫ノ通り國有財產整理局長ヨリ照會有之タルニ付自今ハ右ノ趣旨ニ據リ御取扱相成度

(別紙) 貴省及稅務監督局ヨリ送付ニ係ル大正十一年度國有財產增減報告書中雜種財產ノ引繼引受及管理換ニ於テ一方ニハ引受ノ

報告アルモ他ノ一方ニハ之ニ相當スル引繼ノ報告ナキモノアリ又數量價格ニ於テモ符合セサルモノ有之候處右ノ中ニハ單ニ報告ヲ脱漏セシモノ可有之ト存ラレ候へ共要スルニ如此ハ貴省部局ト稅務監督局トノ間ニ於テ其ノ取扱ヲ異ニセルモノアルカ爲不符合ヲ生シタルモノト認メラレ候ニ付右財產ノ授受ニ付テハ其ノ數量、價格及授受ノ年月日等雙方必ス一致セシムルノ必要有之候ニ付自今左記各項ニ依リ御取扱相成候様致度此段依命及照會候也

追テ本件ニ付テハ稅務監督局ニ對シテモ左記ノ趣旨ニ依リ取扱フコトニ通牒致置候ニ付御了知相成度尙來ル八月三十一日限り送付可相成大正十二年國有財產增減報告書ニ付テハ雙方必ス一致スル様致度候ニ付特ニ御配慮相成度申添候

(大正十三年七月二十四日附議九一二一)  
號國有財產整理局長ヨリ會計課長宛照會

記

- 一 貴省部局長ヨリ稅務監督局長ニ雜種財產ノ引繼アリタル場合ノ財產ノ授受ニ付テハ引受廳ヨリ送付セル引受書ノ日附ヲ以テ臺帳ヲ整理スルコト
- 二 數量、價格ハ臺帳記載ノモノニ依リ之カ引繼ヲ爲スコト但シ引繼ニ際シ實測ヲ爲シタル場合ニ於テハ其ノ實測數量ニ依リ之カ引繼ヲ爲スコト
- 三 右實測ノ結果數量ニ異動ヲ來ス場合アリト雖其ノ價格ハ之カ改定ヲ要セサルニ付其ノ儘引繼ヲ爲スコト

- 四 雜種財產ノ管理換ニ依ル財產ノ授受ニ付テハ引渡廳ニ對シ送付スル引受書ノ日附ヲ以テ臺帳ニ登錄スルコト
- 五 各省間ニ於ケル國有財產ノ管理換ニ依ル財產ノ授受ニ付テハ前項ノ例ニ依リ處理スルコト

●狹窄射擊場設置標準ニ關スル件

大正十五年六月十八日  
官會一〇六號次官通牒

教練振作ニ要スル狹窄射擊場ノ標準ニ關シ内務省警保局長ヨリ廳府縣長官宛別紙寫ノ通り通牒有之タルニ付爲念申進ム

別紙 現役陸軍將校ヲ配置セル中等以上ノ學校ニ於テ教練振作ノ爲其ノ校庭ニ狹窄射擊場ヲ設置スル向有之候趣ニ候處右ハ大體別紙標準ニ依リ設置セシムル様御措置相成度 追テ本件ハ陸軍及文部兩當局トモ打合濟ニ有之候間申添候

(大正十五年四月二十一日警保局甲三二號)  
内務省警保局長ヨリ廳府縣長官宛通牒

(別紙) 狹窄射擊場設置標準

- 一 狹窄射擊場ノ構造ハ大體別紙圖例ニ依ルコト
- 二 射擊場ハ危害ヲ生スル虞ナキ場所ヲ選定スルコト
- 三 標的ノ後方ニ天然又ハ人造ノ掩體存在シ危害ヲ發生スル虞全然ナキ時ハ射壕ノ設置ヲ省略スルヲ得ルコト

- 四 三ニ該當セサル場所ニ射擊場ヲ設置シタル場合發射臺ニ立チテ射壕ノ後方ヲ望見シ狹窄實包有效著彈距離(三八式約二百四十メートル、三十年式約九十メートル)内ニ土地又ハ建造物ヲ略透シ得ル時ハ之ヲ略透スコトヲ得サル程度ノ高サヲ有スル防彈牆ヲ射壕ノ後方ニ設クルコト
- 五 防彈牆ハ三センチメートル松板ノ裏面ニ三ミリメートルノ亞鉛引鐵板ヲ打付ケタルモノ又ハ二十センチメートルノ松板(薄キ松板ヲ數枚重ネテ以上ノ寸法トスルモ差支ナシ)ヲ以テ構造スルコト
- 六 射壕ノ内射面其ノ他射擊場内ニハ岩石ノ類ヲ露出セサルコト
- 七 射擊場ノ構築物ニシテ發射臺ニ面スル側ニハ金具類ヲ露出セサルコト
- 八 射壕脚ニ標的脚挿入孔ヲ設ケ之ニ標的脚ヲ挿入シ又ハ植杭シテ之ニ結著スル等標的ヲ固定スルコト
- 九 兩監的場掩體ノ間ニ設クル標的(大體九十センチメートルル方形トスルコト)數ハ最大限四個ト爲スコト
- 十 監的所ニ交通スル時ハ一時射擊ヲ中止スルコト







●宮城外濠ニ近接セル地域ニ造營ノ建物ニ關スル件

昭和四年十月十四日  
官會二〇二號會計課長移牒

首題ノ件ニ關シ別紙寫ノ通り内閣書記官長ヨリ當省次官宛通知有之タルニ付御了知相成度此段移牒ス

別紙

宮城外濠ニ近接セル地域ニ造營ノ建造物ニ關シ別紙ノ通宮内次官ヨリ申越有之候條御了知相成度尙右ハ貴管下關係ノ向ヘモ夫々通達有之度爲念申添候

(昭和四年九月二十七日内閣宮乙三五號内閣書記官長ヨリ次官宛通牒)

別紙

從來宮城外濠ニ近接セル地域ニ造營ノ政府所管建造物ニ付テハ相當御考慮ノ上御設計相成居候儀ニ有之候トハ存シ候モ宮城ヲ俯瞰スル虞アルモノ又ハ外濠ノ風致ヲ害スルカ如キモノ等ノ築造ハ回避致度希望ニ有之候付テハ當省ニ於テ豫メ設計等ヲ承知致置必要有之候間御計畫ノ際ハ前以テ公文ニテ御協議ヲ得此旨政府各省ヘ御通牒相煩度及御依頼候  
(昭和四年九月十八日宮發五三三號宮内次官ヨリ内閣書記官長宛通牒)

●國有財產整理資金特別會計法

大正十一年三月  
法律第六號

- 第一條 國有財產整理資金ヲ置キ其ノ歲入歲出ハ一般ノ會計ト區分シ特別會計ヲ設置ス
- 第二條 國有財產整理資金ハ國有財產ノ整理處分ニ因ル收入及附屬雜收入ヲ以テ之ニ充ツ但シ其ノ收入ニシテ他ノ特別會計ノ歲入ニ屬スルモノ及國有林野又ハ北海道國有未開地ノ處分ニ因ルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス
- 第三條 國有財產整理資金ハ國有財產ノ整理ニ關シ必要ナル事務費、營繕費、其ノ他ノ諸費ニ之ヲ使用ス
- 第四條 國有財產整理資金ヲ使用セムトスルトキハ其ノ金額ヲ一般ノ歲出トシテ拂出スヘシ
- 第五條 國有財產整理資金ニ餘裕アルトキハ之ヲ大藏省預金部ニ預入ルヘシ
- 第六條 一般ノ歲計上必要アル場合ニ於テハ豫算ノ定ムル所ニ依リ國有財產整理資金ヲ第三條ニ規定スル用途以外ノ營繕費ニ使用スルコトヲ得
- 第七條 政府ハ每年國有財產整理資金ノ歲入歲出豫算ヲ調製シ歲入歲出ノ總豫算ト俱ニ帝國議會ニ提出スヘシ
- 第八條 國有財產整理資金ニシテ毎年度内ニ使用セサルモノハ之ヲ翌年度ニ繰越スヘシ

第九條 國有財產整理資金ノ毎年度歲出豫算ニ於ケル支出殘額

ハ之ヲ翌年度ニ繰越シ使用スルコトヲ得

附則

本法ハ大正十一年度ヨリ之ヲ施行ス

●國有財產整理資金特別會計法ノ特例ニ關スル件

昭和二年三月  
法律第十五號  
昭和四年  
三七號改正

復興局廳舎新營費又ハ帝都復興事業費ヲ以テ建築シ、購入シ又ハ埋立テタル國有財產ニシテ不用ニ歸シタルモノノ賣拂代金ハ帝都復興ニ要スル經費ニ充用スル爲國有財產整理資金特別會計法第二條ノ規定ニ拘ラス之ヲ一般ノ歲入ニ組入ルルコトヲ得前項ノ規定ニ依リ一般ノ歲入ニ組入ルルコトヲ得ル金額ハ二千三十萬圓ヲ越ユルコトヲ得ス

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●雜種財產ノ賣拂代金同貸付料收入ノ件

大正十一年六月三十日藏七四二  
八號臨時國有財產整理部長通牒

今般仙臺稅務監督局ヨリ雜種財產ノ賣拂代金及同貸付料ノ收入

手續ニ關シ別紙申號ノ通照會有之乙號ノ通回答致置候條其ノ趣旨ニ依リ御取扱相成度此段及通牒候也(國有財產整理資金特別會計歲入徵收官文部大臣官房會計課長宛)

(甲號)

國有財產整理資金特別會計ノ收入手續上雜種財產ノ賣拂ニ對スル代金ノ收入ニ關シテハ明治三十三年四月貴省訓令第二十七號諸收入收納取扱規程ニ據ルコトト被存候處該納入告知書及報告書式中「經常(臨時)」トアル欄劃ニハ「國有財產整理資金特別會計」ト記載シ可然哉尙亦雜種財產貸付料ハ同様特別會計ニ屬スルモノト認ムルモ本年六月貴省訓令第二十五號國有財產整理資金歲入科目表ニヨルトキハ該當科目ノ設置ナキヲ以テ必要ニ應シ更ニ科目ノ設置方上申スヘキ儀ナルヤ或ハ亦一般會計ノ官有物貸下料ノ科目ニ依リ整理スヘキ儀ニモ可有之哉何分ノ儀併セテ御回示相成度右及照會候也

(大正十一年六月十日經五三八號仙臺稅務監督局長ヨリ大藏省臨時國有財產整理部長宛照會)

(乙號)

本月十日經第五三八號ヲ以テ雜種財產ノ賣拂代金及同貸付料ノ收入手續ニ付御照會相成候處右ハ左記ノ通御取扱相成度此ノ段及回答候也(大正十一年六月三十日藏七四二)

記

一 雜種財產賣拂代金ノ收納ニ關スル納入告知書及報告書ノ



記載方ニ付テハ御見込ノ通尙同納入告知書書式中「大藏省主管」トアル欄劃ニハ「大藏省所管」ト記載スルコト

二 同貸付料ニ付テハ一般會計所屬歳入經常部官業及官有財產收入ノ款、官有物貸下料ノ項、地所貸下料ノ目ニテ整理スルコト

●雜種財產ノ管理ニ伴フ收入ヲ國有財產整理資金特別會計歳入ト爲スノ件

昭和三年三月六日藏營五八三號  
大藏大臣 通牒

雜種財產ノ管理ヲ爲スニ伴ヒ生スル收入例之貸付料、使用料、辨償金又ハ下草拂下代等ハ從來總テ國有財產ノ整理處分ニ因ル收入ニアラストシテ一般會計ノ歳入ニ收納スルコトニ相成居候處今般之等ノ收入ニ付テハ別紙ノ通り決定致候ニ付貴省ニ於テ之ニ該當スルモノ有之候ハ該收入ハ昭和三年度ヨリ國有財產整理資金特別會計ノ歳入ニ收納スルコトニ御取扱相成度此段及通牒候也

追テ該收入ニ關スル歳入科目ハ昭和三年度ノ初頭ニ於テ官報ヲ以テ告示ノ見込ニ有之候尙右收入ニ關シテハ貴省所管部局長ニ對シ可然御取計相成度申添候

(別紙)

雜種財產ノ管理ヲ爲スニ伴ヒ生スル收入例之貸付料、使用料、

●公有水面埋立ニ關スル件

大正十一年四月二十日  
內務省發土三五號內務次官通牒

公有水面埋立法及同法施行令本年四月十日ヨリ施行セラレ候ニ付テハ左記事項御承知相成度(文部次官宛)

記

- 一 國ニ於テ埋立ヲ爲ス場合ニ於ケル公有水面埋立法第四十條ノ規定ニ依ル埋立ノ承認又ハ竣功ノ通知ニ付テハ同法施行令第二條又ハ同令第二十五條ノ規定スル所ニ準シ必要ナル手續ヲ履踐スルコトニ致度
- 二 埋立地(陸地)ト公有水面トノ境界ハ潮汐干満ノ差アル水流、水面ニ在リテハ春分及秋分ニ於ケル滿潮位、其ノ他ノ水流、水面ニ在リテハ高水位ヲ標準トシ之ヲ定ムルコト

●內務省所管ノ土地水面ヲ使用埋立所管轉換ノ場合ハ地方長官ヘ協議方ノ件

大正二年一月十一日  
內務大臣 通牒

各廳所用ノ爲土地水面需用ノ場合ニ於ケル取扱方ニ付テハ明治三十年三月庶第四一號ヲ以テ及通牒置候處當省所管ノ土地水面ヲ所管轉換ヲ爲サスシテ使用シ又ハ埋立テ若クハ埋立成功シタル土地ノ所管轉換ヲ爲ス場合ニ於テハ自今當省ヘ照會ニ及ハス

辨償金又ハ下草拂下代等ハ從來總テ國有財產ノ整理處分ニ因ル收入ニアラストシテ一般會計ノ歳入ニ收入スルコトニ相成居候處右ノ內將來整理處分ヲ目的トスル雜種財產ニシテ之カ處分ヲ爲スニ至ル迄之カ管理行爲トシテ當該財產ノ用途ニ從ヒ一時之ヲ貸付又ハ其ノ下草ヲ刈取ルカ如キコトヲ爲スニ當リ生スル收入ハ整理處分ヲ目的トスル國有財產ノ管理ニ因ル收入トシテ同特別會計法第二條ノ附屬雜收入ト認メラル而テ此ノ事ハ整理處分ヲ目的トスル雜種財產ノ管理ニ要スル費用カ國有財產整理資金特別會計ニ於テ負擔セラルト相反映スルモノナリ依テ雜種財產ノ管理ヨリ生スル收入ハ之ヲ國有財產整理資金特別會計法第二條ニ該當スルモノトシ昭和三年度ヨリ同會計ニ收納スルコトト致度

●土地區劃整理換地清算金ノ收入ニ關スル件

昭和二年七月二十九日藏營一二三六號大藏大臣ヨリ國有財產整理資金歳入徵收官ヘ通牒

東京市及橫濱市ニ於ケル國有地カ土地區劃整理施行地區ニ編入セラレ其ノ換地ニ關聯シテ清算金ヲ交付セラルル場合右清算金ハ國有財產整理資金特別會計法第二條ニ規定セル國有財產ノ整理處分ニ因ル收入トシテ御取扱相成度此段及通牒候也

直接地方長官ヘ協議セシメラレ度此段及通牒候也  
追テ從來當省ヘ御送付相成候必要書類及圖面ハ地方長官ヘノ協議書類ニ添附相成度候

●民有地地租組換ノ際通知方ノ件

明治四十二年七月十五日大藏次官  
通牒同七月二十三日會計課長移牒

民有地ノ國有地又ハ御料地ト爲リタルトキハ官廳ノ通知其ノ他ニ依リ稅務署ニ於テ其ノ事實ヲ認メタル以後ノ納期分ヨリ地租ヲ免除スル取扱ニ有之隨テ官廳ノ通知ハ除租ノ處分上最必要ニ有之候處其ノ事實發生ノ時ヨリ多數ノ時日ヲ過キ通知シ來リ候爲既ニ民有ノ事實ナキ土地ニ對シ賦課スル結果ト相成種々ノ交涉問題ヲ生スル例往々有之候ニ付右ノ場合ニ於テハ當該官廳ヨリ處分後直チニ所轄稅務署ニ通知スルコトヲ尙國有地ノ民有ト爲ル場合モ同様ニ併テ此ノ際御管下一般ニ御示達相成候様致度此段及通牒候也

●國有財產タル竹ノ數量單位算出方ニ關スル件

昭和七年八月一日營管第一八〇號ノ二營繕管財  
局總務部長通知同年八月六日會計課長移牒

今般司法省ヨリ國有財產タル竹ノ數量ノ單位「束」ノ算出方ニ



關シ別紙甲號ノ通照會有之乙號ノ通回答候ニ付爲念及御通知候也

甲號

國有財產立木竹ノ材積ハ樹木ハ石、竹ハ束ヲ以テ數量ノ單位ト爲スヘキ記載例ニ有之候處從來竹ニ付テハ未タ曾テ報告ノ例ナク又記載例ニ於テモ算出ノ基準ニ關シ何等明示無之候ヘトモ這回昭和七年三月末日國有財產現在額報告書ニ於テ之カ報告ヲ要スルモノ相生シ候處竹ノ一束トハ如何ナル方法ニ依リ算出スヘキモノナル哉其ノ基準ニ付聊カ疑義有之候條至急何分ノ御回示煩度候也

乙號

七月十八日附司法省會甲二〇三七號ヲ以テ國有財產タル竹ノ數量ノ單位「束」ノ算出方ニ關シ御照會相成候處右ハ「三尺繩メ」ヲ以テ一束トシテ御取扱相成可然ト存候此段及回答候也

●不動産ノ登記ノ囑託ニ關スル件

明治三十五年一月 勅令第五號

各省大臣カ其ノ所管ニ係ル不動産ノ登記ノ囑託ヲ爲ス場合ニ於テ省令ヲ以テ指定シタル官吏ハ不動産登記法第三十五條第五號ノ書面ヲ提出スルヲ要セス

●不動産ノ登記ノ囑託ニ付指定ノ件

昭和六年五月 文部省令第十五號

當省所管ニ係ル不動産登記ノ囑託ニ付テハ左ノ官吏ヲ指定ス  
北海道廳長官、府縣知事、文部大臣官房會計課長、帝國大學總長、官立大學長、文部省直轄諸學校長、帝國圖書館長、氣象臺長、緯度觀測所長、東京科學博物館長、體育研究所長

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス  
明治四十年文部省令第三十二號ハ之ヲ廢止ス

●土地收用法

明治三十三年三月 法律第二十九號

昭和六年 五三號改正

第一章 總 則

第一條 公共ノ利益ト爲ルヘキ事業ノ爲之ニ要スル土地ヲ收用又ハ使用スルノ必要アルトキハ其ノ土地ハ本法ノ規定ニ依リ之ヲ收用又ハ使用スルコトヲ得

本法ニ於テ使用ト稱スルハ權利ノ制限ヲ包含ス

第二條 土地ヲ收用又ハ使用スルコトヲ得ル事業ハ左ノ各號ノ

- 一 該當スルモノナルコトヲ要ス
- 一 國防其ノ他軍事ニ關スル事業
- 二 皇室陵墓ノ營建又ハ神社若ハ官公署ノ建設ニ關スル事業
- 三 社會事業又ハ教育若ハ學藝ニ關スル事業
- 四 鐵道、軌道、索道、專用自動車道、道路、橋梁、河川、堤防、砂防、運河、用惡水路、溜池、船渠、港灣、埠頭、水道、下水、國立公園、市場、電氣裝置、瓦斯裝置又ハ火葬場ニ關スル事業
- 五 衛生、測候、航路標識、防風、防火、水害豫防其ノ他公用ノ目的ヲ以テ國道府縣市町村其ノ他公共團體ニ於テ施設スル事業
- 第二條ノ二 現ニ土地ヲ收用又ハ使用スルコトヲ得ル事業ノ用ニ供スル土地ハ特別ノ必要アル場合ニ非サレハ之ヲ收用又ハ

使用スルコトヲ得ス

第三條 本法又ハ本法ニ基ツキテ發スル命令ニ規定シタル起業者ノ權利義務ハ事業ト共ニ其ノ承繼人ニ移轉ス

第四條 本法又ハ本法ニ基ツキテ發スル命令ノ規定ニ依リ爲シタル手續其ノ他ノ行爲ハ起業者、土地所有者又ハ關係人ノ承繼人ニ對シテモ其ノ效力ヲ有ス

第五條 本法ニ於テ土地所有者ト稱スルハ收用又ハ使用スヘキ土地ノ所有者ヲ謂フ

本法ニ於テ關係人ト稱スルハ收用又ハ使用スヘキ土地又ハ其ノ土地ニ在ル建物ニ關シテ權利ヲ有スル者ヲ謂フ

第十九條ノ地方長官ノ公告又ハ通知ノ後其ノ土地又ハ其ノ土地ニ在ル建物ニ關シテ權利ヲ取得シタル者ハ關係人ト看做サス但シ既存ノ權利ヲ承繼シタル者ハ此ノ限ニ在ラス

第六條 本法又ハ本法ニ基ツキテ發スル命令ニ規定シタル期間ノ計算法、通知ノ方法及書類ノ送達ニ關シテハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第七條 本法ノ規定ハ水ノ使用ニ關スル權利其ノ他土地ニ關スル所有權以外ノ權利ノ收用又ハ使用ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第七條ノ二 本法ハ第二條ニ規定スル事業ノ用ニ供スヘキ土地ニ定著スル物件又ハ之ニ關スル權利ヲ其ノ事業ノ用ニ供スル爲ニ收用又ハ使用スル場合ニ之ヲ準用ス

第八條 本法ノ規定ハ土地ニ屬スル土石砂礫ノ收用ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス



第二章 事業ノ準備

第九條 事業ノ準備ノ爲必要アルトキハ起業者ハ事業ノ種類及立入ヘキ土地ノ區域ヲ定メ地方長官ノ許可ヲ得テ土地ニ立入り測量又ハ検査ヲ爲スコトヲ得但シ此ノ場合ニ於テ宮内省又ハ國ノ起業ニ係ルトキハ宮内大臣又ハ主務大臣ハ之ヲ地方長官ニ通知スヘシ

地方長官前項ノ許可ヲ與ヘ又ハ通知ヲ受ケタルトキハ起業者、事業ノ種類及立入ルヘキ土地ノ區域ヲ公告シ又ハ之ヲ其ノ土地占有者ニ通知スヘシ

第十九條ノ地方長官ノ公告又ハ通知ノ後起業者カ事業ノ準備ノ爲其ノ土地ニ立入り測量又ハ検査ヲ爲ス場合ニ於テハ本條ノ許可又ハ通知ヲ要セス

第十條 前條ノ場合ニ於テハ起業者ハ立入ルヘキ日ヨリ五日前ニ其ノ日時及場所ヲ市町村長ニ通知スヘシ市町村長ハ之ヲ公告シ又ハ其ノ土地占有者ニ通知スヘシ邸内ニ立入ル場合ニ於テハ起業者ハ豫メ其ノ占有者ニ通知スヘシ

日出前日没後ハ起業者ハ占有者ノ承諾アルニ非サレハ邸内ニ立入ルコトヲ得ス

第十一條 第九條ノ規定ニ依ル測量又ハ検査ノ爲必要アルトキハ起業者ハ行政廳ノ許可ヲ得テ障害物ヲ除却スルコトヲ得前項ノ規定ニ依リ障害物ノ除却ヲ爲ス場合ニ於テハ起業者ハ三日前ニ其ノ所有者及占有者ニ通知スヘシ

第三章 事業ノ認定

第十二條 土地ヲ收用又ハ使用スルコトヲ得ル事業ハ内務大臣之ヲ認定ス但シ軍機ニ關スル事業ハ此ノ限ニ在ラス

第十三條 起業者カ前條ノ認定ヲ受ケントスルトキハ事業計畫書及圖面ヲ添ヘ地方長官ヲ經由シテ内務大臣ニ申請スヘシ但シ起業者カ宮内省又ハ國ナルトキハ宮内大臣又ハ主務大臣ハ事業計畫書及圖面ヲ添ヘ内務大臣ニ請求スヘシ

第十四條 内務大臣カ認定ヲ爲シタルトキハ起業者及事業ノ種類並起業地ヲ公告スヘシ

第十五條 天災事變ニ際シ急施ヲ要スル事業ノ爲土地ヲ使用スルトキハ市町村長ハ其ノ事業ノ認定ヲ爲スコトヲ得

前項ノ事業カ宮内省、國又ハ道府縣ノ起業ニ係ルトキハ宮内大臣、主務大臣又ハ道廳長官府縣知事ハ事業ノ種類、使用スヘキ土地ノ區域及使用ノ期間ヲ市町村長ニ通知スヘシ

前二項ノ使用ノ期間ハ六箇月ヲ超ユルコトヲ得ス  
軍事上臨時急施ヲ要スル事業ノ爲土地ヲ使用スルトキハ主務大臣ハ使用スヘキ土地ノ區域ヲ市町村長ニ通知スヘシ

第十六條 起業者カ市町村長ノ認定ヲ受ケムトスルトキハ事業ノ種類、使用スヘキ土地ノ區域及使用ノ期間ヲ定メ市町村長ニ申請スヘシ

第十七條 市町村長カ認定ヲ爲シタルトキ又ハ第十五條第二項ノ通知ヲ受ケタルトキハ起業者、事業ノ種類、使用スヘキ土地

地ノ區域及使用ノ期間ヲ土地所有者及占有者ニ通知スヘシ

市町村長カ第十五條第四項ノ通知ヲ受ケタルトキハ使用スヘキ土地ノ區域ヲ土地所有者及占有者ニ通知スヘシ

第十八條 起業者カ内務大臣ノ認定ノ公告ノ後三箇年内ニ第十九條ノ申請ヲ爲ササルトキハ其ノ認定ハ效力ヲ失フ

第四章 收用ノ手續

第十九條 内務大臣ノ認定ノ公告ノ後起業者ノ申請ニ依リ地方長官ハ收用又ハ使用スヘキ土地ノ細目ヲ公告シ又ハ之ヲ土地所有者及關係人ニ通知スヘシ

軍機ニ關スル事業ニ付テハ主務大臣ハ地方長官ニ收用又ハ使用スヘキ土地ノ細目ヲ通知シ地方長官ハ之ヲ土地所有者及關係人ニ通知スヘシ

第十九條ノ二 前條ノ地方長官ノ公告又ハ通知ノ後ハ土地所有者及關係人ハ事業ニ支障ヲ及ホス虞ナキ場合ヲ除クノ外行政廳ノ許可ヲ得ルニ非サレハ收用又ハ使用スヘキ土地ノ形質ヲ變更シ又ハ第七條ノ二ノ物件ヲ損壞若ハ收去スルコトヲ得ス

第二十條 第十九條ノ地方長官ノ公告又ハ通知ノ後ハ起業者ハ其ノ土地ニ立入り土地物件ヲ調査スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ起業者ハ立入ルヘキ日ヨリ三日前ニ其ノ日時及場所ヲ其ノ土地占有者ニ通知スヘシ

日出前日没後ハ占有者ノ承諾アルニ非サレハ邸内ニ立入ルコトヲ得ス

第二十一條 第十九條ノ地方長官ノ公告又ハ通知ノ後起業者ハ土地所有者及關係人ト共ニ土地物件ニ關スル調査ヲ作ルヘシ

前項ノ場合ニ於テ土地所有者又ハ關係人カ調査ヲ作ルコトヲ拒ミタルトキ其ノ他之ト共ニ調査ヲ作ルコト能ハサルトキハ起業者ハ市町村長ノ立會ヲ以テ之ヲ作ルヘシ市町村長カ起業者ナルトキ又ハ起業者ニ對シ第四十條第二項ニ掲ケタル關係ヲ有スルトキハ起業者ノ申請ニ依リ地方長官立會人ヲ指定スヘシ

起業者、土地所有者及關係人ハ本條ノ規定ニ依リ作りタル調査ノ記載事項ニ對シ異議ヲ述フルコトヲ得ス

第二十二條 第十九條ノ地方長官ノ公告又ハ通知ノ後起業者ハ其ノ土地ニ關スル權利ヲ取得スル爲土地所有者及關係人ニ協議ヲ爲スヘシ

前項ノ協議調ハサルトキ又ハ協議ヲ爲スコト能ハサルトキハ起業者ハ收用審査會ノ裁決ヲ求ムルコトヲ得

第二十三條 收用審査會ノ裁決ヲ求ムトスルトキハ起業者ハ其ノ申請書ニ左ニ掲ケタル書類ヲ添ヘ地方長官ニ差出スヘシ但シ軍機ニ關スル事業ニ付テハ事業計畫書及圖面ヲ添フルコトヲ要セス

一 事業計畫書及圖面  
二 市區町村別ニ左ニ掲ケタル事項ヲ記載シタル書類  
收用又ハ使用スヘキ土地ノ番號、地目



收用又ハ使用スヘキ土地ノ面積及其ノ土地ニ在ル物件ノ種類、數量但シ土地物件カ分割ヲ來スヘキ場合ニ於テハ其ノ全部ノ面積建坪等ヲ併記スヘシ

損失補償ノ見積金額内譯  
收用ノ時期又ハ使用ノ時期、期間  
土地所有者及關係人ノ氏名、住所

三 第二十一條ノ規定ニ依ル土地物件ニ關スル調書又ハ其ノ寫

收用審査會ノ裁決ヲ求メタルトキハ起業者ハ同時ニ土地所有者及關係人ニ通知スヘシ

第二十四條 地方長官前條ノ書類ヲ受ケタルトキハ之ヲ市町村用ニ送付スヘシ但シ同條第一項第三號ノ書類ハ此ノ限ニ在ラス

市町村長前項ノ書類ヲ受ケタルトキハ遲滞ナク公告ヲ爲シ公告ノ日ヨリ一週間之ヲ公衆ノ縦覽ニ供スヘシ

第二十五條 土地所有者及關係人ハ前條縦覽期間ノ初日ヨリ二週間内ニ地方長官ニ意見書ヲ差出スコトヲ得

第二十六條 地方長官ハ前條ノ期間ヲ經過シタル後收用審査會ヲ開クヘシ

第二十七條 收用審査會ハ開會ノ日ヨリ一週間内ニ裁決ヲ爲スヘシ但シ地方長官ハ必要ト認ムルトキハ二週間内ノ延期ヲ爲スコトヲ得

第三十四條 起業者カ第十九條ノ地方長官ノ公告又ハ通知ノ後一箇年内ニ收用審査會ノ裁決ヲ求メサルトキハ其ノ公告又ハ通知ハ效力ヲ失フ

第五章 收用審査會

第三十五條 收用審査會ハ内務大臣ノ監督ニ屬シ左ニ掲ケタル事項ヲ定メテ收用又ハ使用ノ裁決ヲ爲スモノトス

- 一 收用又ハ使用スヘキ土地ノ區域
- 二 損失ノ補償
- 三 收用ノ時期又ハ使用ノ時期、期間

起業者ノ申請カ本法又ハ本法ニ基ツキテ發スル命令ノ規定ニ違反スルトキハ收用審査會ハ却下ノ裁決ヲ爲スヘシ

第三十六條 收用審査會ハ會長一人委員六人ヲ以テ之ヲ組織ス

第三十七條 會長ハ地方長官ヲ以テ之ニ充ツ議事其ノ他ノ會務ヲ統理シ會ヲ代表ス

第三十八條 委員ハ高等文官及道府縣名譽職參事會員各三人ヲ以テ之ニ充ツ

高等文官ニシテ委員タルヘキ者ハ内務大臣之ヲ命シ道府縣名譽職參事會員ニシテ委員タルヘキ者ハ其ノ互選トス

第三十九條 收用審査會ハ委員半數以上出席スルニ非サレハ會議ヲ開クコトヲ得ス  
收用審査會ノ議事ハ過半數ヲ以テ決ス可否同數ナルトキハ會長ノ決スル所ニ依ル

第二十八條 收用審査會カ前條ノ期間内ニ裁決ヲ爲ササルトキハ地方長官ハ事情ヲ具シ内務大臣ノ指揮ヲ請フヘシ内務大臣ハ收用審査會ニ一定ノ期間内ニ裁決ヲ爲スヘキコトヲ命シ又ハ之ニ代テ裁決ヲ爲スヘキコトヲ地方長官ニ命スルコトヲ得

收用審査會カ前項ノ期間内ニ裁決ヲ爲ササルトキハ地方長官ハ之ニ代テ裁決ヲ爲スヘシ

第二十九條 收用審査會カ招集ニ應セス又ハ成立セサルトキハ地方長官ハ内務大臣ノ認可ヲ得テ之ニ代テ裁決ヲ爲スコトヲ得事業ノ急施ヲ要スルトキ亦同シ

第三十條 收用審査會カ裁決ヲ爲シタルトキハ其ノ裁決書ノ謄本ヲ添ヘ地方長官ニ報告スヘシ

第三十一條 前條ノ報告ヲ受ケ又ハ收用審査會ニ代テ裁決ヲ爲シタルトキハ地方長官ハ裁決書ノ謄本ヲ起業者、土地所有者及關係人ニ送達スヘシ

第三十二條 軍機ニ關スル事業又ハ内務大臣ノ認定シタル事業ノ施行ニ因リテ必要ヲ生シタル道路、堤防其ノ他公用ニ供スル工作物ノ新築、改築又ハ増築ノ爲土地ヲ收用又ハ使用スルトキハ地方長官ノ許可ヲ得テ直ニ本章ノ規定ニ依ルコトヲ得

第三十三條 市町村長カ認定ヲ爲シ又ハ第十五條第二項若ハ第四項ノ通知ヲ受ケタルトキハ第十七條ノ通知ノ後起業者ヲシテ直ニ其ノ土地ヲ使用セシムルコトヲ得但シ損失ノ補償ニ關シテハ本法ノ規定ニ依ルヘシ

第四十條 委員カ起業者、土地所有者又ハ關係人ナルトキハ收用審査會ノ議事ニ參與スルコトヲ得ス

委員カ起業者、土地所有者若ハ關係人ノ配偶者、四親等内ノ親族、戸主、家族、代理人及保佐人ナルトキ又ハ起業者、

土地所有者若ハ關係人タル市町村ノ市町村長、合名會社ノ社員、合資會社及株式合資會社ノ無限責任社員、株式會社ノ取締役及監査役其ノ他法人ノ理事及監事ナルトキ亦前項ニ同シ本條ノ規定ニ依リ委員ノ數減少シテ前條第一項ノ數ヲ得サルトキハ地方長官ハ左ニ掲ケタル順序ニ從ヒ其ノ本條ノ規定ニ抵觸セサル者ノ内ヨリ臨時ニ指名シテ之ヲ補充スヘシ

- 一 道府縣名譽職參事會員
- 二 道府縣名譽職參事會員ノ補充員
- 三 道府縣會議員

第四十一條 收用審査會ノ裁決ハ起業者、土地所有者及關係人ノ申立タル範圍ヲ超ユルコトヲ得ス

第四十二條 收用審査會ハ必要ト認ムルトキハ鑑定人ヲ選ヒ其ノ意見ヲ聽クコトヲ得

第四十三條 收用審査會ハ必要ト認ムルトキハ起業者、土地所有者又ハ關係人ヲ呼出シ其ノ意見ヲ聽クコトヲ得  
收用審査會ハ事實參考ノ爲必要ト認ムルトキハ前項ニ掲ケタル者以外ノ者ヲ呼出シ其ノ供述ヲ聽クコトヲ得



第四十四條 裁決ハ文書ヲ以テ之ヲ爲シ其ノ理由ヲ附シ會長之ニ署名捺印スヘシ

裁決書ノ謄本ニハ會ノ印章ヲ捺捺スヘシ

第四十五條 鑑定人及事實參考人ハ旅費及手當ヲ請求スルコトヲ得

第四十六條 二府縣以上ニ渉ル事業ニ係ルトキハ關係地方長官ハ勅令ノ定ムル所ニ從ヒ合同シテ收用審査會ヲ開クコトヲ得

第六章 損失ノ補償

第四十七條 土地所有者及關係人ノ受クル損失ハ起業者之ヲ補償スヘシ

損失ノ補償ハ各人別ニ之ヲ爲スヘシ但シ其ノ各人別ニ見積リ難キトキハ此ノ限ニ在ラス

第四十八條 收用スヘキ土地物件ニ付テハ相當ノ價格ニ依リ其ノ損失ヲ補償スヘシ

使用スヘキ土地ニ付テハ其ノ土地及近傍類地ノ料金ニ依リ其ノ損失ヲ補償スヘシ

第四十九條 土地ノ一部ヲ收用又ハ使用スルニ因リテ殘地ノ價格ヲ減シ其ノ他殘地ニ關シ損失ヲ生スヘキトキハ其ノ損失ヲ補償スヘシ

第五十條 土地ノ一部ヲ收用スルニ因リテ殘地ヲ從來用キタル目的ニ供スルコト能ハサルトキハ土地所有者ハ其ノ全部ノ收用ヲ請求スルコトヲ得

第五十一條 收用又ハ使用スヘキ土地ニ在ル物件ハ移轉料ヲ補償シテ移轉セシムヘシ但シ物件ノ分割ヲ來シ其ノ全部ヲ移轉スルニ非サレハ從來用キタル目的ニ供スルコト能ハサルトキハ所有者ハ其ノ全部ノ移轉料ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ物件ヲ移轉スルニ因リテ從來用キタル目的ニ供スルコト能ハサルトキハ所有者ハ其ノ收用ヲ請求スルコトヲ得

第五十二條 前條ノ移轉料ニシテ其ノ物件ノ相當價格ヲ超ユル場合ニ於テハ起業者ハ其ノ收用ヲ請求スルコトヲ得

第五十三條 土地ヲ收用又ハ使用スルニ因リテ道路、溝渠、塙柵其ノ他ノ工作物ノ新築、改築、増築又ハ修繕ヲ爲ス必要ヲ生スルトキハ其ノ費用ヲ補償スヘシ

第五十四條 前數條ニ規定シタルモノノ外土地ヲ收用又ハ使用スルニ因リテ土地所有者及關係人ノ通常受クヘキ損失ハ之ヲ補償スヘシ

第五十五條 土地ノ使用力三箇年以上ニ互ルトキ又ハ土地ノ形質ヲ變更スルトキ若ハ使用スヘキ土地ニ建物アルトキハ所有者ハ其ノ土地ノ收用ヲ請求スルコトヲ得但シ空間ヲ使用スル場合ニ於テ土地ノ使用ヲ妨ケサルトキハ此ノ限ニ在ラス

第五十六條 第十九條ノ地方長官ノ公告又ハ通知ノ後行政廳ノ許可ヲ得シテ土地ノ形質ヲ變更シ又ハ工作物ノ新築、改築、増築若ハ大修繕ヲ爲シ又ハ物件ヲ附加増置シタル土地所有者

第六十一條 土地所有者及關係人ハ收用又ハ使用ノ時期迄ニ土地物件ヲ引渡シ又ハ物件ヲ移轉スヘシ

但シ左ニ掲ケタル場合ニ於テハ起業者ノ請求ニ依リ市町村長ハ土地所有者及關係人ニ代ルモノトス

一 土地所有者及關係人カ土地物件ヲ引渡シ又ハ物件ヲ移轉スルコト能ハサルトキ

二 起業者ノ過失ナクシテ土地所有者及關係人ヲ確知スルコト能ハサルトキ

第六十二條 起業者カ收用又ハ使用ノ時期迄ニ補償金ノ拂渡又ハ供託ヲ爲ササルトキハ收用審査會ノ裁決ハ其ノ效力ヲ失フ但シ土地所有者及關係人カ損害賠償ノ請求ヲ爲スコトヲ妨ケス

第六十三條 土地物件ヲ收用スルトキハ收用ノ時期ニ於テ所有權ハ起業者之ヲ取得シ其ノ他ノ權利ハ消滅ス

土地ヲ使用スルトキハ其ノ權利ハ使用ノ時期ニ於テ起業者之ヲ取得シ其ノ他ノ權利ハ使用ノ期間其ノ行使ヲ停止セララル但シ使用ヲ妨ケサルモノハ此ノ限ニ在ラス

第六十四條 收用審査會ノ裁決ノ後收用又ハ使用スヘキ土地物件カ土地所有者又ハ關係人ノ責ニ歸スヘカラサル事由ニ因リテ滅失又ハ毀損シタルトキハ其ノ滅失又ハ毀損ハ起業者ノ負擔ニ歸ス

第六十五條 先取特權、質權又ハ抵當權ハ其ノ目的物ノ收用又

又ハ關係人ハ之ニ關スル損失ノ補償ヲ請求スルコトヲ得ス

第五十七條 第九條又ハ第二十條ノ規定ニ依リ土地ニ立入り測量、検査又ハ調査ヲ爲スニ因リテ他人ニ及ホシタル損失ハ起業者之ヲ補償スヘシ

第五十八條 第十九條ノ地方長官ノ公告又ハ通知ノ後起業者カ事業ヲ廢止變更シタルニ因リテ土地所有者又ハ關係人ノ受ケタル損失ハ之ヲ補償スヘシ

第五十九條 前二條ノ補償ニ付キ協議調ハサルトキハ地方長官ノ決定ヲ求ムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ第三十一條及第四十一條乃至第四十五條ノ規定ヲ準用ス

第七十條 起業者ハ收用又ハ使用ノ時期迄ニ補償金ヲ拂渡スヘシ

左ニ掲ケタル場合ニ於テハ補償金ヲ供託スルコトヲ得

一 補償金ヲ受クヘキ者カ其ノ受領ヲ拒ミタルトキ又ハ之ヲ受領スルコト能ハサルトキ

二 起業者カ過失ナクシテ補償金ヲ受クヘキ者ヲ確知スルコト能ハサルトキ

三 起業者カ收用審査會ノ裁決中補償金額ノ決定ニ對シテ不服アルトキ但シ補償金ヲ受クヘキ者ノ請求アルトキハ起業者ハ自己ノ見積金額ヲ拂渡スヘシ

四 起業者カ補償金拂渡ノ差押又ハ假差押ヲ受ケタルトキ



ハ使用ニ因リテ債務者カ受クヘキ補償金ニ對シテモ之ヲ行フコトヲ得但シ其ノ拂渡前ニ差押ヲ爲スヘシ

**第六十六條** 收用ノ時期ヨリ二十箇年內ニ事業ノ廢止其ノ他ノ事故ニ因リテ收用シタル土地ノ全部又ハ一部カ不用ニ歸シタルトキハ舊所有者又ハ其ノ相續人ハ補償價格ヲ以テ之ヲ買受ルコトヲ得但シ第五十條ノ規定ニ依リテ收用シタル殘地ハ其ノ接續部分ノ不用ニ歸シタル時ニ非サレハ之ヲ買受ルコトヲ得ス

前項ノ場合ニ於テ買受ハ第三者ニ對シテモ其ノ效力ヲ有ス  
第一項ノ期間內ニ於テ收用シタル土地ヲ他ノ軍機ニ關スル事業又ハ内務大臣ノ認定シタル事業ニ供スルトキハ不用ニ歸シタルモノト看做サス

**第六十七條** 前條ノ不用ノ土地アルトキハ起業者ハ舊所有者又ハ其ノ相續人ニ通知スヘシ但シ起業者ノ過失ナクシテ之ヲ確知スルコト能ハサルトキハ少クトモ三回ノ公告ヲ爲スヘシ  
前項ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ二箇月內又ハ第三回ノ公告終了ノ日ヨリ六箇月內ニ舊所有者又ハ其ノ相續人カ買受ノ通知ヲ爲ササルトキハ其ノ權利ヲ失フ

第八章 費用ノ負擔

**第六十八條** 起業者、土地所有者及關係人カ本法又ハ本法ニ基ツキテ發スル命令ニ規定シタル手續其ノ他ノ行爲ヲ爲シ又ハ義務ヲ履行スル爲ニ要シタル費用ハ各其ノ負擔トス

**第六十九條** 收用審査會ニ要シタル費用ハ命令ヲ以テ別ニ負擔

キハ地方長官ハ直接ニ之ヲ強制スルコトヲ得

**第七十四條** 前章ノ規定ニ依リ私人ノ負擔スヘキ費用ヲ支出セサル者アルトキハ行政廳ハ國稅滯納處分ノ例ニ依リ之ヲ徵收スルコトヲ得

前項ノ費用ニ付テハ行政廳ハ國稅ニ次キ先取特權ヲ有ス

**第七十五條** 第九條又ハ第十一條ノ場合ニ於テ行政廳ノ許可ヲ得スシテ土地ニ立入り又ハ障害物ヲ除却シタル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

**第七十六條** 第十九條ノ地方長官ノ公告又ハ通知アリタルコトヲ知リタル者第十九條ノ二ノ規定ニ違反シタルトキハ二百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

**第七十七條** 鑑定人トシテ收用審査會ニ呼出サレタル者虛偽ノ陳述ヲ爲シタルトキハ二年以下ノ懲役ニ處ス

**第七十八條** 故ナク鑑定人タルコトヲ拒ミタル者又ハ鑑定人カ故ナク鑑定ヲ爲ス事ヲ拒ミタルトキハ百圓以下ノ過料ニ處ス

**第七十九條** 鑑定人又ハ第四十三條第二項若ハ第五十九條ノ規定ニ依リ呼出ヲ受ケタル者故ナク出頭セサルトキハ五十圓以下ノ過料ニ處ス

**第八十條** 非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ前二條ノ過料ニ之ヲ準用ス

第十章 訴願及訴訟

**第八十一條** 收用審査會ノ裁決ニ對シテ不服アル者ハ内務大臣

者ヲ定メタルモノヲ除クノ外府縣ノ負擔トス第五十九條ノ場合ニ要シタル費用ニ付テ亦同シ

**第七十二條** 規定ニ依リ收用審査會ノ裁決ヲ取消シタル場合ニ於テ更ニ開クヘキ收用審査會ニ要シタル費用ハ之ヲ起業者、土地所有者及關係人ニ負擔セシムルコトヲ得ス

**第七十條** 第七十三條第一項ノ規定ニ依リ地方長官カ義務者ノ爲スヘキ事項ヲ自ラ執行シ又ハ他人ヲシテ執行セシメタル爲ニ要シタル費用ハ府縣ノ負擔トス

府縣ハ前項ノ費用ヲ各其ノ義務者ヨリ徵收スルコトヲ得但シ其ノ義務者ノ受領スヘキ補償金ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得  
**第七十一條** 土地所有者又ハ關係人ノ負擔スヘキ費用ハ第六十一條但書ノ場合ニ於テハ市町村ノ負擔トス

前項ノ場合ニ於テハ前條第二項ノ規定ヲ準用ス

第九章 監督、強制及罰則

**第七十二條** 收用審査會カ其ノ權限ヲ越エ又ハ法令ノ規定ニ違反シテ爲シタル裁決ハ内務大臣之ヲ取消スコトヲ得

**第七十三條** 義務者カ本法又ハ本法ニ基ツキテ發スル命令ノ規定ニ依ル義務ヲ履行セス又ハ之ヲ履行スルモ一定ノ期間內ニ終了スル見込ナキトキハ地方長官ハ自ラ之ヲ執行シ又ハ他人ヲシテ之ヲ執行セシムルコトヲ得

義務者カ本法又ハ本法ニ基ツキテ發スル命令ノ規定ニ依ル義務ヲ履行セサル場合ニ於テ前項ノ規定ニ依ルコト能ハサルト

ニ訴願スルコトヲ得

收用審査會ノ違法裁決ニ由リ權利ヲ傷害セラレタリトスルモノハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

前二項ノ規定ニ依ル訴願訴訟ハ裁決書謄本ノ交付ヲ受ケタル日ヨリ二週間ヲ經過シタルトキハ之ヲ提起スルコトヲ得ス  
本法ノ規定ニ依リ通常裁判所ニ出訴ヲ許シタル事項ニ關シテハ訴願又ハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得ス

**第八十二條** 收用審査會ノ裁決中補償金額ノ決定ニ對シテ不服アル者ハ通常裁判所ニ出訴スルコトヲ得但シ裁決書謄本ノ交付ヲ受ケタル日ヨリ三箇月ヲ經過シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ訴訟ハ收用審査會ニ對シテ之ヲ提起スルコトヲ得ス  
第五十九條ノ規定ニ依ル地方長官ノ決定ニ付テハ前二項ノ規定ヲ準用ス

**第八十三條** 本法ノ規定ニ依ル訴願訴訟ハ事業ノ進行及土地ノ收用又ハ使用ヲ停止セス

附 則

**第八十四條** 本法ハ明治三十三年四月一日ヨリ施行ス

**第八十五條** 明治二十二年法律第十九號土地收用法ノ規定ニ依リ收用又ハ使用ニ關シテ爲シタル手續其ノ他ノ行爲ハ本法ノ規定ニ依リテ爲シタルモノト看做ス

明治二十二年法律第十九號土地收用法ノ規定ニ依リ收用シタ



ル土地ニ關シテハ第六十六條ノ期間ハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス

明治八年太政官達第三百三十二號公用土地買上規則ニ依リ買上ケ現ニ國有タル土地ハ命令ノ定ムル所ニ依リ本條ノ規定ヲ準用ス

**第八十六條** 第十五條乃至第十七條及第三十三條ノ規定ニ依リ町村長ノ爲スヘキ職務ハ北海道ニ於テハ支廳長之ヲ行フ  
本法ニ依リ町村長ノ爲スヘキ職務ハ町村制ヲ施行セサル地ニ於テハ町村長ニ準スヘキ者之ヲ行フ

**第八十七條** 明治二十二年勅令第五號東京市區改正土地建物處分規則其ノ他別段ノ定アルモノハ各其ノ定ムル所ニ依ル

**第八十八條** 明治二十二年法律第十九號土地收用法明治二十三年法律第五十四號土地收用協議會規則及明治三十二年法律第七十二號ハ之ヲ廢止ス

**附 則** (昭和二年法律第三十九號)

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム (昭和二年八月勅令第二百七十二號ヲ以テ同年九月十五日ヨリ施行)

大正十五年法律第七十八號ハ之ヲ廢止ス

本法施行前收用審査會ノ裁決ヲ求メタル收用又ハ使用ニ付テハ第四十三條ノ規定ヲ除クノ外仍從前ノ例ニ依ル但シ第三十五條第二項ノ規定ニ依リ却下ノ裁決アリタルモノニ付テハ其ノ裁決ニ對シ訴願訴訟ヲ爲ス場合ヲ除クノ外此ノ限ニ在ラス

本法施行前從前ノ第七十八條又ハ第八十條ノ規定ニ該當スル行爲ヲ爲シタル者ニシテ本法施行ノ際未タ其ノ裁判ヲ受ケサル者ハ本法ニ依リ處罰ス但シ過料ノ額ハ同條ノ罰金ノ額ヲ超ユルコトヲ得ス

**附 則** (昭和六年法律第五十三號)

本法中専用自動車道ニ關スル規定ハ自動車交通事業法施行ノ日ヨリ、國立公園ニ關スル規定ハ國立公園法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

**●土地收用法施行令**

明治三十三年三月 昭和二年  
勅令第九十九號 二七三號改正

**第一條** 土地收用法第十一條第一項ニ規定シタル行政廳ノ職權ハ市町村長之ヲ行フ

**第二條** 土地收用法第九條、第十一條又ハ第二十條ノ規定ニ依リ起業者ノ爲土地ニ立入り又ハ障害物ヲ除却スル者ハ其ノ證票ヲ携帯スヘシ

障害物ヲ除却スル者ハ行政廳ノ許可證ヲ携帯スヘシ

**第三條** 起業者カ内務大臣ノ認定ヲ受ケントスル場合ニ於テ起業地内ニ左ニ掲ケタル土地アルトキハ其ノ土地ニ關スル調書及圖面ヲ申請書ニ添付スヘシ

- 一 御料地及皇族所有地
- 二 國有地
- 三 現ニ土地ヲ收用又ハ使用スルコトヲ得ル事業ノ用ニ供スル土地

四 寺院境内地

五 名所、舊蹟及古墳墓

前項ニ規定スル調書ニハ其ノ土地ヲ起業地ニ編入スルニ付土地管理者ノ意見ヲ記載スヘシ

**第四條** 土地收用法第十四條ノ規定ニ依ル公告ハ官報ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

**第五條** 内務大臣ノ認定ノ公告ノ後事業ヲ廢止變更シタルニ因リテ土地收用法第十九條ノ申請ヲ爲スノ必要ナキニ至リタルトキハ起業者ハ之ヲ地方長官ニ届出ツヘシ  
地方長官前項ノ届出ヲ受ケタルトキハ之ヲ公告スヘシ

**第六條** 土地收用法第二十一條ノ規定ニ依ル調書ハ土地調書及物件調書トス

土地調書ニハ收用又ハ使用セントスル土地ニ付左ノ事項ヲ記載シ實測平面圖ヲ添付スヘシ

一 土地所在ノ郡、市、區、町村及字、土地ノ番號、地目及面積並ニ土地所有者ノ名及住所

二 收用又ハ使用セントスル土地ノ面積

三 土地ニ關シテ權利ヲ有スル者ノ名及住所並ニ其ノ權利ノ種類及内容

四 調書ヲ作りタル年月日

五 其ノ他必要ナル事項

物件調書ニハ收用若ハ使用又ハ移轉セントスル物件ニ付左ノ

事項ヲ記載スヘシ

一 物件ノ在ル土地所在ノ郡、市、區、町村及字並ニ土地ノ番號及地目

二 物件ノ種類及數量並ニ其ノ所有者ノ名及住所

三 物件ニ關シテ權利ヲ有スル者ノ名及住所並ニ其ノ權利ノ種類及内容

四 調書ヲ作りタル年月日

五 其ノ他必要ナル事項

物件カ建物ナル場合ニ在リテハ物件調書ニハ前項ニ掲ケタルモノノ外建物ノ種類ニ區別シ其ノ構造及建坪ヲ記載シ實測平面圖ヲ添付スヘシ

土地收用法第七條ノ規定ニ依リ權利ヲ收用又ハ使用スル場合ニ於ケル調書ニ關シテハ第二項ノ例ニ依ル

土地收用法第七條ノ二ノ規定ニ依リ物件ニ關スル權利ヲ收用又ハ使用スル場合ニ於ケル調書ニ關シテハ第三項及第四項ノ例ニ依ル

調書ニハ調書ヲ作りタル起業者、土地所有者及關係人記名捺印スヘシ

立會人アルトキハ立會人モ亦之ニ記名捺印スヘシ

**第七條** 土地收用法第二十四條ノ規定ニ依リ公告ヲ爲シタルトキハ市町村長ハ其ノ旨ヲ地方長官ニ報告スヘシ

**第八條** 土地收用法第三十二條ノ規定ニ依リ地方長官ノ許可ヲ



受ケムトスル者ハ工事計畫書及圖面ヲ添ヘ左ニ掲ケタル事項ヲ記載シ出願スヘシ

- 一 工事ノ種類
- 二 收用又ハ使用スヘキ土地ノ細目
- 三 其ノ必要ヲ生セシメタル事業トノ關係

本條ノ場合ニ於テハ第三條ノ規定ヲ準用ス

**第九條** 土地收用法第三十二條ノ規定ニ依リ許可ヲ與ヘタルトキハ地方長官ハ收用又ハ使用スヘキ土地ノ細目ト共ニ起業者及工事ノ種類ヲ公告シ又ハ之ヲ土地所有者及關係人ニ通知スヘシ

**第十條** 土地收用法第十九條ノ地方長官ノ公告又ハ通知ノ後事業ヲ廢止變更シタルニ因リテ土地ヲ收用又ハ使用スルノ必要ナキニ至リタルトキハ起業者ハ之ヲ地方長官ニ届出ツヘシ

地方長官前項ノ届出ヲ受ケタルトキハ之ヲ公告シ又ハ土地所有者及關係人ニ通知スヘシ

**第十一條** 收用審査會會長及委員ニハ旅費ヲ支給ス

**第十二條** 收用審査會會長及高等文官ニシテ委員タル者ノ旅費額及其ノ支給方法ハ内國旅費規則ノ定ムル所ニ依ル

高等文官ニ非サル委員ノ旅費額及其ノ支給方法ハ府縣制第九十四條ノ規定ニ從ヒ定ムル所ニ依ル

**第十三條** 鑑定人及事實參考人ノ旅費額ハ鐵道賃及船賃ハ二等以下ノ運賃ニ於テ、車馬賃(汽船ヲ通セサル水路ノ船賃ヲ含

ム)ハ一里ニ付七十五錢以下ニ於テ收用審査會ノ定ムル所ニ依ル

通路兩線以上アルトキハ最近ノ通路ヲ以テ旅費ヲ算定ス

**第十四條** 鑑定人及事實參考人ノ手當ハ一日金二圓乃至十圓ノ範圍内ニ於テ收用審査會ノ定ムル所ニ依ル

鑑定ヲ爲スニ付數多ノ時間又ハ特別ノ技能若ハ費用ヲ要スルトキハ前項ノ手當ノ外別ニ相當ノ金額ヲ給スルコトヲ得

**第十五條** 土地收用法第五十九條ノ規定ニ依リ地方長官カ決定ヲ爲シタル場合ニ於テハ前二條ノ旅費額及手當ハ地方長官ノ定ムル所ニ依ル

**第十六條** 土地收用法第十九條ノ二及第五十六條ニ規定シタル行政廳ノ職權ハ地方長官之ヲ行フ但シ物件ノ附加増置其ノ他輕易ナル事項ニ關シテハ地方長官ハ之ヲ市町村長ニ委任スルコトヲ得

**第十七條** 土地收用法第六十七條ノ規定ニ依ル公告ハ其ノ地方ノ新聞紙ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

**第十八條** 土地收用法第七十四條ニ規定シタル行政廳ノ職權ハ同法第七十一條ノ場合ニ於テハ市町村長之ヲ行ヒ其ノ他ノ場合ニ於テハ地方長官之ヲ行フ

附 則

本令ハ明治三十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

●土地收用法第六條ニ基キテ發スル命令ノ件

明治三十三年三月  
勅 令 第 百 號

**第一條** 本令ハ土地收用法又ハ土地收用法ニ基ツキテ發スル命令ニ規定シタル期間ノ計算法、通知ノ方法及書類ノ送達ニ關シテ之ヲ適用ス

**第二條** 期間ヲ定ムルニ時ヲ以テシタルトキハ即時ヨリ之ヲ起算ス

**第三條** 期間ヲ定ムルニ日、週、月又ハ年ヲ以テシタルトキハ期間ノ初日ハ之ヲ算入セス但シ其ノ期間カ午前零時ヨリ始マルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ場合ニ於テハ期間ノ末日ノ終了ヲ以テ期間ノ滿了トス

**第四條** 期間ノ末日カ大祭日、日曜日ニ當ルトキハ期間ハ其ノ翌日ヲ以テ滿了ス但シ行政廳ニ對スル期間ハ其ノ末日カ行政廳ノ休日ニ當ルトキハ其ノ休日ノ終了シタル翌日ヲ以テ滿了ス

**第五條** 期間ヲ定ムルニ週、月又ハ年ヲ以テシタルトキハ曆ニ從ヒテ之ヲ算ス

週、月又ハ年ノ始メヨリ期間ヲ起算セサルトキハ其ノ期間ハ

最後ノ週、月又ハ年ニ於テ其ノ起算日ニ應當スル日ノ前日ヲ以テ滿了ス但シ月又ハ年ヲ以テ期間ヲ定メタル場合ニ於テ最後ノ月ニ應當日ナキトキハ其ノ月ノ末日ヲ以テ滿了ス

**第六條** 土地收用法第十八條第二十五條及第三十四條ノ期間ハ郵便ニ依リ書類ヲ差出シタル場合ニ於テハ其ノ遞送ニ要スル日時ヲ算入セス

**第七條** 通知ハ書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシ但シ内務大臣カ定メタル場合ニ於テハ口頭ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

**第八條** 書類ノ送達ニシテ送達者自ラ送達セサル場合ニ於テハ使丁又ハ書留郵便ニ依ルコトヲ得

**第九條** 數人カ一人ノ代理人ヲ有スル場合ニ於テ其ノ代理人ニ爲スヘキ送達ハ一通ノ書類ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

一人カ數人ノ代理人ヲ有スル場合ニ於テ其ノ代理人ニ爲スヘキ送達ハ其ノ一人ニ之ヲ爲スコトヲ得

**第十條** 委任ニ因ル代理人アル場合ニ於テモ其ノ委任者ニ爲シタル送達ハ其ノ效力ヲ妨ケス

**第十一條** 無能力者ニ對スル送達ハ其ノ法定代理人ニ之ヲ爲スヘシ但シ委任ニ因ル代理人アルトキハ此ノ限ニ在ラス

法人又ハ組合ニ對スル送達ハ其ノ代表者又ハ業務執行者ニ之ヲ爲スヘシ

前項ノ代表者又ハ業務執行者數人アル場合ニ於テハ送達ハ其ノ一人ニ之ヲ爲スコトヲ得



組合ニシテ業務執行者ヲ定メサル場合ニ於テハ送達ハ其ノ組合員ノ一人ニ之ヲ爲スコトヲ得

第十二條 現役及召集中ノ豫備、後備ノ軍籍ニ在ル下士以下ノ軍人ニ對スル送達ハ其ノ所屬ノ長官又ハ隊長ニ之ヲ爲スコトヲ得

第十三條 在監人ニ對スル送達ハ其ノ監獄ノ首長ニ之ヲ爲スヘシ

第十四條 送達ハ送達ヲ受クヘキ人ノ現所在地ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得  
前項ノ規定ハ送達ヲ受クヘキ人カ其ノ地ニ於テ住所、居所又ハ事務所ヲ有スル場合ニ於テ其ノ受領ヲ拒ミタルトキハ之ヲ適用セス

第十五條 送達ヲ受クヘキ人其ノ住所、居所又ハ事務所ニ在ラサルトキハ其ノ送達ハ現場ニ在ル成年ノ同居者又ハ雇人ニ之ヲ爲スコトヲ得

第十一條第二項ノ場合ニ於テ代表者又ハ業務執行者事務所ニ在ラサルトキハ送達ハ現場ニ在ル他ノ役員又ハ成年ノ雇人ニ之ヲ爲スコトヲ得  
前二項ノ規定ニ依リ送達ヲ爲スコト能ハサルトキハ其ノ送達ハ交付スヘキ書類ヲ其ノ地ノ市町村長ニ預ケ送達ノ告知書ヲ作り之ヲ住所又ハ居所ノ門戸ニ貼付シ且近鄰ニ住居スル者二人以上ニ口頭ヲ以テ通知シテ之ヲ爲スコトヲ得

第十六條 法令上ノ理由ナクシテ送達書類ヲ受領セス又ハ受領スルコト能ハサルトキハ其ノ書類ヲ送達ノ場所ニ差置クコトヲ得此ノ場合ニ於テハ送達人ハ其ノ調書ヲ作ルヘシ

●土地收用法ニ依ル合同收用審査會ニ關スル件

明治三十三年三月 勅令第百一號

第一條 合同收用審査會ヲ開カムトスルトキハ關係地方長官協議ヲ爲シ内務大臣ノ認可ヲ受クヘシ協議調ハサルトキハ内務大臣ノ指揮ヲ請フヘシ

第二條 合同收用審査會會長ハ開會地ノ地方長官ヲ以テ之ニ充テ其ノ委員ハ關係府縣收用審査會委員ヲ以テ之ニ充ツ

第三條 土地收用法第二十六條乃至第二十九條ニ規定シタル地方長官ノ職權ハ合同收用審査會ヲ開キタル場合ニ於テハ開會地ノ地方長官之ヲ行フ

第四條 合同收用審査會ノ費用ニシテ府縣ノ負擔スヘキモノノ中等等文官ニ非サル委員ノ旅費ハ其ノ所屬府縣ノ負擔トシ其ノ他ハ關係府縣ノ分擔トス

附 則  
本令ハ明治三十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

●土地收用法ニ依ル命令ノ件

明治三十三年三月 勅令第百二號

第一條 收用審査會ノ費用中左ニ掲ケタルモノハ起業者ノ負擔トス

第十七條 書類ノ送達ヲ受領シタル者ハ其ノ場所及年月日時ヲ記載セル受領證ヲ交付スヘシ  
前項ノ受領證ヲ交付セス又ハ交付スルコト能ハサルトキ又ハ第十五條第三項ノ規定ニ依リ送達ヲ爲シタルトキハ送達人ハ其ノ調書ヲ作ルヘシ

第十八條 送達ヲ受クヘキ者ノ住所、居所又ハ事務所不明ナルトキハ收用又ハ使用スヘキ土地所在ノ市町村長ニ於テ之ヲ公告スヘシ  
前項ノ場合ニ於テ公告ノ日ヨリ一週間ヲ經過シタルトキハ送達ヲ爲シタルモノト看做ス

第十九條 書類ノ送達ニ關スル規定ハ通知ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第二十條 訴願及訴訟提起期間ノ計算法ハ訴願法行政裁判法及民事訴訟法ノ規定ヲ適用ス

第二十一條 書留郵便ニ依リテ爲ス送達ニ付テハ郵便ニ關スル法令ノ規定ヲ適用ス

附 則  
本令ハ明治三十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

- 一 鑑定人及事實參考人ノ旅費及手當
- 二 裁決書謄本ノ調製費
- 三 郵便及電信料
- 四 傭人料
- 五 其ノ他内務大臣ノ指定シタルモノ

第二條 收用審査會ノ費用中收用審査會會長及高等文官ニシテ委員タル者ノ旅費ハ所屬官廳ノ經費ヲ以テ之ヲ支辨ス

第三條 土地收用法第五十九條ノ場合ニ要シタル費用ニ付テハ前二條ノ規定ヲ準用ス

附 則  
本令ハ明治三十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

●土地收用法第八十五條第三項ニ基ツキテ發スル命令ノ件

明治三十三年三月 勅令第百三號

明治八年太政官達第百三十二號公用土地買上規則ニ依リ買上ケ引續キ國有ニ屬スル土地ニ付テハ左ノ各號ノ一ニ該當スル土地ヲ除クノ外土地收用法第八十五條第一項及第二項ノ規定ヲ準用ス

- 一 公用土地買上規則第四則但書又ハ第八則ノ規定ニ依ラスシテ買上ケタル土地



- 二 府縣郡市町村其ノ他公共團體ニ於テ土地收用法施行ノ際現ニ修理保存費ヲ負擔スル土地
- 三 明治三十二年勅令第三百三十三條第一條ノ規定ニ依リ帝國ノ臣民又ハ法人ニ於テ所有權ヲ取得スルコトヲ得ヘキ土地
- 四 土地收用法施行前不用ニ歸シタル土地
- 五 土地收用法施行前第三者ニ讓渡スヘキ契約ヲ爲シタル土地

附 則

本令ハ明治三十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

●都市計畫法

大正八年四月 昭和九年  
法律第三十六號 五四號改正

- 第一條 本法ニ於テ都市計畫ト稱スルハ交通、衛生、保安、經濟等ニ關シ永久ニ公共ノ安寧ヲ維持シ又ハ福利ヲ増進スル爲ノ重要施設ノ計畫ニシテ市若ハ主務大臣ノ指定スル町村ノ區域ニ於テ又ハ其ノ區域外ニ互リ執行スヘキモノヲ謂フ
  - 第二條 都市計畫區域ハ市又ハ前條ノ町村ノ區域ニ依リ主務大臣之ヲ決定ス
- 主務大臣必要ト認ムルトキハ關係市町村及都市計畫委員會ノ意見ヲ聞キ前項ノ區域ニ拘ラス都市計畫區域ヲ決定スルコトヲ得

- 第三條 都市計畫、都市計畫事業及毎年度執行スヘキ都市計畫事業ハ都市計畫委員會ノ議ヲ經テ主務大臣之ヲ決定シ内閣ノ認可ヲ受クヘシ
- 第四條 都市計畫委員會ノ組織、權限及費用ニ關スル規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
- 第五條 都市計畫事業ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ行政廳之ヲ執行ス
- 第六條 都市計畫事業ノ執行ニ要スル費用ハ行政官廳之ヲ執行スル場合ニ在リテハ其ノ公共團體、行政廳ニ非サル者之ヲ執行スル場合ニ在リテハ其ノ者ノ負擔トス
- 第七條 主務大臣必要ト認ムルトキハ前條ノ規定ニ依リ公共團體ノ負擔スヘキ毎年度ノ金額ノ最低限度ヲ定ムルコトヲ得
- 第八條 公共團體ハ第四條又ハ第六條ノ費用ニ充ツル爲左ノ特別稅ヲ賦課スルコトヲ得但シ府縣費ヲ市ニ分賦スル場合ニ於テ市カ營業稅、雜種稅又ハ家屋稅ヲ賦課スルトキハ主務大臣

追録第十號

- ノ許可ヲ受ケ其ノ稅率ヲ定ムヘシ
  - 一 地租制 地租百分ノ九以內
  - 二 營業收益稅制 營業收益稅百分ノ二十二以內
  - 三 營業稅、雜種稅又ハ家屋稅 各府縣稅十分ノ四以內
  - 四 特別地稅、賃賃價格千分ノ三、四以內
  - 五 其ノ他勅令ヲ以テ定ムルモノ
- 營業收益稅制ノ賦課ニ付テハ營業收益稅法第十條第二項ノ規定ニ依リ資本利子稅額ノ控除ヲ爲ササルモノヲ以テ營業收益稅額ト看做ス
- 特別地稅ノ賦課率ハ當該年度ノ負算ニ於テ定メタル田畑ニ對スル地租割ノ賦課率ヲ以テ算定シタル地租割額ノ當該田畑ノ賃賃價格ニ對スル比率ヲ超ユルコトヲ得ス
- 公共團體ハ主務大臣ノ許可ヲ受ケ公共團體ノ他ノ收入ヲ以テ第四條又ハ第六條ノ費用ニ充ツルコトヲ得
- 第九條 都市計畫區域內ニ存スル國有河岸地ニシテ公共ノ用ニ供セサルモノハ第六條ノ費用ヲ負擔スル公共團體ニ之ヲ下付スルコトヲ得
- 第十條 都市計畫區域內ニ於テ市街地建築物法ニ依ル地域又ハ地區ノ指定、變更又ハ廢止ヲ爲ストキハ都市計畫ノ施設トシテ之ヲ爲スヘシ
- 都市計畫區域內ニ於テハ市街地建築物法ニ依ル地域及地區ノ外土地ノ狀況ニ依リ必要ト認ムルトキハ風致又ハ風紀ノ維持ノ爲特ニ地區ヲ指定スルコトヲ得

- 第十一條 第十六條第一項ノ土地ノ境域內又ハ前條第二項ノ規定ニ依リ指定スル地區內ニ於ケル建築物、土地ニ關スル工事又ハ權利ニ關スル制限ニシテ都市計畫上必要ナルモノハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
  - 第十二條 都市計畫區域內ニ於ケル土地ニ付テハ其ノ宅地トシテノ利用ヲ増進スル爲土地區劃整理ヲ施行スルコトヲ得
  - 第十三條 都市計畫區域內ニ於ケル土地ニ付テハ其ノ宅地トシテノ利用ヲ増進スル爲土地區劃整理ヲ施行スルコトヲ得
  - 第十四條 地方長官土地區劃整理ノ設計ニ關スル認可ヲ爲ス場合ニ於テハ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ
  - 第十五條 土地區劃整理ヲ施行シタル土地ノ地價ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ定ム
  - 第十六條 道路、廣場、河川、港灣、公園其ノ他勅令ヲ以テ指定スル施設ニ關スル都市計畫事業ニシテ内閣ノ認可ヲ受ケタルモノニ必要ナル土地ハ之ヲ收用又ハ使用スルコトヲ得
- 前項土地附近ノ土地ニシテ都市計畫事業トシテノ建築敷地造成ニ必要ナルモノハ勅令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ收用又ハ使用

追録第十號



スルコトヲ得

第十七條 土地區劃整理ノ爲又ハ衛生上若ハ保安上ノ必要ニ依ル建築物ノ整理ノ爲必要アルトキハ建造物其ノ他ノ工作物ヲ收用スルコトヲ得

第十八條 前二條ノ規定ニ依ル收用又ハ使用ニ關シテハ本法ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外土地收用法ヲ適用ス

第十九條 第十六條又ハ第十七條ノ規定ニ依ル收用又ハ使用ニ付テハ第三條ノ規定ニ依ル都市計畫ノ認可ヲ以テ土地收用法ニ依ル事業ノ認定ト看做ス

第二十條 土地收用法第二十二條第一項ノ協議調ハサル場合又ハ其ノ協議ヲ爲スコト能ハサル場合ニ於テハ事業執行者ハ主務大臣ノ裁定ヲ求ムルコトヲ得

第二十一條 第九條ノ規定ニ依リ下付ヲ受ケタル土地及第十六條第二項ノ規定ニ依リ收用シタル土地ノ處分及管理ニ關シテハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十二條 都市計畫事業ニ依リ生シタル營造物ノ管理ニ付キ特ニ必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ管理者ヲ定ム

第二十三條 行政執行法第五條及第六條ノ規定並之ニ基キテ發度分國稅營業稅割ノ賦課ニ付テハ免除セラレサルモノト看做ス

第二十四條 本法若ハ本法ニ基キテ發スル命令又ハ之ニ依リテ爲ス處分ニ依リ行フヘキ作爲又ハ不作爲ヲ行政廳カ強制スル場合ニ之ヲ準用ス

第二十五條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令又ハ之ニ依リテ爲ス處分ニ依リ私人ノ義務ニ屬スル負擔金其ノ他ノ費用ハ行政廳國稅滯納處分ノ例ニ依リ之ヲ徵收スルコトヲ得

第二十六條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ規定シタル事項ニ付行政廳ノ爲シタル違法處分ニ因リ權利ヲ毀損セラレタリトスル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第二十七條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム (大正八年十一月勅令第四百八十一號ヲ以テ九年一月一日ヨリ施行)

第二十八條 東京市區改正條例、東京市區改正土地建物處分規則及大正七年法律第三十六號並之ニ基キテ發シタル命令ハ之ニ依リ行フヘキ作爲又ハ不作爲ヲ行政廳カ強制スル場合ニ之ヲ準用ス

第二十九條 東京市區改正條例及東京市區改正土地建物處分規則ノ適用又ハ準用ヲ受ケタル市ハ第二條ノ規定ニ依リ指定セラレタルモノト看做ス

第三十條 東京市區改正條例又ハ大正七年法律第三十六號ニ依リ内閣ノ認可ヲ受ケタル設計又ハ議定シタル事業ハ各本法ニ依リ内閣ノ認可ヲ受ケタル都市計畫又ハ都市計畫事業ト看做ス

第三十一條 東京市區改正條例、東京市區改正土地建物處分規則若ハ大正七年法律第三十六號又ハ之ニ基キテ發シタル命令ニ依リ爲シタル處分ハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ抵觸セサル限り本法ニ依リ爲シタル處分ト看做ス

第三十二條 東京市區改正土地建物處分規則ノ適用又ハ準用ニ依リ行政廳ノ爲シタル處分ニ關シテハ同規則第一條第二項乃至第四項ハ仍其ノ效力ヲ有ス

第三十三條 東京市區改正條例又ハ大正七年法律第三十六號大正七年勅令第四百八十四號ニ依リ下附ヲ受ケタル官有ノ河岸地ハ其ノ下附ヲ受ケタル市ノ所有ニ屬スル間地租ヲ免除ス但シ其ノ市ノ都市計畫事業ノ終リタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第三十四條 前項ノ河岸地ヨリ收入スル金額ハ其ノ市ノ都市計畫事業ノ終ル迄之ヲ他ニ支出スルコトヲ得ス

第三十五條 第一項ノ河岸地ノ下附ヲ受ケタル市ハ之ヲ賣却讓與スルコトヲ得ス但シ已ムヲ得サル場合ニ於テ都市計畫委員會ノ議決ヲ經テ主務大臣ノ認可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

スル命令ハ本法若ハ本法ニ基キテ發スル命令又ハ之ニ依リテ爲ス處分ニ依リ行フヘキ作爲又ハ不作爲ヲ行政廳カ強制スル場合ニ之ヲ準用ス

第二十四條 本法若ハ本法ニ基キテ發スル命令又ハ之ニ依リテ爲ス處分ニ依リ私人ノ義務ニ屬スル負擔金其ノ他ノ費用ハ行政廳國稅滯納處分ノ例ニ依リ之ヲ徵收スルコトヲ得

第二十五條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ規定シタル事項ニ付行政廳ノ爲シタル違法處分ニ因リ權利ヲ毀損セラレタリトスル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第二十六條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ規定シタル事項ニ付行政廳ノ爲シタル違法處分ニ因リ權利ヲ毀損セラレタリトスル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第二十七條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム (大正八年十一月勅令第四百八十一號ヲ以テ九年一月一日ヨリ施行)

第二十八條 東京市區改正條例、東京市區改正土地建物處分規則及大正七年法律第三十六號並之ニ基キテ發シタル命令ハ之ニ依リ行フヘキ作爲又ハ不作爲ヲ行政廳カ強制スル場合ニ之ヲ準用ス

第二十九條 東京市區改正條例及東京市區改正土地建物處分規則ノ適用又ハ準用ヲ受ケタル市ハ第二條ノ規定ニ依リ指定セラレタルモノト看做ス

第三十條 東京市區改正條例又ハ大正七年法律第三十六號ニ依リ内閣ノ認可ヲ受ケタル設計又ハ議定シタル事業ハ各本法ニ依リ内閣ノ認可ヲ受ケタル都市計畫又ハ都市計畫事業ト看做ス

第三十一條 東京市區改正條例、東京市區改正土地建物處分規則若ハ大正七年法律第三十六號又ハ之ニ基キテ發シタル命令ニ依リ爲シタル處分ハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ抵觸セサル限り本法ニ依リ爲シタル處分ト看做ス

第三十二條 東京市區改正土地建物處分規則ノ適用又ハ準用ニ依リ行政廳ノ爲シタル處分ニ關シテハ同規則第一條第二項乃至第四項ハ仍其ノ效力ヲ有ス

第三十三條 東京市區改正條例又ハ大正七年法律第三十六號大正七年勅令第四百八十四號ニ依リ下附ヲ受ケタル官有ノ河岸地ハ其ノ下附ヲ受ケタル市ノ所有ニ屬スル間地租ヲ免除ス但シ其ノ市ノ都市計畫事業ノ終リタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第三十四條 前項ノ河岸地ヨリ收入スル金額ハ其ノ市ノ都市計畫事業ノ終ル迄之ヲ他ニ支出スルコトヲ得ス

第三十五條 第一項ノ河岸地ノ下附ヲ受ケタル市ハ之ヲ賣却讓與スルコトヲ得ス但シ已ムヲ得サル場合ニ於テ都市計畫委員會ノ議決ヲ經テ主務大臣ノ認可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第三十六條 本法ハ大正十五年分ヨリ之ヲ適用ス但シ營業收益稅割ニ關スル改正規定ハ大正十六年度分ヨリ之ヲ適用ス

第三十七條 營業稅廢止法律ニ依リテ免除セラレル營業稅額ハ大正十五年

第六條 國有財産

度分國稅營業稅割ノ賦課ニ付テハ免除セラレサルモノト看做ス

昭和一〇年 昭和一〇年 昭和一〇年

昭和一〇年 昭和一〇年 昭和一〇年

昭和一〇年 昭和一〇年 昭和一〇年

昭和一〇年 昭和一〇年 昭和一〇年

昭和一〇年 昭和一〇年 昭和一〇年

昭和一〇年 昭和一〇年 昭和一〇年

昭和一〇年 昭和一〇年 昭和一〇年

昭和一〇年 昭和一〇年 昭和一〇年

昭和一〇年 昭和一〇年 昭和一〇年

昭和一〇年 昭和一〇年 昭和一〇年

昭和一〇年 昭和一〇年 昭和一〇年

昭和一〇年 昭和一〇年 昭和一〇年

昭和一〇年 昭和一〇年 昭和一〇年

昭和一〇年 昭和一〇年 昭和一〇年

昭和一〇年 昭和一〇年 昭和一〇年

昭和一〇年 昭和一〇年 昭和一〇年

昭和一〇年 昭和一〇年 昭和一〇年

昭和一〇年 昭和一〇年 昭和一〇年

昭和一〇年 昭和一〇年 昭和一〇年

昭和一〇年 昭和一〇年 昭和一〇年

昭和一〇年 昭和一〇年 昭和一〇年

昭和一〇年 昭和一〇年 昭和一〇年

昭和一〇年 昭和一〇年 昭和一〇年



第四條 前三條ノ規定ハ行政官廳都市計畫事業ヲ執行スル場合ニ之ヲ適用セス

第五條 行政官廳ニ非サル者ヲシテ執行セシムルコトヲ得ル都市計畫事業ノ種類及範圍ハ關係行政官廳ノ意見ヲ聞キ都市計畫委員會議ヲ經テ內務大臣之ヲ定ム

第六條 行政官廳ニ非サル者都市計畫事業ヲ執行セムトスルトキハ內務大臣ニ特許ヲ申請スヘシ

第七條 內務大臣ハ前條ノ特許ニ都市計畫上其ノ他公益上必要ト認ムル條件ヲ附スルコトヲ得

第八條 第六條ノ特許ヲ受ケタル者事業ヲ實施セムトスルトキハ設計書ヲ添附シ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

第九條 左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ非サレハ都市計畫事業ニ因リ著シク利益ヲ受クル者ヲシテ事業ノ執行ニ要スル費用ヲ負擔セシムルコトヲ得ス

一 行政官廳ノ執行スル事業ニ因リ公共團體カ著シク利益ヲ受クルトキ

二 事業地ノ公共團體以外ノ公共團體ヲ又ハ上級公共團體ヲ統轄スル行政官廳ニ於テ執行スル事業ニ因リ事業地ノ公共團體カ著シク利益ヲ受クルトキ

三 事業ニ因リ生シタル營造物カ他ノ工作物ト效用ヲ兼ヌルニ因リ著シク利益ヲ受クル者アルトキ又ハ其ノ營造物ヲ利用スルニ因リ著シク利益ヲ受クル者アルトキ

四 前各號ノ外都市計畫事業ニ因リ著シク利益ヲ受クル者ニシテ內務大臣ヨリ指定セラレタルモノアルトキ

第十條 都市計畫法第六條第二項ノ規定ニ依リ負擔セシムル費用ノ金額及其ノ負擔方法ニ付テハ關係市町村長ノ意見ヲ聞キ都市計畫委員會ノ議ヲ經テ內務大臣之ヲ定ム

第十一條 都市計畫法第十六條第一項ノ土地ノ境域内ニ於テ工作物ヲ新築改築増築若ハ除却シ、土地ノ形質ヲ變更シ又ハ地方長官ノ指定シタル竹木土石ノ類ヲ採取セムトスル者ハ地方長官ノ許可ヲ受クヘシ但シ命令ヲ以テ許可ヲ要セスト規定シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十二條 地方長官ハ前條ノ許可ニ都市計畫事業ノ執行上必要ナル條件ヲ附スルコトヲ得

第十三條 風致維持ノ爲指定スル地區内ニ於ケル工作物ノ新築改築増築若ハ除却、土地ノ形質ノ變更、竹木土石ノ類ノ採取其ノ他風致維持ニ影響ヲ及ホス虞アル行爲ハ地方長官內務大臣ノ認可ヲ受ケ命令ヲ以テ之ヲ禁止シ又ハ制限スルコトヲ得

第十四條 地方長官ハ第十一條ノ規定ニ、前條ノ命令ニ又ハ第十二條ノ條件ニ違反シタル者ニ對シ原狀回復ヲ命スルコトヲ得

第十五條 都市計畫法第十三條第一項ノ規定ニ依ル公共團體ノ土地區劃整理ノ施行ハ內務大臣之ヲ命ス

第十六條 前條ノ土地區劃整理ノ施行ニ要スル費用ハ整理地區内ノ土地所有者又ハ關係人ノ負擔トス

前條ノ土地區劃整理ノ地區外ノ土地所有者又ハ關係人ニシテ其ノ施行ニ因リ著シク利益ヲ受クル者アルトキハ內務大臣ノ定ムル區域ニ依リ之ヲシテ其ノ受クル利益ノ限度ニ於テ前項ノ費用ノ一部ヲ負擔セシムルコトヲ得

第十七條 公共團體第十五條ノ規定ニ依リ土地區劃整理ノ施行ヲ命セラレタルトキハ設計書、費用負擔方法及耕地整理法ニ基テ規約ニ代ルヘキ必要事項ヲ定メテ之ヲ告示シ十日間土地所有者及關係人ノ縦覽ニ供シタル後地方長官ノ認可ヲ受クヘシ土地所有者又ハ關係人前項ノ規定ニ依リ定メタル設計書、

費用負擔方法其ノ他ノ事項ニ關シ異議アルトキハ前項ニ掲クル期間内ニ地方長官ニ之ヲ申出ツルコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル異議ノ申出アリタルトキハ地方長官ハ都市計畫委員會ノ議決ニ付スヘシ

地方長官ハ前項ノ議決カ第一項ノ規定ニ依リ定メタル設計書、費用負擔方法其ノ他ノ事項ノ變更ヲ必要トスルトキハ公共團體ニ其ノ變更ヲ命スヘシ公共團體カ變更ヲ爲シタルトキハ其ノ變更シタル部分ニ付第一項ノ手續ヲ爲スヘシ

第十八條 前二條ノ土地所有者及關係人ノ意見ニ關シテハ耕地整理法ノ定ムル所ニ依ル

第十九條 第十五條ノ土地區劃整理ノ施行ニ付テハ耕地整理法ノ準用ニ關シテハ同法第四十二條ノ二、第四十七條及第四十八條ノ組合ハ土地區劃整理ヲ施行スル公共團體トシ同法第四十三條第一項及第四十四條ノ耕地整理組合ノ地區ハ土地區劃整理ノ地區トス

第二十條 土地區劃整理ヲ施行シタル土地ノ賃賃價格ニ關シテハ耕地整理法第十二條乃至第十三條ノ二、第十四條第二項、第三項、第十四條ノ二乃至第十六條及第十六條ノ三乃至第十四條ノ八ノ規定ヲ準用ス此ノ場合ニ於テハ大正七年法律第四十三號ノ規定ニ依ル地租變更免租年額ヲ有スル土地及同法第四十一條第一項各號ニ掲クル土地ハ之ヲ耕地整理法第十五條第一項ニ掲クル免租年額ヲ有スル土地ト看做ス

土地區劃整理ノ施行ニ依リ開墾、地目變換又ハ地類變換ヲ爲シタル場合ニ於テハ工事完了ノトキ開墾又ハ變換シタル土地ニ對シ從前ノ地域ニ依リ地租法第九條第三項ノ規定ニ準シ其ノ賃賃價格ヲ修正シ修正賃賃價格ヲ以テ耕地整理法第十三條

第二項ノ現賃賃價格トス

第一項ノ場合ニ於テハ前項ノ規定ヲ耕地整理法第十四條第二

項、第三項及第十四條ノ三、第十五條、第十六條、第十六條ノ八中ノ同法第十四條第一項ノ規定ト看做ス

第二十一條 鐵道、軌道、運河、飛行場、水道、下水道、土地區劃整理、運動場、一團地ノ住宅經營、市場、屠場、墓地、火葬場、塵埃燒却場及防風、防火、防水、防砂又ハ防潮ノ施設ハ都市計畫法第十六條第一項ノ規定ニ依リ之ヲ指定ス

第二十二條 都市計畫法第十六條第二項ノ規定ニ依リ收用又ハ使用ハ土地區劃整理ヲ施行スル必要アル場合ニ限り之ヲ爲スコトヲ得

第二十三條 前條ノ規定ニ依リ收用シタル土地ハ土地區劃整理ノ工事完了後ニ非サレハ之ヲ賣却シ又ハ貸付スルコトヲ得ス

第二十四條 前條ノ規定ニ依ル土地ノ賣却又ハ貸付ハ左ニ掲クル者ニ對シ每筆競争入札ニ依リ之ヲ行フ

一 其ノ土地ノ附近地カ都市計畫法第十六條第一項ノ規定ニ依リ收用セラレタル場合ニ於テ其ノ收用セラレタル附近地ノ全部又ハ一部ヲ收用ノ際所有シタル者又ハ其ノ相續人

二 前條ノ附近地ノ上ニ存シタル家屋ヲ其ノ附近地收用ノ際所有シタル者

三 其ノ土地ノ全部又ハ一部ヲ其ノ土地收用ノ際所有シタル者又ハ其ノ相續人

前項ニ掲クル者一人ナルトキハ其ノ者ニ對シ隨意契約ニ依リ賣却又ハ貸付スルコトヲ得

第二十五條 前條ノ規定ニ依リ賣却又ハ貸付スルコトヲ得サル土地ノ賣却又ハ貸付ニ付テハ一般ノ競争入札ニ依ル

第二十六條 一宅地ヲ爲スニ足ラサル殘地ハ隣地所有者ニ對シ隨意契約ニ依リ賣却又ハ貸付スルコトヲ得



第二十七條 都市計畫事業ニ要スル國有地ハ事業ノ執行ニ要スル費用ヲ負擔スル公共團體ヲシテ無償ニテ之ヲ供用セシメ其ノ地ニ存スル國有ノ建築物ハ無償ニテ其ノ公共團體ニ之ヲ交付ス

第二十八條 都市計畫法第九條ノ規定ニ依リ下付ヲ受ケタル土地ハ都市計畫事業ノ財源ト爲ス爲基本財産トシテ管理スヘシ但シ特別ノ事由ニ依リ内務大臣ノ認可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二十九條 公共團體ハ第二十三條ノ土地ノ賣却若ハ貸付ニ付又ハ都市計畫法第十六條第二項ノ規定ニ依リ收用シタル土地若ハ前二條ノ土地ノ管理方法ニ付必要ナル規定ヲ定メ地方長官ヲ經由シ内務大臣ノ認可ヲ受ケタヘシ

第三十條 内務大臣必要ト認ムルトキハ都市計畫事業ニ依リ生シタル營造物ノ管理者ヲ指定スルコトヲ得

附 則

本令ハ都市計畫法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス (大正九年一月ヨリ施行)

附 則 (昭和六年勅令第四十五號)

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

昭和六年法律第二十九號附則第三條、第五條、第九條乃至第十四條及第十八條ノ規定ハ土地區劃整理ヲ施行シタル土地ノ賃貸價格ニ付之ヲ準用ス

前項ノ場合ニ於テハ第二十條第二項ノ改正規定ヲ耕地整理法附則第九條、第十條及第十八條中ノ同法第十四條第一項ノ規定ト看做ス

附 則 (昭和八年勅令第八十四號)

本令ハ昭和八年法律第二十二號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

大正十二年勅令第二百七十六號、大正十三年勅令第三百三十五號、大正十四年勅令第三十二號、大正十五年勅令第十一號、昭和二年勅令第三十五號、同年勅令第三百五十六號、昭和三年勅令第二百二十五號、昭和四年勅令第七十四號、昭和五年勅令第四百二十二號、昭和六年勅令第二百七十四號、昭和七年勅令第三百二十二號及昭和八年勅令第七號ハ之ヲ廢止ス

附 則 (昭和十年勅令百一十一號)

第二十條第一項ノ改正規定ハ本令施行前土地區劃整理ノ工事ニ著手シタル土地ニモ亦之ヲ適用ス此ノ場合ニ於テハ耕地整理法第十五條第一項ノ規定ノ準用ニ付テハ同項中工事著手ノトキトアルハ工事著手ノ時ノ現況ニ依リトス

● 道 路 法

大正八年四月 大正一二年  
法律第五十八號 三號改正

第一章 總 則

第一條 本法ニ於テ道路ト稱スルハ一般交通ノ用ニ供スル道路ニシテ行政廳ニ於テ第二章ニ依リ認定ヲ爲シタルモノヲ謂フ

第二條 左ニ掲ケタルモノハ道路ノ附屬物トシ道路ニ關スル本法ノ規定ニ從フ但シ命令ヲ以テ特別ノ定ヲ爲スコトヲ得  
一 道路ヲ接續スル橋梁及渡船場  
二 道路ニ附屬スル溝、竝木、支壁、柵、道路元標、里程標及道路標識

道路第十號

第十條 國道ノ路線ハ左ノ路線ニ就キ主務大臣之ヲ認定ス

一 東京市ヨリ神宮、府縣廳所在地、師團司令部所在地、鎮守府所在地又ハ樞要ノ開港ニ達スル路線

二 主トシテ軍事ノ目的ヲ有スル路線

第十一條 府縣道ノ路線ハ左ノ路線ニシテ府縣内ノモノニ就キ府縣知事之ヲ認定ス

一 府縣廳所在地ヨリ隣接府縣廳所在地ニ達スル路線

二 府縣廳所在地ヨリ府縣内郡市役所所在地ニ達スル路線

三 府縣廳所在地ヨリ府縣内樞要ノ地、港津又ハ鐵道停車場ニ達スル路線

四 府縣内樞要ノ地ヨリ之ト密接ノ關係ヲ有スル樞要ノ地、港津又ハ鐵道停車場ニ達スル路線

五 府縣内樞要ノ港津ヨリ之ト密接ノ關係ヲ有スル樞要ノ地又ハ鐵道停車場ニ達スル路線

六 府縣内樞要ノ鐵道停車場ヨリ之ト密接ノ關係ヲ有スル樞要ノ地又ハ港津ニ達スル路線

七 數市町村ヲ連結スル重要ナル幹線ニシテ其ノ沿線地方ト密接ノ關係ヲ有スル樞要ノ地、港津又ハ鐵道停車場ニ達スル路線

八 樞要ノ港津又ハ鐵道停車場ヨリ之ト密接ノ關係ヲ有スル國道又ハ府縣道ニ連絡スル路線

九 地方開發ノ爲必要ニシテ將來前各號ノ一ニ該當スヘキ路

三 道路ニ接スル道路修理用材料ノ常置場

四 前各號ノ外命令ヲ以テ道路ノ附屬物ト定メタルモノ

第三條 本法ニ於テ橋梁又ハ渡船場ト稱スルハ前條第一號ノ橋梁又ハ渡船場ヲ謂フ

本法ニ於テ渡船場ト稱スルハ渡船ヲ包含ス

第四條 本法ニ於テ他ノ工作物ト稱スルハ堤防、堰堤、護岸、鐵道用橋梁其ノ他命令ヲ以テ定ムル工作物ヲ謂フ

第五條 本法ニ於テ道路ニ關スル工事ト稱スルハ道路ノ新設、改築及修繕ニ關スル工事ヲ謂フ

第六條 道路ヲ構成スル敷地其ノ他ノ物件ニ付テハ私權ヲ行使スルコトヲ得ス但シ所有權ノ移轉又ハ抵當權ノ設定若ハ移轉ヲ爲スハ此ノ限ニ在ラス

第七條 道路、沿道又ハ道路ノ附屬物ニ關スル本法ノ規定ハ命令ノ定ムル所ニ依リ新ニ道路、沿道又ハ道路ノ附屬物ト爲ルヘキモノニ關シ之ヲ準用スルコトヲ得

第二章 道路ノ種類、等級及路線ノ認定

第八條 道路ヲ分チテ左ノ四種トス

一 國道

二 府縣道

三 市道

四 町村道

第九條 道路ノ等級ハ前條記載ノ順序ニ依ル



線

第十二條 (削除)

第十三條 市道ノ路線ハ市内ノ路線ニ就キ市長之ヲ認定ス

第十四條 町村道ノ路線ハ町村内ノ路線ニ就キ町村長之ヲ認定ス

第十五條 市町村長ハ市町村ノ爲ト必要アル場合ニ限り市町村外ノ路線ニ就キ地元市町村長ノ意見ヲ聞キ路線ノ認定ヲ爲スコトヲ得

前項ノ路線ニシテ市長ノ認定シタルモノハ市道ノ路線、町村長ノ認定シタルモノハ町村道ノ路線トス

第十六條 上級ノ道路ト下級ノ道路ト路線力重複スル場合ニ於テハ其ノ重複スル部分ハ上級ノ道路トス

第三章 道路ノ管理

第十七條 國道ハ府縣知事、其ノ他ノ道路ハ其ノ路線ノ認定者ヲ以テ管理者トス但シ勅令ヲ以テ指定スル市ニ於テハ其ノ市内ノ國道及府縣道ハ市長ヲ以テ管理者トス

第十八條 道路ニシテ行政區劃ノ境界ニ係ルモノハ命令ノ定ムル所ニ依リ前條ノ規定ニ依ル管理者タル關係行政廳ノ一ヲ以テ管理者ト爲スコトヲ得

道路ト他ノ工作物ト效用ヲ兼ヌル場合ニ於テハ其ノ道路及工作物ノ管理ニ付前項ノ規定ヲ準用ス但シ私人ヲ管理者ト爲スコトヲ得ス

一定ノ期間橋錢又ハ渡錢ヲ徴收スルコトヲ得ル橋梁又ハ渡船場ヲ設クルコトヲ得

前項ノ許可又ハ承認ヲ得タル者ハ徴收期間内橋梁又ハ渡船場ノ維持及修繕ヲ爲スヘシ

第二十七條 管理者ハ特別ノ事由アル場合ニ限り橋錢又ハ渡錢ヲ徴收スル橋梁又ハ渡船場ヲ設クルコトヲ得

第二十八條 管理者ハ交通ヲ妨ケサル限度ニ於テ道路ノ占用ヲ許可又ハ承認スルコトヲ得

國ノ事業ニ付テハ當該官廳ハ主務大臣ト協議シテ前項道路ノ占用ヲ爲スコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル主務大臣ノ職權ノ一部ハ之ヲ地方長官ニ委任スルコトヲ得

管理者ハ道路ノ占用ニ付占用料ヲ徴收スルコトヲ得但シ前二項ノ規定ニ依ル占用ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第二十九條 前條第一項ノ規定ニ依ル占用カ法令ニ依リ土地ヲ收用又ハ使用スルコトヲ得ル公共ノ利益トナルヘキ事業ニ係ルモノナル場合ニ於テ管理者正當ノ事由ナクシテ其ノ許可若ハ承認ヲ拒ミ又ハ不相當ナル占用料ヲ定メタルトキハ主務大臣ハ事業者ノ申請ニ依リ占用ヲ許可若ハ承認シ又ハ占用料ヲ定ムルコトヲ得

第三十條 管理者ハ其ノ管理ニ屬スル道路ノ臺帳ヲ調製スヘシ臺帳ニ記載スヘキ事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十九條 道路ノ區域ハ管理者之ヲ定ム

第二十條 道路ノ新設、改築、修繕及維持ハ管理者之ヲ爲スヘシ

主務大臣必要アリト認ムルトキハ國道ノ新設又ハ改築ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テ道路管理者ノ權限ハ命令ノ定ムル所ニ依リ主務大臣之ヲ行フ

第二十一條 道路ト他ノ工作物ト效用ヲ兼ヌル場合ニ於テハ管理者ハ其ノ工作物ノ管理者ヲシテ道路ニ關スル工事ヲ執行セシメ又ハ道路ノ維持ヲ爲サシムルコトヲ得但シ河川法第十條第一項ノ規定ニ該當スル場合ニ於テハ其ノ規定ニ依ル

第二十二條 他ノ工事又ハ行爲ノ爲必要ヲ生シタル道路ニ關スル工事ハ管理者其ノ工事執行者又ハ行爲者ヲシテ之ヲ執行セシムルコトヲ得

第二十三條 前二條ノ規定ニ依ル場合ノ外特別ノ事由アル場合ニ於テハ管理者タル行政廳ハ下級行政廳又ハ私人ヲシテ道路ノ修繕ニ關スル工事ヲ執行セシメ又ハ道路ノ維持ヲ爲サシムルコトヲ得

第二十四條 管理者ニ非サル者ハ管理者ノ許可又ハ承認ヲ得テ道路ニ關スル工事ヲ執行シ又ハ道路ノ維持ヲ爲スコトヲ得

第二十五條 道路ニ關スル工事ノ爲必要ヲ生シタル他ノ工事ハ管理者道路ニ關スル工事ト共ニ之ヲ執行スルコトヲ得

第二十六條 管理者ニ非サル者ハ管理者ノ許可又ハ承認ヲ得テ

第三十一條 道路ノ構造、維持、修繕及工事執行方法ニ關シテハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十二條 道路ノ管理ノ爲必要ナル吏員ノ設置及其ノ職務權限ニ關シテハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第四章 道路ニ關スル費用及義務

第三十三條 主トシテ軍事ノ目的ヲ有スル國道其ノ他主務大臣ノ指定スル國道ノ新設又ハ改築ニ要スル費用ハ國庫ノ負擔トス

第二十二條第二項ノ規定ニ依ル國道ノ新設又ハ改築ニ要スル費用ニ付亦同シ

前項ニ規定スルモノヲ除クノ外道路ニ關スル費用ハ管理者タル行政廳ノ統轄スル公共團體ノ負擔トス但シ行政區劃ノ境界ニ係ル道路ニ關スル費用ノ負擔ニ付テハ關係行政廳ノ協議ニ依ル協議調ハサルトキハ主務大臣之ヲ決定ス

第二十條第二項ノ規定ニ依ル國道ノ新設又ハ改築ニ要スル費用ハ命令ノ定ムル所ニ依リ管理者タル行政廳ノ統轄スル公共團體ヲシテ其ノ一部ヲ負擔セシムルコトヲ得

第三十四條 前條ノ場合ニ於テ道路ト他ノ工作物ト效用ヲ兼ヌルモノナルトキハ其ノ費用ノ負擔ニ付テハ前條第二項但書ノ規定ヲ準用ス但シ河川法第三十條ノ規定ニ該當スル場合ニ於テハ其ノ規定ニ依ル

第三十五條 第三十三條第二項ニ規定スル費用ニシテ國道ノ新設又ハ改築ニ要スルモノハ其ノ一部ヲ國庫ヨリ補助スルコト



ヲ得特別ノ事由アル場合ニ於テ府縣道以下ノ道路ノ新設又ハ改築ニ要スル費用ニ付亦同シ

**第三十六條** 第二十四條ノ規定ニ依ル道路ニ關スル工事若ハ道路ノ維持ニ要スル費用又ハ第二十六條ノ規定ニ依リ設クル橋梁若ハ渡船場ニ關スル費用ハ許可又ハ承認ヲ得タル者ノ負擔トス

**第三十七條** 他ノ工事又ハ行為ノ爲必要ヲ生シタル道路ニ關スル工事ノ費用ハ管理者他ノ工事又ハ行為ニ付費用ヲ負擔スル者ヲシテ其ノ全部又ハ一部ヲ負擔セシム

**第三十八條** 特別ノ事由アル場合ニ於テハ第二十三條ノ規定ニ依ル道路ノ修繕ニ關スル工事又ハ道路ノ維持ニ要スル費用ハ管理者同條ノ下級行政廳ノ統轄スル公共團體又ハ同條ノ私人ヲシテ其ノ全部又ハ一部ヲ負擔セシムルコトヲ得

**第三十九條** 道路ニ關スル工事は因リ著シク利益ヲ受クル者アルトキハ管理者ハ其ノ者ヲシテ利益ヲ受クル限度ニ於テ道路ニ關スル工事ノ費用ノ一部ヲ負擔セシムルコトヲ得

**第四十條** 特ニ道路ヲ損傷スル原因ト爲ルヘキ事業ヲ爲ス者アル場合ニ於テ管理者ハ之カ爲ニ要スル道路ノ維持又ハ修繕ノ費用ノ一部ヲ其ノ事業者ニ負擔セシムルコトヲ得

**第四十一條** 道路ニ關スル工事は爲必要ヲ生シタル他ノ工事ノ費用ハ管理者特別ノ事由アル場合ニ於テ他ノ工事は付費用ヲ負擔スル者ヲシテ其ノ全部又ハ一部ヲ負擔セシムル場合ヲ除

クノ外道路ニ關スル工事ノ費用ヲ負擔スル者ヲシテ之ヲ負擔セシム

**第四十二條** 本法若ハ本法ニ基キテ發スル命令又ハ之ニ依リテ爲ス處分ニ依ル義務ヲ履行スル爲必要ナル費用ハ法令ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外義務者ノ負擔ス

**第四十三條** 道路ニ關スル費用ノ負擔金ハ費用負擔者カ道路ニ關スル工事ノ執行又ハ道路ノ維持ヲ爲ス場合ヲ除クノ外第三十三條第一項ノ主トシテ軍事ノ目的ヲ有スル國道其ノ他主務大臣ノ指定スル國道ノ新設又ハ改築ニ要スルモノニ在リテハ國庫、其ノ他ノモノニ在リテハ管理者タル行政廳ノ統轄スル公共團體ノ收入トス

前項ノ費用負擔者カ公共團體ナル場合ニ於テ之ヲ統轄スル行政廳又ハ行政廳タル管理者カ道路ニ關スル工事ノ執行又ハ道路ノ維持ヲ爲ストキハ前項ノ規定ノ適用ニ付テハ費用負擔者之ヲ爲スモノト看做ス

**第四十一條**ノ規定ニ依ル負擔金ハ前二項ノ例ニ依リ國庫又ハ公共團體ノ收入トス

**第四十四條** 道路ノ占用料其ノ他道路ヨリ生スル收益ハ管理者タル行政廳ノ統轄スル公共團體ノ收入トス但シ第二十六條ノ規定ニ依リ許可又ハ承認ヲ得テ徵收スル橋錢又ハ渡錢ハ其ノ許可又ハ承認ヲ得タル者ノ收入トス

**第四十五條** 道路ニ關スル工事は爲必要アルトキハ管理者ハ沿

道ノ土地ニ立入り又ハ其ノ土地ヲ一時材料置場トシテ使用スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル立入り又ハ使用ヲ爲サムトストキハ已ムヲ得サル場合ヲ除クノ外豫メ土地ノ占有者ニ通知スルコトヲ要ス

**第四十六條** 非常災害ノ爲必要アルトキハ管理者ハ道路附近ニ居住スル者ヲ使役シ、道路附近ノ土地ヲ一時使用シ又ハ土石、竹木其ノ他物品ヲ使用者ハ收用スルコトヲ得

**第四十七條** 前二條ノ規定ニ依ル立入り、使用、使役又ハ收用ニ因リ現ニ生シタル損害ハ立入り、使用、使役又ハ收用ノ後三月内ニ管理者之ヲ補償スヘシ

**第四十八條** 沿道ノ土地、竹木又ハ工作物ノ管理者ハ其ノ土地、竹木又ハ工作物ノ道路ニ及ホスヘキ損害ヲ豫防スル爲必要ナル施設ヲ爲スヘシ

**第四十九條** 道路ノ使用又ハ道路若ハ其ノ交通ノ保全ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム沿道ノ土地ニ於ケル工作物ノ建設其ノ他ノ作爲又ハ不作爲ノ制限ニシテ道路又ハ其ノ交通ノ保全ノ目的ヲ以テスルモノニ付亦同シ

**第五十條** 沿道ノ區域ハ管理者之ヲ定ム

第五章 監督及罰則

**第五十一條** 左ニ掲クル場合ニ於テハ管理者ハ本法若ハ本法ニ

基キテ發スル命令ニ依リテ其ノ爲シタル許可承認ヲ取消シ其ノ效力ヲ停止シ若ハ其ノ條件ヲ變更シ、道路ニ存スル工作物其ノ他ノ物件ヲ改築除却セシメ若ハ之ニ因リテ生スヘキ損害ヲ豫防スル爲必要ナル施設ヲ爲サシメ又ハ原狀回復ヲ爲サシムルコトヲ得

一 道路ニ關スル法令ノ規定ニ違反シタルトキ

二 道路ニ關スル法令ノ規定ニ依ル許可又ハ承認ノ條件ニ違反シタルトキ

三 詐欺ノ手段ヲ以テ道路ニ關スル法令ノ規定ニ依ル許可ヲ得タルトキ

四 道路ニ關スル工事は爲必要アルトキ

五 公益上必要ト認ムルトキ

前項第五號ノ場合ニ於テ損害ヲ受ケタル者アルトキハ管理者ハ道路ニ關スル工事ノ費用ヲ負擔スル者ヲシテ其ノ損害ノ全部又ハ一部ヲ補償セシムルコトヲ得

前二項ノ規定ハ主務大臣カ第二十九條ノ規定ニ依リテ其ノ爲シタル許可若ハ承認ヲ取消シ、其ノ效力ヲ停止シ又ハ其ノ條件ヲ變更スル場合ニ之ヲ準用ス

**第五十二條** 左ニ掲クル事項又ハ其ノ變更廢止若ハ取消ハ第一號ニ在リテハ行政廳ニ於テ、其ノ他ニ在リテハ管理者ニ於テ監督官廳ノ認可ヲ受クヘシ但シ主務大臣ハ輕易ナル事件ニ限リ命令ヲ以テ認可ヲ受ケシメサルノ定ヲ爲スコトヲ得



- 一 國道以外ノ道路ノ路線ヲ認定スルコト
  - 二 道路又ハ沿道ノ區域ヲ定ムルコト
  - 三 道路ノ新設又ハ改築ヲ爲スコト
  - 四 第二十一條乃至第二十三條ノ規定ニ依リ道路ニ關スル工事ヲ執行セシメ又ハ道路ノ維持ヲ爲サシムルコト
  - 五 第二十四條又ハ第二十六條ノ規定ニ依ル許可又ハ承認ヲ爲スコト
  - 六 第二十五條ノ規定ニ依リ他ノ工事ヲ執行スルコト
  - 七 第二十七條ノ規定ニ依リ橋錢又ハ渡錢ヲ徵收スル橋梁又ハ渡船場ヲ設クルコト
  - 八 第二十八條ノ規定ニ依リ道路ノ占用ヲ許可若ハ承認シ又ハ道路ノ占用料ヲ徵收スルコト
  - 九 第三十七條乃至第四十一條ノ規定ニ依リ費用ヲ負擔セシムルコト
  - 十 前條第一項又ハ第二項ノ規定ニ依ル處分ヲ爲スコト
- 第五十三條** 監督官廳ハ監督上必要ト認ムルトキハ前條ノ行政廳又ハ管理者ニ對シ前條各號ニ掲クル事項又ハ其ノ變更廢止若ハ取消ヲ命ジ其ノ他命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲スコトヲ得
- 第五十四條** 行政執行法第五條及第六條ノ規定並之ニ基キテ發スル命令ハ本法若ハ本法ニ基キテ發スル命令又ハ之ニ依リテ爲ス處分ニ依リ行フヘキ作爲又ハ不作爲ヲ管理者カ強制スル場合ニ之ヲ準用ス

- 第五十五條** 本法若ハ本法ニ基キテ發スル命令又ハ之ニ依リテ爲ス處分ニ依リ義務ニ屬スル負擔金、占用料、橋錢、渡錢其ノ他ノ費用ハ管理者國稅滯納處分ノ例ニ依リ之ヲ徵收スルコトヲ得
- 前項ノ規定ニ依ル徵收金ノ先取特權ノ順位並其ノ追徵還付及時效ニ付テハ管理者タル行政廳ノ統轄スル公共團體ノ徵收金ノ例ニ依ル
- 第五十六條** 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス
- 一 許可ヲ得シテ道路若ハ其ノ附屬物ニ關スル工事ヲ執行シ又ハ道路若ハ其ノ附屬物ヲ占用シタル者
  - 二 許可ヲ得シテ橋梁又ハ渡船場ノ使用ニ對シ橋錢、渡錢其ノ他ノ財物ノ交付ヲ請求シタル者
  - 三 道路ノ使用ニ對シ路錢其ノ他ノ財物ノ交付ヲ請求シタル者
  - 四 欺詐ノ手段ヲ以テ許可ヲ得タル者
  - 五 正當ノ事由ナクシテ第四十六條ノ規定ニ依ル管理者ノ命ニ從ハサル者
  - 六 第四十八條又ハ第二條及第四十八條ノ規定ニ違反シテ道路又ハ其ノ附屬物ニ及ホスヘキ損害ヲ豫防スル爲必要ナル施設ヲ爲ササル者
- 第六章 訴願及訴訟

**第五十七條** 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ規定シタル事項ニ付主務大臣又ハ管理者ノ爲シタル處分ニ不服アル者ハ訴願スルコトヲ得

本法ニ依リ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得ル場合ニ於テハ主務大臣ニ訴願スルコトヲ得ス

**第五十八條** 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ規定シタル事項ニ付主務大臣又ハ管理者ノ爲シタル違法處分ニ因リ權利ヲ毀損セラレタリトスル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

**第五十九條** 第四十七條ノ規定ニ依リ補償ヲ受クヘキ者同條ノ規定スル期間内ニ其ノ決定ノ通知ヲ受ケタル場合ニ於テ補償ニ不服アルトキハ通知後六月内ニ、同條ノ規定スル期間内ニ其ノ決定ノ通知ヲ受ケサル場合ニ於テハ其ノ期間經過後六月内ニ通常裁判所ニ出訴スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ訴願シ又ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得ス

第七章 雜 則

**第六十條** 本法中府縣、府縣知事、府縣廳又ハ府縣道ニ關スル規定ハ北海道ニ付テハ道、道廳長官、道廳又ハ地方費道ニ關シ市、市長、市役所又ハ市道ニ關スル規定ハ北海道ニ付テハ區、區長、區役所又ハ區道ニ關シ郡役所ニ關スル規定ハ北海道ニ付テハ支廳、島ニ付テハ島廳ニ關シ之ヲ適用ス

**第六十一條** 北海道ニ付テハ道路ノ種類、等級及路線ノ認定並第三十三條乃至第三十六條、第四十三條、第四十四條及第五

十二條ノ規定ニ關シ勅令ヲ以テ特別ノ定ヲ爲スコトヲ得

**第六十二條** 道路ノ路線ノ認定ノ變更廢止其ノ他ノ場合ニ於テ不用ニ歸シタル道路及其ノ附屬物ヲ構成シタル物件並材料器具機械等ノ管理及處分ニ付テハ勅令ヲ以テ特別ノ定ヲ爲スコトヲ得

前項ノ變更廢止ノ場合ニ於テ道路及其ノ附屬物ヲ構成シタル物件ハ勅令ヲ以テ定ムル期間ノ滿了スル迄第六條ノ規定ヲ之ニ準用シ土地收用法中第六十六條ノ規定及之ヲ準用スル規定ノ適用ニ付テハ不用ニ歸セサルモノト看做ス

**第六十三條** 左ニ掲クル法令ノ規定ハ本法ニ依ル道路ニ關シ之ヲ適用セス

- 一 明治四年十二月十四日布告治水修路架橋等運輸ノ便利ヲ興ス者ニ税金取立方許可ニ關スル件
- 二 明治十一年七月二十二日達郡區町村編制府縣會規則地方稅規則施行順序ニ關スル件第十二項
- 三 明治十二年二月二十七日達河港道路堤防橋梁費ヲ舊慣ニ因リ支辨シ得ル件
- 四 陸地測量標條例第二條
- 五 水路測量標條例第二條
- 六 電信線電話線建設條例第一條、第四條及第五條
- 七 軍用電信法第四條第二項ノ規定ニ依リ準用スル電信線電話線建設條例第一條、第四條及第五條



- 八 河川法第十條第二項、第十一條及第三十二條
- 九 砂防法第八條及第十六條
- 十 私設鐵道法第四十二條
- 十一 輕便鐵道法第五條ノ規定ニ依リ準用スル私設鐵道法第四十二條
- 十二 電氣事業法第九條
- 十三 大正三年法律第三十七號

附 則

- 第六十四條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(大正八年十一月勅令第四百五十九條ヲ以テ九年四月一日ヨリ施行)
- 第六十五條 左ニ掲クル法令ハ之ヲ廢止ス
  - 一 明治五年第三百二十五號布告
  - 二 明治六年第四百十六號布告
  - 三 明治六年第四百十三號達
  - 四 明治九年第六十號達
  - 五 明治十八年第一號布達
  - 六 明治二十年勅令第二十八號
- 第六十六條 本法施行前爲シタル處分及之ニ附シタル條件ハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ牴觸セサル限り本法ニ依リ爲シタル處分及之ニ附シタル條件ト看做ス
- 第六十七條 本法ニ依リ管理者ノ許可又ハ承認ヲ受クヘキ事項ニシテ本法施行ノ際現ニ存スルモノハ本法ニ依リ管理者ノ許

可又ハ承認ヲ受ケタルモノト看做ス但シ管理者ハ本法施行ノ日ヨリ三月内ニ六月ヲ下ラサル期間ヲ指定シ其ノ期間經過後ハ許可又ハ承認ノ效力ヲ失フヘキ旨ヲ告示スルコトヲ得

第六十八條 本法施行前爲シタル處分ニ關スル訴願又ハ行政訴訟ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

附 則 (大正十一年法律第三號)

本法中第二十條、第三十三條、第四十三條及第六十條ノ改正規定ノ施行期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(大正十一年八月勅令第三百八十三號ヲ以テ同十二年四月一日ヨリ施行)其ノ他ノ規定ハ大正十年法律第六十三號第一條施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス(大正十二年四月一日)但シ同法附則但書ノ規定ニ依リ別ニ其ノ施行ノ期日ヲ定ムル府縣ニ付テハ其ノ日ヨリ之ヲ施行ス

● 道路法施行令

大正八年十一月 大正一五年  
勅令第四百六十號 二四一號改正

- 第一條 (削除)
- 第二條 府縣道以下ノ道路ノ路線ノ認定又ハ其ノ變更若ハ廢止ヲ爲サムトスルトキハ府縣道ニ付テハ府縣會、市道ニ付テハ市會、町村道ニ付テハ町村會ニ之ヲ諮問スヘシ但シ重要ナラサル變更又ハ廢止ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

- 縣道ニ付テハ府縣會及市會ニ之ヲ諮問スヘシ
- 第三條 國道ノ路線ノ認定又ハ其ノ變更若ハ廢止ヲ爲シタルトキハ官報ヲ以テ之ヲ告示スヘシ
- 第四條 府縣道以下ノ道路ノ路線ノ認定又ハ其ノ變更若ハ廢止ヲ爲シタルトキハ地方ノ公布式ニ依リ之ヲ告示スヘシ
- 第五條 市町村長道路法第十五條ノ規定ニ依リ市道町村道ノ路線ノ認定又ハ其ノ變更若ハ廢止ヲ爲シタルトキハ地元市町村長ニ之ヲ通知スヘシ
- 前項ノ通知ヲ受ケタル市町村長ハ地方ノ公布式ニ依リ之ヲ告示スヘシ
- 第六條 前三條ノ告示ニハ路線名並路線ノ起點終點及重要ナル經過地ヲ表示スヘシ
- 第七條 府縣廳、師團司令部、鎮守府又ハ市役所ノ所在地ヲ國道又ハ府縣道ノ路線ノ起點終點ト爲ストキハ市町村ニ於ケル道路元標ノ位置ニ依ルヘシ
- 第八條 東京市ニ於ケル道路元標ノ位置ハ日本橋ノ中央トス市町村ニ於ケル道路元標ノ位置ハ前項ニ規定スルモノヲ除クノ外府縣知事之ヲ定ム
- 第九條 道路元標ハ各市町村ニ一箇ヲ置ク
- 道路元標ノ様式ハ內務大臣之ヲ定ム
- 道路元標ハ管理者之ヲ建設スヘシ等級ヲ異ニスル道路ニ係ルモノナルトキハ上級道路ノ管理者之ヲ建設スヘシ

- 第十條 道路又ハ沿道ノ區域ヲ定メタルトキハ管理者タル行政廳ハ地方ノ公布式ニ依リ之ヲ告示スヘシ內務大臣ノ指定スル道路附屬物ノ區域ヲ定メタルトキ亦同シ
- 第十條ノ二 內務大臣道路法第二十條第二項ノ規定ニ依リ國道ノ新設又ハ改築ヲ爲ストキハ豫メ官報ヲ以テ其ノ道路ノ路線名、區間及工事開始ノ期日ヲ告示スヘシ
- 前項ノ國道ノ新設又ハ改築ノ全部又ハ一部ヲ廢止又ハ終了スルトキハ前項ノ規定ニ準シ之ヲ告示スヘシ
- 第十一條 道路ノ供用ヲ開始シ又ハ廢止スルトキハ管理者タル行政廳ハ豫メ地方ノ公布式ニ依リ之ヲ告示スヘシ內務大臣ノ指定スル道路附屬物ノ供用ヲ開始シ又ハ廢止スルトキ亦同シ
- 第十二條 道路法第二十六條ノ規定ニ依ル橋梁又ハ渡船場ヲ設クルコトヲ許可又ハ承認シタルトキハ管理者タル行政廳ハ地方ノ公布式ニ依リ設置者並橋錢又ハ渡錢ノ額及徵收期間ヲ告示スヘシ同法第二十七條ノ規定ニ依ル橋梁又ハ渡船場ヲ設クルトキ亦同シ
- 第十三條 左ニ掲クルモノニ付テハ橋錢又ハ渡錢ヲ徵收スルコトヲ得ス
  - 一 軍隊
  - 二 演習中ノ軍人軍屬
  - 三 召集令狀若ハ召集傳達書ヲ所持シ應召ノ爲通行スル軍人



又ハ召集令狀配達人

四 簡閱點呼令狀若ハ簡閱點呼傳達書ヲ所持シ簡閱點呼ニ參會スル爲通行スル軍人又ハ簡閱點呼令狀配達人

五 徵發ニ關スル令書配達人

六 徵發人夫及其ノ引率人

七 徵發物件及其ノ運搬人

八 勤務中ノ憲兵又ハ警察官吏

九 護送中ノ囚人又ハ刑事被告人及其ノ護送人

十 水火災警防ノ爲又ハ其ノ演習ノ爲通行スル當該官吏吏員又ハ一定ノ服裝ヲ爲シタル消防夫水防夫

十一 尋常小學校ニ往復ノ兒童

十二 受持區内ニ勤務中ノ修路工夫

第十四條 橋錢又ハ渡錢ヲ徵收スル者ハ徵收ノ場所ニ左ニ掲クル事項ヲ榜示スヘシ

一 設置者

二 橋錢又ハ渡錢ノ額

三 徵收期間

四 橋錢又ハ渡錢ヲ徵收セサル場合

第十五條 道路臺帳ヲ調製シタルトキハ管理者タル行政廳ハ地方ノ公布式ニ依リ其ノ旨ヲ告示スヘシ

利害關係人ハ道路臺帳ノ閱覽ヲ求ムルコトヲ得

第十六條 他ノ工作物ト效用ヲ兼ヌル道路ニ關シ告示スヘキ事

一 市長ヲ以テ管理者トスル國道又ハ府縣道ノ新設又ハ改築ヲ爲スコト

二 道路法第十五條ノ規定ニ依リ二府縣以上ニ互ル路線ヲ認定スルコト

三 道路法第二十四條ノ規定ニ依ル承認ヲ府縣ニ對シ爲スコト

四 道路法第十七條但書ノ市ノ市内道路ニ關シ同法第三十九條又ハ第四十條ノ規定ニ依リ負擔セシムル費用ノ負擔方法ヲ定ムルコト

五 道路法第三十七條又ハ第三十九條乃至第四十一條ノ規定ニ依リ國ニ費用ヲ負擔セシムルコト

第二十一條 (削除)

第二十二條 前二條ニ規定スルモノヲ除クノ外道路法第五十二條ノ規定ニ依リ認可ヲ受クヘキモノニ付テハ第一次監督官廳ノ認可ヲ受クヘシ

第二十三條 北海道ニ於テ支廳ノ所在地ヲ地方費道ノ路線ノ起點終點ト爲ストキハ市町村ニ於ケル道路元標ノ位置ニ依ルヘシ

北海道ノ道路ノ路線ノ認定者又ハ管理者町村長ナルトキハ第一次ニ支廳長、第二次ニ道廳長官、第三次ニ内務大臣之ヲ監督ス

北海道ノ道路ニ付左ニ掲クル事項又ハ其ノ變更、廢止若ハ取

項ハ道路法第十八條第二項ノ規定ニ依リ他ノ工作物ノ管理者

タル行政廳ヲ以テ道路及工作物ノ管理者ト爲シタル場合ニ於テハ其ノ管理者同法第十七條ノ規定ニ依リ管理者タルヘキ行政廳ニ之ヲ通知シ通知ヲ受ケタル行政廳本令ニ依リ之ヲ告示スヘシ

第十七條 第五條ノ規定ハ道路法第十五條若ハ第十八條第一項ノ規定ニ依ル道路ニ關シ第十條、第十一條、第十二條若ハ第十五條ノ規定ニ依ル告示ヲ爲ス場合又ハ同法第十五條ノ規定ニ依ル道路ニ關シ前條ノ規定ニ依ル告示ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第十八條 道路法第四十五條ノ規定ニ依ル通知ハ三日ニ場所及日時ヲ指定シ之ヲ爲スヘシ

道路法第四十五條ノ規定ニ依リ邸内ニ立入ル場合ニ於テハ日出前日没後ハ占有者ノ意ニ反シテ立入ルコトヲ得ス

第十九條 道路ノ路線ノ認定者及道路ノ管理者ハ左ノ各號ニ依リ之ヲ監督ス

一 市町村長認定者又ハ管理者ナルトキハ第一次ニ府縣知事、第二次ニ内務大臣

二 前號ニ規定スル以外ノ者認定者又ハ管理者ナルトキハ内務大臣

第二十條 左ニ掲クル事項又ハ其ノ變更、廢止若ハ取消ハ内務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

消ハ道廳長官ノ認可ヲ受クヘシ

一 道路法第十五條ノ規定ニ依リ二市支廳管内以上ニ互ル道路ノ路線ヲ認定スルコト

二 道路法第三十七條又ハ第三十九條乃至第四十一條ノ規定ニ依リ道ニ費用ヲ負擔セシムルコト

前三項ニ規定スルモノノ外北海道ニ付テハ本令中府縣、府縣知事、府縣廳、府縣會又ハ府縣道ニ關スル規定ヲ道、道廳長官、道廳、道會又ハ地方費道ニ關シ適用ス

附 則

第二十四條 本令ハ道路法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス(大正九年四月一日)

第二十五條 道路法施行ノ際認定スヘキ國道ノ路線ニ關シ豫メ道路會議ニ諮問シタルモノハ本令ニ依リ諮問シタルモノト看做ス

第二十六條 道路法施行ノ際認定スヘキ府縣道又ハ地方費道ノ路線ニ關シ本令公布後ニ於テ豫メ府縣會又ハ道會ニ諮問シタルモノハ本令ニ依リ諮問シタルモノト看做ス郡、道、市道、區道又ハ町村道ノ路線ノ認定ノ諮問ニ付亦同シ

第二十七條 市道、區道又ハ町村道ノ路線ノ認定ニ付テハ道路法施行ノ際ニ限リ第六條ノ規定ニ拘ラス平面圖ヲ公衆ノ縱覽ニ供シ其ノ旨ヲ告示スルコトヲ得

前項ノ平面圖ニハ路線ノ位置並路線ノ交叉點及兩端ノ地番若



ハ地先地番ヲ表示スヘシ別ニ地番調書ヲ作製シ平面圖ニ添附スルコトヲ妨ケス

**第二十八條** 市區町村ニ於ケル道路元標ノ位置ニ付本令施行前道廳長官又ハ府縣知事ノ定メタルモノハ本令ニ依リ定メタルモノト看做ス

附 則 (大正十一年勅令第三百八十四號)

本令中第十條ノ二ノ規定並第十七條及第二十三條ノ改正規定ハ大正十二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス其ノ他ノ規定ハ大正十年法律第六十三號第一條施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス(大正十二年四月一日ヨリ施行)但シ同法附則但書ノ規定ニ依リ別ニ其ノ施行ノ期日ヲ定ムル府縣ニ付テハ其ノ日ヨリ之ヲ施行ス  
大正十一年法律第三號中第十一條ノ改正規定施行ノ際認定スヘキ府縣道ノ路線ニ關シ本令公布後ニ於テ豫メ府縣會ニ諮問シタルモノハ道路法施行令第二條ノ規定ニ依リ諮問シタルモノト看做ス

●道路法第六十二條ノ規定ニ依ル不用物件等ノ管理及處分ニ關スル件

大正八年十一月 大正一〇年  
勅令第四百七十四號 一〇號改正  
第一條 道路ノ路線ノ認定ノ變更又ハ廢止ノ場合ニ於テ不用ニ

歸シタル道路又ハ其ノ附屬物ヲ構成シタル物件ハ其ノ道路ノ管理者タリシ者之ヲ管理處分ス

**第二條** 道路法第六十二條第二項ノ期間ハ國道、府縣道及地方費道ニ關シテハ八月、其ノ他ノ道路ニ關シテハ四月トス  
前項ノ期間ハ道路ノ附屬物ヲ構成シタル物件ニ關シ監督官廳ノ認可ヲ得テ十五日迄之ヲ短縮スルコトヲ得

**第三條** 第一條ノ物件前條ノ期間滿了前ニ定リタル道路又ハ其ノ附屬物ノ區域内ニ在ルトキハ其ノ管理者ニ之ヲ引渡スヘシ

**第四條** 第一條ノ物件他人ノ所有ニ屬スルモノナルトキハ前條ノ規定ニ該當スル場合ヲ除クノ外其ノ所有者ニ之ヲ還付スヘシ第一條ノ物件官有財產トシテ存置スルノ必要アルモノナルトキハ前條ノ規定ニ該當スル場合ヲ除クノ外主務大臣ニ之ヲ還付スヘシ  
道路附替ノ場合ニ於テハ其ノ附替ニ依リ不用ニ歸スル第一條ノ物件ハ新ニ道路又ハ其ノ附屬物ヲ構成スル物件ト第二條ノ期間内ニ於テ交換スルコトヲ得

**第五條** 第一條ノ物件前二條ニ該當セサル場合ニ於テハ道路ノ費用ヲ負擔シタル公共團體ニ之ヲ交付スヘシ土地收用法第六十六條第一項又ハ民法第五百七十九條ノ規定ニ依リ賣渡ハ交付ヲ受ケタル公共團體之ヲナスヘシ  
前項ノ場合ニ於テ二以上ノ公共團體アルトキハ第一條ノ管理

●國立公園法ノ運用ニ關スル件

昭和六年十月三十一日內務省發給第一二六號內務次官照會同年十一月三十日官宗九一號文部次官回答

照會

本月一日國立公園法施行セラレ候ニ付同法ノ運用ニ際シテハ國立公園調査會ノ取極ノ趣旨ニ基キ左記ノ通處理致度候條此段及照會候

記

- 一、國立公園ノ指定ニシテ大學並ニ學校及圖書館特別會計ニ屬スル國有財產其ノ他文部省所管ニ屬スル國有財產ニ關係アルトキハ國立公園委員會ニ附議スル以前ニ於テ豫メ文部省ニ協議スルコト
- 二、國立公園計畫及國立公園事業ノ決定ニシテ史蹟名勝天然紀念物保存法ニ依リテ指定セラレタルモノ又ハ大學並ニ學校及圖書館特別會計ニ屬スル國有財產其ノ他文部省所管ニ屬スル國有財產ニ關係アルトキハ國立公園委員會ニ附議スル以前ニ於テ豫メ文部省ニ協議スルコト
- 三、國立公園法第八條第二項ニ依リ許可又ハ同法第九條第一項ニ依リ命令若ハ處分ヲ爲ス場合史蹟名勝天然紀念物保存法ニ依リテ指定セラレタルモノ又ハ大學並ニ學校及圖書館特別會計ニ屬スル國有財產其ノ他文部省所管ニ屬スル國有財產ニ關係アルトキハ豫メ文部省ニ協議スルコト

者ハ監督官廳ノ認可ヲ得テ交付ノ割合ヲ定ムヘシ  
**第六條** 前數條ノ規定ニ依ルモノヲ除クノ外道路又ハ其ノ附屬物ノ區域ノ變更其ノ他ノ場合ニ於テ不用ニ歸シタル道路又ハ其ノ附屬物ヲ構成シタル物件及材料器具機械等ノ管理及處分ニ付テハ第一條、第四條及前條ノ規定ヲ準用ス  
**第七條** 本令ニ依ル管理若ハ處分ノ費用又ハ管理中ノ收益ニ關シテハ道路ニ關スル費用又ハ道路ヨリ生スル收益ト看做ス  
**第八條** 道路法施行令第十九條乃至第二十二條ノ規定ハ本令ニ規定スル管理者ノ監督ニ付之ヲ準用ス  
附 則  
本令ハ道路法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス(大正九年四月一日ヨリ施行)

●道路法中特例ニ關スル件

昭和七年九月  
法律第三十五號

東京市區域擴張ノ際東京府知事力現ニ執行シ又ハ既定繼續費ヲ以テ執行セントスル道路ニ關スル工事ハ引續キ東京府知事之ヲ執行スルコトヲ得此場合ニ於ケル道路管理者ノ權限ハ命令ノ定ムル所ニ依リ東京府知事之ヲ行フ

附 則

本法ハ昭和七年十月一日ヨリ之ヲ施行ス



- 四、國立公園區域内ニ於テ史蹟名勝天然紀念物保存法第一條ニ依ル指定又ハ同法第四條第一項ニ依ル命令若ハ處分ヲ爲サントスルトキハ豫メ内務省ニ協議スルコト
- 五、國立公園區域内ノ雜種財産タル土地ニシテ文部省ノ管理スルモノヲ處分セントスルトキハ豫メ内務省ニ協議スルコト但シ大學竝ニ學校及圖書館特別會計ニ屬スルモノニ付テハ大藏大臣ニ協議スル以前ニ於テ豫メ内務省ニ通知スルコト

回答

客月卅一日付内務省發衛第一二六號ヲ以テ標記ノ件御照會ノ處右ハ貴照會左記四ノ中「史蹟名勝天然紀念物保存法第一條ニ」トアルヲ「史蹟名勝天然紀念物保存法第一條第一項ニ」ト改ムルコトトシテ同意可致ニ付御了知相成度

第七章 物品會計



# 第七章 物品會計

## ●物品會計規則

明治二十二年六月 昭和六年  
勅令第八十四號 一三三號改正

- 第一條** 此ノ規則ニ於テ物品ト稱スルハ政府ニ屬スル器具器械備品消耗品動物其ノ他一切ノ動産ヲ云フ但シ陸海軍ノ兵備ニ關スルモノハ各其ノ規則ニ依ル
- 政府ノ保管ニ屬スル物品ニシテ各省大臣ニ於テ特ニ指定スルモノハ本規則ヲ準用ス此ノ場合ニ於テハ各省大臣ヨリ會計檢査院ヘ通知スヘシ
- 第二條** 物品ノ會計ハ總テ年度ヲ以テ區分シ毎年四月一日ヨリ翌年三月三十一日ニ至ル十二箇月ヲ以テ一年度トス
- 第三條** 物品ノ會計ハ現ニ其ノ出納ヲ執行シタル日ヲ以テ年度ノ所屬ヲ區分スヘシ
- 第四條** 物品ヲ保管シ之カ出納ヲ掌ル者ヲ物品會計官吏トス
- 第五條** 總テ物品ハ責任アル官吏ノ保管ニ付スヘシ
- 第五條ノ二** 所管大臣ハ會計法第三十七條ノ規定ニ依リ專賣官署ノ事務員ヲシテ物品ノ出納保管ニ關スル事務ヲ分掌セシムルコトヲ得
- 前項ノ外特別ノ必要アル場合ニ於テハ各省大臣大藏大臣ト協議シ其ノ應ノ事務員ヲシテ物品ノ出納保管ニ關スル事務ヲ分掌セシムルコトヲ得
- 第五條ノ三** 前條ノ規定ニ依リ物品ノ出納保管ニ關スル事務ノ分掌ヲ命セラレタル事務員ハ物品會計官吏所屬ノ物品出納員

トシテ其ノ事務ヲ取扱フヘシ

- 第六條** 物品會計官吏又ハ物品出納員ハ各省大臣ノ定メタル規程ニ據リタル命令アルニアラサレハ物品ヲ出納スルコトヲ得ス
- 第七條** 物品會計官吏又ハ物品出納員ハ其ノ故意怠惰ニ由リ保管ノ物品ヲ亡失毀損シタルトキハ賠償ノ責ニ任スヘシ
- 第八條** 各省大臣ノ定メタル規程ニ據リ各官吏以下ノ使用ニ供シタル物品ノ亡失毀損ニ就テハ物品會計官吏ハ合規ノ監督ヲ怠リタル場合ノ外ハ其ノ責任ヲ免ルコトヲ得
- 第九條** 物品會計官吏ハ各省大臣ノ命シタル代理官ノ所爲ニ就テハ其ノ責任ヲ免ルコトヲ得
- 物品會計官吏ノ代理官ハ其ノ代理セル所爲ニ就テハ物品會計官吏タルノ責任ヲ免ルコトヲ得
- 第十條** 物品會計官吏又ハ物品出納員ハ物品ノ出納帳簿ヲ備ヘ其ノ出納ノ事實ヲ登記スヘシ物品ノ消耗賣拂亡失毀損生産ノ爲メノ消費及其ノ他物品會計官吏又ハ物品出納員ノ保管ヲ離ルルヲ出トシ買入生産及其ノ他其ノ保管ニ屬スルヲ納トス
- 第十條ノ二** 各省大臣ハ檢査ノ官吏ヲ命シ四年以内ヲ以テ一期トシ物品會計官吏又ハ物品出納員ノ保管スル物品ノ全部ヲ精細ニ檢査セシメ其ノ調書ヲ作ラシムヘシ但シ應費ニ屬スル物品ハ各省大臣適宜ニ檢査ノ方法ヲ設クヘシ
- 第十一條** 常時出納ヲナササル倉庫若ハ貯藏所ノ物品ハ各省大臣ヨリ毎年一回若ハ物品會計官吏交替ノ際檢査ノ官吏ヲ命シ目錄ト現在品ノ照合ヲナサシメ其ノ調書ヲ作ラシムヘシ
- 第十二條** 在外各廳其ノ他特ニ主任ノ官吏ヲ置ク能ハサル支部局ニアル物品ハ各省大臣ヨリ毎年一回若ハ物品會計官吏交替ノ際檢査ノ官吏ヲ命シテ現在品及出納ノ實況ヲ調査セシメ其



ノ調書ヲ作ラシムヘシ

第十二條ノ二 各省大臣必要アリト認ムルトキハ臨時ニ検査ノ官吏ヲ命シテ物品會計官吏又ハ物品出納員ノ帳簿物品ヲ検査セシメ其ノ調書ヲ作ラシムヘシ

第十三條 第十條ノ二、第十一條、第十二條及前條ノ調書ニハ検査官吏及検査ヲ受ケタル物品會計官吏又ハ物品出納員若ハ特ニ命セラレタル立會人之ニ署名スヘシ

第十四條 (削除)

第十五條 物品會計官吏ハ會計検査院ノ検査判決ヲ受ケル爲物品出納計算書ヲ調製シ證據書類ヲ添ヘ所管大臣ヲ經由シテ之ヲ會計検査院ニ差出スヘシ

物品會計官吏交替ヲナシタルトキ前任官吏ハ前項ニ準シテ計算書ヲ差出スヘシ但シ前任官吏死亡其ノ他ノ事故ニ由リ自身計算書ヲ調製スル能ハサル場合ニ於テハ各省大臣ハ他ノ官吏ニ命シテ之ヲ調製セシムヘシ

第十六條 前條第二項但書ニ據リ調製シタル計算書ハ責任ヲ有スル物品會計官吏ノ自身ニ調製シタルモノト同一ニ見做シ會計検査院ニ於テ検査判決ヲナスヘシ

第十七條 (削除)

第十八條 常時出納ヲナササル倉庫若ハ貯藏所ノ物品又ハ在外各廳其ノ他特ニ主任ノ官吏ヲ置ケ能ハサル支部局ノ物品ヲ保管スル物品會計官吏ハ第十一條又ハ第十二條ノ調書ヲ以テ第十五條ノ計算書ニ代ヘ責任ノ解除ヲ會計検査院ヘ求ムルコトヲ得

第十八條ノ二 會計検査院法第十六條ニ依リ委託検査ニ付シタル物品ニ對シテハ帳簿ヲ以テ出納ヲ證明セシメ第十五條ノ計

第三條 各部局通常所要ノ備品及消耗品ハ會計課長其ノ員數ヲ豫定スヘシ

第四條 物品出納ノ命令ハ會計課長之ヲ發シ物品會計官吏ノ職務ハ會計課用度掛長之ヲ執行スヘシ但必要アルトキハ一部局ヲ限リ特ニ物品會計官吏ヲ置クコトアルヘシ

第二款 出 納

第五條 (削除)

第六條 通常所要ノ物品ハ會計課長其ノ定數以内ニ於テ直ニ出納ノ命令ヲナスヘシ

第七條 臨時所要ノ物品ハ各部局長ノ請求ニ依リ會計課長之ヲ監査シ出納ノ命令ヲナスヘシ但會計課長ニ於テ必要ト認メサルトキハ其ノ請求ニ應セス又ハ文部大臣ノ裁定ヲ乞フヘシ

第七條ノ二 各部局所要學術上ノ機械ノ製作及修理ニ特種ノ注意ヲ要スルカ又ハ當業者ヲ選擇スル必要アル場合並遠隔地所要ノ物品ハ便宜上各部局ニ於テ品目、數量、價格、納付期間ヲ記シタル當業者ノ見積書ヲ徴シ(外國注文品ニシテ見積書ヲ徴スル能ハサルトキハ之レカ調書ヲ添附シ)會計課ヘ請求スヘシ

第八條 物品ノ修理及運搬等ハ第七條ノ例ニ依ル

第九條 支給ノ物品ハ總テ責任アル職員ニ渡シ受領ノ證トシテ帳簿ニ捺印セシメ若クハ別ニ領收證書ヲ徴スヘシ

第十條 物品ノ購買、修理、賣却等ハ會計課ニ於テ成規ニ依リ

算書ヲ省略スルコトヲ得

第十九條 會計規則第七十五條、第二百二十五條、第二百二十六條、第三百二十二條乃至第三百三十五條及第四百四十四號ハ物品會計官吏又ハ物品出納員ニ準用ス

第二十條 物品ノ保管出納ニ關スル規定及帳簿ノ様式ハ各省大臣之ヲ定メ發布前會計検査院ヘ通知スヘシ

第二十一條 官吏ノ職務上必要ナル物品ノ交付及其ノ交付ヲ受タル官吏ノ責任ニ就テハ各省大臣之ヲ規定スヘシ

第二十二條 此ノ規則ハ明治二十二年十月一日ヨリ施行ス

附 則 (昭和六年勅令第三百三十三號)

本令ハ昭和六年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

●文部省物品會計規程

明治二十三年三月三十一日裁定

明治三六年三月二十六日改正

第一款 總 則

第一條 本省ノ所有ニ屬スル物品ハ會計課長之ヲ管理シ其ノ保管及出納ハ物品會計規則ニ基キ此ノ規程ニ從ヒ處理スヘシ但記録課管理ノ書冊ハ別ニ定ムル所ニ依ル

第二條 物品ヲ大別シテ備品、消耗品ノ二種トシ又備品ノ各部局共用ニ係ルモノヲ共用備品トシ職員各自ニ專用スルモノヲ專用備品トス但備品、消耗品ノ種別ハ會計課長之ヲ定ムヘシ

之ヲ執行スヘシ但第七條ノ二ノ場合ニ於テハ會計課長ハ當該部局長ヘ其ノ執行ヲ委任スルコトヲ得

賣却ニ係ル物品ハ代價徴收ノ後ニアラサレハ之ヲ引渡スコトヲ得ス

第十一條 各部局ヨリ不用ニ屬シタル物品ヲ返付セルトキハ會計課長之ヲ審査シ爾後所有ニ堪ユヘキモノハ之ヲ保存シ向來所要ノ目的ナシト認メタルモノハ其ノ處分按ヲ付シ文部大臣ノ裁定ヲ乞フヘシ但毀損若クハ所用ノ目的ヲ終リタルモノハ會計課長適宜之ヲ處分スルコトヲ得

第三款 保管及監督

第十二條 受入物品ハ物品會計官吏之ヲ倉庫ニ藏置シ保管スヘシ但一時倉庫外ニ置クトキハ相當ノ取締ヲ付スヘシ

在庫及使用中ノ備品ハ物品會計官吏ニ於テ時々修理ヲ要スルモノノ員數ヲ調査シ修理ノ手續ヲナスヘシ

第十三條 使用中ノ物品ハ物品會計官吏ニ於テ左ノ事項ニ依リ之ヲ監督スヘシ

一 各部局ノ消耗品受拂報告表ヲ毎月消耗品支給簿ニ照査スルコト

一 毎年一回備品支給簿及消耗品支給簿ヲ以テ各部局ニ就キ現品ヲ査閲シ及各局課ノ備品監守簿、消耗品受拂簿ノ調査ヲナシ會計課長ニ報告スルコト

一 前項ノ場合ニ於テ物品ノ亡失毀損ヲ發見シタルトキ又ハ



物品ノ使用上ニ就キ意見アルトキハ會計課長ニ其ノ處理ヲ求ムルコト

第十四條 物品會計官吏保管ノ物品ヲ亡失毀損シ又ハ前條ノ監督ヲ怠リタルトキハ會計課長事實ヲ審査シ故意怠惰ニ出タルモノト認ルトキハ文部大臣ニ具申スヘシ

第十五條 共用物品ノ監守及取扱方ヲ明確ナラシムル爲メ各部局ニ左ノ責任者ヲ置ク

- 一 監 督 各部局長若クハ上席者
- 一 物品監守者 屬 僚
- 一 物品取扱主任者 同 上

第十六條 各部局長ハ其ノ部局ノ狀況ニ應シ一名若クハ二名以上物品監守者及物品取扱主任者ヲ選定シ該官氏名ニ印鑑ヲ添ヘテ會計課ニ通報スヘシ但シ變更シタルトキハ其ノ都度本條ノ手續ヲ爲スヘシ

第十七條 共用物品ノ監守及取扱上不完全ノ廉アルトキハ其ノ輕重ニ依リ當該監督又ハ監守者又ハ取扱主任者其ノ責ニ任スヘシ

第十八條 専用物品ハ各自之ヲ監守シ其ノ責ニ任スヘシ

第十九條 各部局ニ於テ物品ノ毀損又ハ紛失アルトキハ物品監守者ニ於テ其ノ實況ヲ詳記シ當該監督之ヲ證明シテ會計課ニ通報スヘシ

第二十條 物品ヲ毀損シ或ハ紛失シタルトキハ其ノ實況ニ依リ

- 一 物品保管ノ適否
- 一 物品使用ノ適否
- 一 消耗品消費ノ適否
- 一 物品缺損ノ有無
- 一 備品及消耗品支給定數ノ過不及

第三十一條 物品檢閲委員ノ檢査スヘキ要領左ノ如シ

第三十二條 物品檢閲ノ際ハ在庫ノ物品ニ付テハ物品會計官吏若クハ代理者使用中ノ物品ニ付テハ物品監守者又ハ物品取扱主任者其ノ席ニ列シ檢閲委員ノ質問ニ答フヘシ但檢閲委員長ハ時宜ニ依リ直ニ監督ニ質義ヲナスヘシ

第三十三條 物品檢閲委員ニ於テ檢閲上故障ナシト認定シタルトキハ帳簿ニ檢印シテ之ヲ證スヘシ若シ故障アルトキハ當該責任者ヨリ願末書ヲ差出サシムルコトヲ得但該願末書ニハ當該監督ニ於テ檢印スヘシ

第三十四條 物品檢閲委員其ノ檢閲ヲ終リタルトキハ檢閲狀況及物品一般ノ現狀並物品ノ使用及支給上ノ當否等ニ付意見ヲ具シ文部大臣ニ申報スヘシ

第六款 帳簿

第三十五條 物品會計官吏ハ物品ノ出納保管ヲ明確ニスル爲メ左ノ帳簿ヲ設ケ之ヲ整理スヘシ

- 一 物品出納簿
- 一 證票ニ基キ物品ノ出納ヲ記入シ及在庫並使用物品ノ現在ヲ

該毀損者若クハ紛失者又ハ監守者若クハ取扱主任者ヲシテ修理セシメ又ハ代品若クハ代價辨償セシムルモノトス但本文ノ場合ニ於テハ物品檢閲委員ノ審議ヲ經テ會計課長之ヲ處理スヘシ但其ノ事項ノ重キモノハ文部大臣ノ裁定ヲ乞フヘシ

第二十一條 各部局ニ於テ不用ニ屬シタル物品アルトキハ直ニ會計課ニ返付スヘシ豫備等ノ名ヲ以テ之ヲ置クコトヲ得ス

- 第四款
- 第二十二條 (削除)
- 第二十三條 (削除)
- 第二十四條 (削除)
- 第二十五條 (削除)

第五款 檢 閱

第二十六條 文部大臣ハ物品檢閲委員長一名委員若干名ヲ設ケテ本省所有物品ノ保管及使用並消費上ノ可否ヲ檢査セシムヘシ

第二十七條 檢閲ヲ分チテ定期、臨時ノ二トス

第二十八條 定期檢閲ハ毎年六月其ノ時日ヲ定メテ之ヲ施行シ臨時檢閲ハ臨時之ヲ施行スヘシ

第二十九條 物品檢閲委員長及委員ハ毎年之ヲ任命シ其ノ任期ハ一年トス

第三十條 物品檢閲ノ期日及檢閲委員氏名ハ檢閲委員長ヨリ豫メ各部局長ニ通報スヘシ

明ニス

- 一 備品支給簿
- 一 命令文書ニ基キ使用ニ供シタル物品ヲ記入シ監守者若クハ取扱主任者ヲシテ受領ノ印證ヲ捺セシム
- 一 消耗品支給簿

命令文書ニ基キ支給ノ物品ヲ記入シ取扱主任者ヲシテ受領ノ印證ヲ捺セシム

前項ノ外補助簿ハ適宜之ヲ設クヘシ

第三十六條 各局課ニ於テハ備品監守簿及消耗品受拂簿ヲ備ヘテ物品ノ現存及受授ヲ明確ナラシムヘシ

- 第七款 報告書及計算書
- 第三十七條 (削除)
- 第三十八條 (削除)
- 第三十九條 (削除)

第四十條 物品出納計算書ノ下檢査ハ會計課長之ヲ執行スヘシ

第四十一條 各部局ニ於テハ毎月五日迄ニ前月中消耗品ノ受拂表ヲ調製シ會計課ニ報告スヘシ

第八款 附 則

第四十二條 本規程施行ニ要スル帳簿及諸表ノ様式ハ會計課長之ヲ定メ文部大臣ノ裁決ヲ經ヘシ

第四十三條 物品ノ種別ヲ定メ又ハ其ノ員數ヲ豫定シタルトキハ其ノ都度文部大臣ニ開申スヘシ



●文部省直轄各部物品會計規程

明治二十三年三月三十一日裁定 明治三十九年九月一日改正

第一條 本省直轄各部ノ所有ニ屬スル物品ハ當該各部長之ヲ管理シ其ノ保管及出納ハ物品會計規則ニ基キ此ノ規程ニ從ヒ處理スヘシ

第二條 物品ヲ大別シテ備品、消耗品ノ二種トシ又備品ノ各室共用ニ係ルモノヲ共用備品トシ職員各自ニ專用スルモノヲ專用備品トス

第三條 通常所用ノ備品及消耗品ハ直轄各部長其ノ員數ヲ豫定スヘシ

第四條 直轄各部長ハ部内ノ狀況ニ依リ重ナル職員ニ物品ノ區域ヲ定メテ之ヲ管理ヲ委任スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ旨文部大臣ニ開申スヘシ

第五條 物品出納ノ命令ハ直轄各部長又ハ其ノ委任ヲ受ケタル官吏之ヲ發スヘシ

第六條 物品會計官吏ハ直轄各部長之ヲ命スヘシ  
直轄各部ニ於テハ部内ノ狀況ニ依リ物品ノ區域ヲ定メテ物品會計官吏ヲ分置スルコトヲ得

ノ保管出納及監守取扱ニ關スル實況ヲ檢查セシムヘシ但時トシテ文部大臣ヨリ檢閲委員ヲ派遣シテ之ヲ檢查セシムルコトアルヘシ

物品會計規則第十條ノ二ノ檢查ヲ爲シタル年ニ於テハ應費ニ屬スル物品ヲ除キ前項ノ檢查ヲ省略スルコトヲ得

第十四條ノ二 物品會計規則第十條ノ二ニ依ル檢查ノ官吏ハ四年毎ニ直轄各部長之ヲ命シ其ノ調書ハ文部大臣ニ進達スヘシ

第十五條 (削除)

第十六條 (削除)

第十七條 物品出納計算書ノ下檢査ハ直轄各部長若クハ第四條ニ據リ管理ノ責任アル官吏之ヲ執行スヘシ

第十八條 本規程施行ニ要スル細則並帳簿及諸表ノ様式ハ直轄各部長之ヲ定メ文部大臣ノ裁決ヲ經ヘシ

第十九條 (削除)

●文部省建築用物品出納規程

明治三十五年一月三十一日 大臣 裁定 定

第一條 建築用物品ハ總務局建築課長之ヲ管理シ物品會計規則ニ基キ此ノ規程ニ從ヒ處理スヘシ

但設備費ニ屬スル物品ハ建築用物品以外トス  
第二條 建築用物品ヲ別チテ建築材料、建築用具、事務用備品、消耗品ノ四種トス

帳簿ニ捺印セシメ若クハ別ニ領收證書ヲ徴スヘシ

第八條 各室共用ノ物品ハ之ヲ監守及取扱ノ主任者ヲ定メ置キ該物品ノ監守又ハ取扱ニ關スル責任ニ任セシメ又職員各自專用ノ物品ハ各自監守ノ責任ニ任セシムヘシ

第九條 物品會計官吏ハ物品ノ出納保管ヲ明確ニスル爲メ出納簿其ノ他ノ帳簿ヲ設ケテ物品ノ出納又ハ在庫並使用物品ノ現在及物品ノ受授ヲ登記シ物品監守者ハ物品監守簿ヲ設ケテ其ノ監守スル物品ノ品名員數及受授ノ年月日等ヲ詳記スヘシ在庫及使用中ノ備品ハ物品會計官吏ニ於テ時々修理ヲ要スルモノノ員數ヲ調査シ修理ノ手續ヲナスヘシ

第十條 物品ノ購買、修理、賣却等ハ成規ニ依リ之ヲ執行スヘシ但賣却シタル物品ハ代價徴收ノ後ニアラサレハ引渡スコトヲ得ス

第十一條 (削除)

第十二條 物品會計官吏保管ノ物品ヲ亡失毀損シ又ハ第九條ニ掲クル使用物品ニ付テ其ノ監督ヲ怠リタルトキハ當該直轄各部長其ノ事實ヲ審査シ故意怠惰ニ出タルモノト認ルトキハ文部大臣ニ具申スヘシ

第十三條 物品ヲ毀損シ或ハ紛失シタル者アルトキハ其ノ實況ニ依リ該毀損者若クハ其ノ紛失者又ハ監守者若クハ取扱主任者ヲシテ修理セシメ又ハ代品若クハ代價ヲ辨償セシムヘシ

第十四條 直轄各部長ハ物品檢閲委員ヲ設ケ毎年一回以上物品

第三條 建築用物品ノ出納命令ハ建築課長又ハ其ノ委任ニ依リ建築課出張所長之ヲ發スヘシ

第四條 建築課及建築事務所ノ建築用物品ハ建築課ニ物品會計官吏ヲ置キ建築課出張所ノ建築用物品ハ出張所ニ物品會計官吏ヲ置キ之ヲ保管セシム

但工事實施ノ狀況ニ依リ分任物品會計官吏ヲ置クコトアルヘシ

第五條 建築事務所ノ物品ニ對シテハ物品取扱主任ヲ置キ物品會計官吏ニ專屬セシム

第六條 職員ノ専用物品ハ當該使用者、職員ノ共用物品ハ當該職員ノ上席者監守ノ責任ニ任スヘシ

第七條 前條ノ職員故意怠惰ニ依リ監守ノ物品ヲ亡失毀損シタルトキハ辨償ノ責任ニ任スヘシ

第八條 物品會計官吏ハ物品出納簿ヲ設ケ共用品監守者ハ共用品監守簿ヲ設ケ其ノ受拂ヲ明ニスヘシ但補助簿ハ建築課長ニ於テ適宜之ヲ設ケシムルコトヲ得

第九條 工事ノ廢止設計ノ變更等ニヨリ不用ニ歸シタル物品及一費目ノ工事後功後ノ殘品若クハ貯藏中性效ヲ失シ使用ニ堪ヘサルモノヲ生シタルトキハ建築課長會計課長合議ノ上之カ處分ヲナスヘシ

第十條 物品ヲ亡失シ或ハ毀損シタルモノアルトキハ建築課長其ノ事實ヲ審査シ故意怠惰ニ出タルモノト認ムルトキハ責任



者ヲシテ之ヲ修理セシメ又ハ代品若クハ代價ヲ辨償セシムヘシ但物品會計官吏及分任物品會計官吏ノ責任ニ對シテハ文部大臣ノ裁定ヲ經テ之ヲ處分スヘシ

**第十一條** 建築課長ハ毎年一回以上實施ニ臨ミ又ハ課員ヲ派遣シ建築用物品ノ出納保管ニ關スル實況ヲ検査スヘシ但文部大臣ハ繼續工事ノ最終其ノ他必要ト認ムル場合ニ於テ特ニ検査ノ官吏ヲ命シ之ヲ検査セシムルコトアルヘシ

**第十二條** 物品出納計算書ノ下検査ハ建築課長之ヲ執行スヘシ

**第十三條** 本規程施行ニ要スル手續及帳簿諸表ノ様式等ハ建築課長之ヲ定ムヘシ

●文部省圖書會計規程

昭和六年五月十一日  
大臣 裁 定

**第一條** 本省所屬ノ圖書ハ會計課長之ヲ管理シ其ノ保管及出納ハ物品會計規則ニ基キ此ノ規程ニ從ヒ物品會計官吏之ヲ處理スヘシ

**第二條** 圖書出納ノ命令ハ會計課長之ヲ發スヘシ

**第三條** 圖書ニ關スル物品會計官吏ハ會計課職員中ヨリ之ヲ命ス

本規程ニ於テ物品會計官吏ト稱スルハ前項ノ圖書ニ關スル物品會計官吏ヲ謂フ

**第四條** 物品會計官吏圖書ヲ受入レタルトキハ直ニ圖書原簿ニ

番號受入年月日圖書名著譯編者氏名發行者氏名出版地出版年月價格部冊數排列等ヲ登錄シ別ニ分類目錄及カード目錄ヲ調製スヘシ

**第五條** 前條ノ手續ヲ了ヘタルトキハ圖書ニ排列番號ヲ記入シタル札ヲ貼付シ書庫ニ藏置スヘシ

**第六條** 本省職員執務上必要ナル圖書ハ各自之ヲ借受クルコトヲ得

部局ニ於テ共用スル圖書ハ各部局之ヲ借受クルコトヲ得

前項ノ圖書ハ當該部局長圖書取扱主任ヲシテ之ヲ借受ケシムヘシ

**第七條** 圖書取扱主任ハ部局長當該部局職員中ヨリ之ヲ命スヘシ

部局長圖書取扱主任ヲ命シタルトキハ直ニ其ノ官職氏名ニ印鑑ヲ添ヘ會計課長ニ通知スヘシ

**第八條** 圖書ヲ借受ケントスル者ハ所定ノ様式ニ依ル借用證書ヲ提出スヘシ

**第九條** 第六條第一項ニ依ル圖書借受ノ期間及冊數ハ左ノ如シ但特別ノ必要アリ會計課長ノ承認ヲ得タルトキハ此限ニ在ラズ

一、期 間 三十日以内

一、冊 數 十冊以内

**第十條** 借受ケタル圖書ニツキ物品會計官吏ヨリ返還ヲ求メラ

レタルトキハ借受人ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

**第十一條** 凡テ借受ケタル圖書ハ他ニ轉貸スルコトヲ得ス

**第十二條** 部局共用ノ圖書ハ溢ニ帶出スルコトヲ得ス

**第十三條** 圖書ヲ借受ケタル者ハ其ノ保管ノ責任ニ任シ亡失毀損ヲ發見シタルトキハ直ニ其ノ旨物品會計官吏ニ通知スヘシ

前項ノ保管ノ責任ヲ怠リ圖書ヲ亡失毀損シタルトキハ代價若クハ代品ヲ以テ辨償セシムルコトアルヘシ

**第十四條** 物品會計官吏ハ圖書保管ニ關シ左ノ事項ヲ執行スヘシ

一、毎年一回圖書ヲ爲シ圖書原簿ト照合スヘシ

二、各部局共用ノ圖書ハ毎年一回以上點檢スヘシ

三、貸付ケタル圖書ハ常ニ貸付期限ニ注意シ必要ト認ムルトキハ貸付期限内ト雖臨時返還セシメテ之ヲ點檢スヘシ

**第十五條** 本規程ニ定メサルモノハ文部省物品會計規程ノ定ムル所ニ依ル

附 則

本規程ハ昭和六年五月十一日ヨリ之ヲ施行ス

文部省書庫備付圖書取扱規程ハ之ヲ廢止ス

●圖書購入ニ關スル件

昭和九年七月二十一日  
發會二八九號 會計課長通牒

圖書購入ニ關スル手續ハ各部局ノ請求ニ應ジ當課ニ於テ之カ起案ヲナシ次官ノ裁定ヲ經テ然ル後納入スルモノナルニ不拘屢々部局ニ於テ該手續ヲ履マスシテ直接商人ヨリ取寄セ其ノ後數ヶ月其數ハ一ケ年モ經過シタル後既ニ現品ハ新本トシテノ價值無キニ到リテ初メテ商人ヨリ代金ノ請求ニ遇ヒ漸ク本課ニ請求スルモノ少カラサル狀態今尙其ノ跡ヲ絶タス、處理上大ナル支障ヲ來シ會計手續上ノ反則トシテ會計檢査院等ヨリモ非難ヲ蒙ル次第ニ付右御含ミノ上今後購入手續ヲ履マスシテ絕對ニ受入相成ラサル様貴官ヨリ貴課員ニ對シ御嚴達方特ニ御配意相煩度

●特別用文房具相定メ開申ノ件

明治二十四年四月三十日  
直轄各部へ訓令

明治二十四年三月勅令第二十七號但書ニ依リ使用セシムル特別用文具ハ各部ニ於テ相定メ文部大臣ニ開申スヘシ

●文部本省備付特別用文具

品名	局課名	用途
硯	秘書課	辭令書認用
石	專門學務局	教員免許狀認用
	教員檢定委員會	同上

明治二十七年十月三日 明治二十九年四月三〇日改正



硯	函	製圖用具	筆	鉛	硯	毛筆、墨	簿記
會	會	建	版	筆	函	專	用
計	計	築	用	會	會	門	會
課	課	課	各	議	議	學	計
書類受渡用	金券受拂所用	繪圖面作成用	印刷用	室	課	務	課
	圖書受渡用				辭令書認用	局	
					同上	同	
					同上	上	
					簿記用	簿記用	

●維新史料編纂事務局筆墨特別支給方ノ件

明治四十四年十一月十五日  
次官 裁 定

本會編纂ニ屬スル寫字生淨書用筆墨ハ從來各自々辨ナルニ依リ鄭重ナル淨寫ヲ爲サシメンニハ勢ヒ特別支給ヲ要シ候次第ニシテ殊ニ本會史料ノ底本ハ一般書類ト異リ凡テ楷書ヲ用ヒ文字ノ大小ヲ一定スルノ必要アルカ故ニ筆墨モ亦從テ定メ置クコトヲ

要シ候ニ付右ノ二種特別支給相成度仰裁可候也

●直轄各部局へ委託工事ノ物品取扱方ノ件

明治三十四年十月八日  
文部大臣訓令

直轄部局ニ委託セル工事ニ屬スル物品及購入委託ノ物品ハ自今購入ト同時ニ當該部局ニ交付ス

○右ニ付直轄各部長へ通牒

明治三十四年十月八日會甲一三一七號ヲ以テ直轄各部局ニ委託セル工事ニ屬スル物品及購入委託ノ物品交付方訓令相成候處工事用ノ材料ハ右物品中ニ含入不致儀ニ有之候條爲念此段御通牒候也



●農科大學學術實驗生產品ハ物品出納ノ手續ヲ爲ササル件

明治二十五年三月十四日農科大學物品會計官吏照會同月十九日検査院部長 回答  
本學々術實驗上ヨリ生産スル物品即チ牛乳練乳鶏卵果物蔬菜茶種苗等ノ特別取扱ヲ要スルモノ之カ賣拂ノ場合ニ於テ普通物品ト同シク物品會計官吏ニ於テ成規ノ取扱ヲ爲ストキハ腐敗枯凋ノ虞有之且右等生産品ハ果シテ公衆ノ嗜好ニ適スルヤ否其ノ價格ノ費用ヲ償フテ利益アリヤ否ヲ稽考シ將來生産上ノ資料ニ供スルハ元來本學ノ目的ニ有之因テ物品會計規則施行前ハ主任教官ニ於テ直接販賣致候儀モ有之候然ルニ物品會計規則施行以來同規則ニ拘ハリ物品會計官吏ノ手ヲ經テ賣拂致候爲メ腐敗若クハ枯凋シ損廢ニ屬シ候モノ往々有之管ニ手續ノ繁冗ノミナラス本學全體ノ目的ニ對シ妨礙不尠候ニ付自今物品會計官吏ニ於テ物品出納ノ手續ヲ爲サス主任教官ニ於テ直ニ賣拂爲致度又獸醫學實驗之試驗用材料トシテ購入スル斃牛馬等ノ類購入同時ニ試驗ニ供シ直ニ消滅スルモノモ前項同様物品會計官吏ニ於テ物品出納ノ手續ヲ爲サス候様致度差支無之儀トハ存候得共一應御意見承知致度此段及御照會候也  
追テ本文前段賣拂ノ場合ニ於テ代金收入ノ手續ハ成規ニ據リ收入官吏ニ於テ取扱候趣旨ニ有之候

回答

貴學々術實驗上ヨリ生産スル物品及試驗用材料ノ爲メ購入スル物品取扱ノ件ニ付御照會ノ趣了承右ハ來示ノ通御取計相成可然存候此段及御回答候也

●圖書課保管記録書類中消耗品ニ供セサル書冊ニ係ル分ヲ物品會計官吏ノ保管ニ移スノ件

明治二十七年十月十二日會計検査院長ヨリ注意  
同月二十四日文部大臣ヨリ同院長へ通牒  
明治十七年太政官第十一號達第一項但書ノ記録書類ハ物品會計官吏ノ保管ニ付スルヲ要セストノ御意見ナル哉ニ候得共右ハ彼ノ謄寫代用塗抹、切張、付箋等ノ用ニ供シテ消耗ニ立テ若クハ現ニ消耗品ニ供セラル、書冊ハ格別苟モ書簿記冊ノ實體ヲ爲シタルモノハ物品會計規則ノ下ニ管理セラルヘキモノニシテ太政官達トハ毫モ關係無之儀ト被存候トノ注意ニ對シ右ハ消耗品ニ供セサル書冊ニ屬スル分ハ總テ物品會計官吏ノ保管ニ移シ且將來モ同様取扱候事ニ相改メ候旨通牒相成タリ

●書冊類取扱方ノ件

明治二十七年十一月三十日  
検査院部長へ通知  
一 從來圖書課ニ於テ保管セシ書冊ハ原簿ヲ置キ各登記ヲ了シ

追録第五號

整頓シアルヲ以テ此際特ニ物品會計官吏へ引續ノ手續ヲナス便宜上該原簿ヲ以テ「記録書類出納簿」トナシ監守簿並支給簿ニ兼用スル事

- 一 記録書類出納簿ニハ代價ノ掲記ヲ要スルニ依リ左ノ方法ニ基キ此ノ際該原簿ニ計上スル事
- 一 購入價格判明ナルモノハ其ノ價格ニ據ル
- 一 在來品及自今寄贈ニ係ルモノニハ定價掲記アルモノハ其ノ價格ニ據ル
- 一 在來品及自今寄贈ニ係ルモノニハ定價掲記ナキモノニハ主任ニ於テノ見積價格ニ據ル
- 一 新ニ購入スルモノハ會計課ヨリ圖書課へ現品送付ノ際支出傳票ヲ添附シ圖書課監守者ハ該傳票ニ據リ記録書類出納簿ニ品名員數代價ヲ掲記スル事
- 一 記録書類出納簿ハ(和洋ヲ區別シ和書ハ取扱上)毎年度末日ニ於テ員數及代價ヲ合計シ而テ前年度ヨリ越高其ノ年度内購入及寄贈ノ分ヲ内譯トシ竝減シタルモノアレハ其ノ員數代價ヲ掲ル事
- 一 物品會計官吏ハ毎年度末一回前項合計ヲ總計シタル員額ヲ備品出納簿ニ登記シ會計検査院へ證明スル調書ハ本簿ニ據リ調製スル事







●官廳加入電話讓渡ニ關スル件

大正十三年八月七日  
内閣通牒

官廳加入電話讓渡ニ關シ去ル本月二日次官會議ニ於テ別紙ノ通  
申合致候  
別紙

- 第一 官廳加入電話ハ他人ニ讓渡スルコトヲ得ス但シ電話ノ讓  
渡ヲ爲スモ官廳事務上差支ナキ場合ニシテ讓渡ヲ受クヘキ者  
カ左記各號ノ條件ヲ具備スル場合ハ此ノ限りニ在ラス
- 一 在官二十年以上ノ者ナルコト
- 二 現ニ使用スル電話力其ノ使用開始後五年ヲ經過シタルモ  
ノナルコト
- 三 過去一年内ニ於テ自己名義ノ加入電話ヲ他人ニ名義變更  
シタルコトナキコト
- 四 現ニ自己名義ニ屬スル加入電話ヲ有セサルコト
- 第二 官廳加入電話ニシテ事實官吏タル個人ニ於テ使用料ヲ納  
付スルモノナルトキハ從來架設濟ノモノニ限り其ノ官吏ニ之  
ヲ讓渡スルヲ妨ケス
- 第三 前二項電話讓渡ニ關シテハ豫メ逕信大臣ニ協議スルモノ  
トス

物品會計規程第七條ノ責任アル職員ト看做シ軍事教練ニ關スル  
物品ノ監守者タラシムルコト差支無之哉陸軍當局ト御協議ノ上  
何分ノ御指示相成度此段相伺候也

回答

客年十二月二十四日付盛農會第一九五號ヲ以テ配屬將校ニ兵式  
教練ニ關スル物品ノ監守者ヲ命スルノ件伺出ノ處直轄各部ノ責  
任アル職員ト看做シ經理上ノ責任ヲ負擔セシムルコトハ陸軍省  
ニ於テ同意無之ニ付管理上ノ援助ヲ爲サシムル程度ニ止メラレ  
度依命此段通牒ス

●物品ハ品目別ニ記帳ヲ要スル件

大正六年一月二十三日  
次官裁定

機械器具類ヲ使用スル學科毎ニ分類整理セルハ物品ノ簡數調査  
等ニ多大ノ手數ヲ要シ支障少カラサルニ付品目毎ニ分類整理ヲ  
要ス

注意 本件ハ會計検査ノ結果當該部局ニ對シ注意相成リタルコトナ  
ルモ若シ所管部局ニ於テ右ノ如ク處理セル部局アラハ同様處理ヲ  
要ス

●配屬將校ニ物品ノ監守者ヲ命セサル  
ノ件

大正十五年六月四日盛農會三四號照會  
會計課長通牒

配屬將校ニ兵式教練ニ關スル物品ノ監守者ヲ命スルノ件ニ付盛  
岡高等農林學校長ノ伺ニ對シ別紙ノ通牒相成タルニ付爲念此  
段通牒ス  
別紙  
本校ニ於テ從來物品監守ヲ命スルニハ責任アル職員ヲ以テ之ニ  
充テ居リ候處本年軍事教育施行以來相當物品ノ數モ増加候ノミ  
ナラス之カ監理上ニ於テモ直接其ノ衝ニ當ル配屬將校ヲシテ監  
守セシムルコトノ至便ナルヲ認メ候條同將校ヲ文部省直轄各部



第八章 檢 査



## 第八章 檢 査

### ●會計検査院法

明治二十二年五月 昭和一二二年  
法律第十五號 二八號改正

#### 第一章 組 織

- 第一條 會計検査院ハ天皇ニ直隸シ國務大臣ニ對シ特立ノ地位ヲ有ス
- 第二條 會計検査院ハ院長一員部長四員検査官十四員ヲ置キ之ヲ會計検査官トシ別ニ書記官專任二員副検査官專任二十四員理事官專任四員及書記ヲ置ク
- 第三條 院長ハ親任、部長ハ勅任、検査官ハ勅任又ハ奏任、書記官副検査官及理事官ハ奏任、書記ハ勅任トス
- 勅任検査官及書記ノ定員ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
- 第四條 院長ハ院務ヲ總理シ部長ハ部務ヲ掌理ス
- 院長事故アルトキハ上席ノ部長ヲシテ代理セシムルコトヲ得
- 第五條 會計検査院ニ四部ヲ設ケ各部部长一員検査官三員又ハ四員ヲ以テ検査ノ事務ヲ分掌ス
- 第六條 會計検査官ハ勅令ニ定メタル資格ヲ具フル者ヲ以テ之ニ任ス
- 會計検査官ハ刑事裁判若ハ懲戒裁判ニ依ルニアラサレハ其ノ意ニ反シテ退官轉官又ハ休職ヲ命セラルルコトナシ

會計検査官ニ關ル懲戒ノ條規ハ別ニ定ムル所ニ依ル

第七條 父子兄弟ハ同時ニ會計検査官トナルコトヲ得ス

第八條 會計検査官ハ他ノ官職ヲ兼ネ及帝國議會又ハ地方議會ノ議員トナルコトヲ得ス

第九條 會計検査院ノ議事ハ總會議又ハ部會議ヲ以テ決ス總會議ハ院長ヲ以テ議長トシ部會議ハ部長ヲ以テ議長トス

議事ハ多數ヲ以テ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

第十條 左ノ場合ニ於テハ總會議ヲ以テ議決ス

一 第十五條ニ依リ上奏ヲ爲シ又ハ天皇ノ下問ニ奉答スルトキ

二 第十四條ニ依リ報告書ヲ確定スルトキ

三 第十七條ニ依リ意見ヲ陳述スルトキ

四 検査事務ノ規程計算證明ノ様式及提出ノ期限ヲ定メ又ハ之ヲ改正スルトキ

五 其ノ他院長ニ於テ總會議ニ付スルノ必要アリト認メタルトキ

第十一條 計算検査ノ判決ハ凡テ會議ニ於テス其ノ總會議ニ於テスルト部會議ニ於テスルトハ會計検査院長ノ定ムル所ニ依ル



第二章 職 權

第十二條 會計検査院ハ官金ノ收支官有物及國債ニ關ル計算ヲ検査確定シテ會計ヲ監督ス

第十三條 會計検査院ノ検査ヲ要スルモノ左ノ如シ

- 一 總決算
- 二 各官廳及官立諸營造ノ收支及官有物ニ關ル決算
- 三 日本銀行ノ政府ノ爲取扱フ現金及有價證券ノ出納ニ關ル決算
- 四 政府ヨリ補助金又ハ特約保證ヲ與フル團體及公立私立諸營造ノ收支ニ關ル決算
- 五 法律勅令ニ依リ特ニ會計検査院ノ検査ニ屬セラレタル決算

第十四條 會計検査院ハ憲法第七十二條ニ依リ決算ヲ検査確定スルト同時ニ左ノ事項ニ付報告書ヲ作ルヘシ

- 一 總決算及各省決算報告書ノ金額ト日本銀行ノ提出シタル計算書ノ金額ト符合スルヤ否ヤ
- 二 歳入ノ賦課徴收歳出ノ使用官有物ノ得有沽賣讓與及利用ハ各其ノ豫算ノ規程又ハ法律勅令ニ違フコトナキヤ否ヤ
- 三 豫算超過又ハ豫算外ノ支出ニシテ議會ノ承諾ヲ受ケサルモノナキヤ否ヤ

第十五條 會計検査院ハ各年度ノ會計検査ノ成績ヲ上奏シ其ノ成績ニ就テ法律又ハ行政上ノ改正ヲ必要トスヘキ事項アリト

第二十條 會計検査院ハ出納官吏ノ計算書及證憑書類ヲ検査シ

正當ナリト判決シタルトキハ該官ニ對シ認可狀ヲ付シ其ノ責任ヲ解除ス若必要ナル場合ニ於テハ之ヲ推問シ辯明又ハ正誤ヲ爲サシメ仍正當ナラスト判決シタルトキハ本屬長官ニ移牒シテ處分ヲ爲サシム

第二十一條 會計検査院ハ日本銀行ノ計算ヲ検査シ正當ナリト決定シタルトキハ其ノ旨ヲ大藏大臣ニ通知スヘシ正當ナラスト決定シタルトキハ大藏大臣ニ移牒シテ相當ノ處置ヲ要求スルコトヲ得

第二十二條 會計検査院ノ判決ニ據リ辨償ノ責ヲ負フ者ハ天皇ノ恩赦ニ由ルノ外本屬長官之ヲ減免スルコトヲ得

第二十三條 出納官吏計算書及證憑書類ヲ提出ヲ怠リ又ハ様式ヲ守ラサルトキハ會計検査院ハ本屬長官ニ移牒シテ懲戒處分ヲ要求スルコトヲ得

第二十四條 政府ノ機密費ニ關ル計算ハ會計検査院ニ於テ検査ヲ行フ限ニ在ラス

第二十五條 會計検査院ハ認可狀ヲ付スルノ後ト雖其ノ付シタル日ヨリ五箇年以内ニ於テハ出納官吏ヨリ之ヲ請求スルカ又ハ計算書ノ誤謬脱漏ニ重記載アルコトヲ發見シタルトキハ再審ヲ爲スコトヲ得但シ詐偽ノ證憑ヲ發見シタルトキハ五箇年後ト雖再審ヲ爲スコトヲ得

出納官吏ハ會計検査院再審ノ判決ニ對シテ再ヒ審判ヲ請求ス

認ムルトキハ併セテ意見ヲ上奏スルコトヲ得

第十六條 會計検査院ハ各官廳中一部ニ屬スル計算ノ検査及責任解除ヲ其ノ廳ニ委託スルコトヲ得但シ其ノ検査ノ成績ハ該廳ヲシテ之ヲ會計検査院ニ報告セシムヘシ

前項ノ委託ニ拘ラス會計検査院ハ時宜ニ依リ其ノ所管ノ官廳ヲシテ計算書ヲ送付セシメ之カ検査ヲ行フコトアルヘシ

第十三條第四號ノ團體及公立私立諸營造ノ決算ニ就テモ亦本條ヲ適用スルコトヲ得

第十七條 現金物品ノ出納及簿記上ニ關ル各省ノ命令ニ付會計検査院ハ其ノ發布ノ前通知ヲ受ケ意見アルトキハ之ヲ陳述スルコトヲ得

會計検査院ハ收入及支出ニ關ル規則ヲ定メ及既定ノ規則ヲ改正スル各省ノ命令ニ付其ノ發布ノ前通知ヲ受ク

第十八條 會計検査院ハ計算書及計算證明ノ様式並其ノ提出及推問ニ對スル答辯ノ期限ヲ定ム

第十九條 會計検査院ハ各官廳ヲシテ検査上必要ナル簿書及報告ヲ提出セシメ及主任官吏ノ辯明書ヲ求ムルコトヲ得

會計検査院長ハ検査上必要ト認ムルトキハ主任官吏ヲ派遣シ實地検査ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ豫メ本屬長官ニ通知シ該長官ハ主任官吏ヲシテ検査ニ立會ヲ爲サシムルコトヲ得前二項ハ會計検査院ノ検査ヲ受クル各官廳以外ノモノニ付之ヲ準用ス

ルコトヲ得ス

第三章 附 則

第二十五條 會計検査院ノ事務章程ハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

附 則 (昭和九年三月法律第十九號)

本法ハ昭和九年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

●會計検査院事務章程

明治三十二年十二月 昭和一二年  
勅令第四百五十七號 一四九號改正

第一條 會計検査院ニ第一部、第二部、第三部及第四部ヲ設ケ各部ニ課ヲ置キ検査ノ事務ヲ分掌セシム

第二條 會計検査院ニ院長官房ヲ置ク

第三條 會計検査院ノ會議ハ會計検査官ヲ以テ組織ス

第四條 總會議ハ院長之ヲ開キ部會議ハ部長之ヲ開ク

第五條 總會議及部會議ハ會計検査官、委員又ハ副検査官ノ提出シタル文書ヲ以テ議案トス

第六條 會計検査官總會議又ハ部會議ノ議決ヲ要スル事件ニ付議案ヲ提出セムトスルトキハ其ノ案ヲ具ヘ理由ヲ附シ總會議



ノ議決ヲ要スルモノハ院長ニ部會議ノ議決ヲ要スルモノハ部長ニ之ヲ提出スヘシ

委員ヲ設ケタル場合ニ於テ其ノ委員ヨリ提出スル議案ニ付テ亦同シ

第七條 會計検査官ハ父子兄弟ノ提出シタル計算書ヲ検査シ又ハ其ノ檢定若ハ判決ニ與ルコトヲ得ス

第八條 院長ハ所部ノ職員ヲ統督シ奏任官ノ進退ハ内閣總理大臣ヲ經テ之ヲ上奏シ判任官以下ハ自ラ之ヲ行フ

第九條 院長ハ内閣總理大臣ヲ經テ所部職員ノ叙位叙動ヲ上奏シ又ハ増俸賞與ヲ行フ

第十條 院長ハ會計検査院全般ニ關スル事務又ハ臨時ノ事務ヲ處理セシムル爲メ會計検査院高等官中ヨリ委員ヲ設ケルコトヲ得

第十一條 左ノ事項ハ院長ノ職權ニ屬ス  
一 各部ノ分課ヲ定ムルコト  
二 各部課主管ノ事務及職員ノ配置ヲ定ムルコト  
三 各部ヨリ提出スル文書ニシテ總會議又ハ部會議ノ議決ヲ要セサルモノヲ處分スルコト

四 副検査官及理事官ニ總會議出席ヲ命スルコト  
五 所部ノ職員ニ出張ヲ命スルコト  
六 議事ニ關シ細則ヲ定ムルコト  
七 部會議ノ議決スヘキ事項ヲ定ムルコト

ハ部會議ノ議決ヲ要セサルモノ又ハ院長ニ提出スルヲ要セサルモノハ直ニ之ヲ處分スヘシ

其ノ部會議ニ付シタルモノハ總テ之ヲ院長ニ提出スヘシ

第十七條 部長ハ各課ヨリ提出スル文書ニ付主任検査官ノ同意ヲ得テ其ノ主意ヲ變更スルコトヲ得若其同意ヲ得サルトキハ之ヲ部會議ニ付シ又ハ之ヲ總會議ニ提出スヘシ

部會議ノ議決ヲ經タル文書ト雖其ノ主意ヲ變更セサル限り部長ハ文章ヲ訂正スルコトヲ得

第十八條 部長ハ部會議ノ議決ヲ不當ト認ムルトキハ其ノ執行ヲ停止シ議決ノ日ヨリ七日以内ニ之ヲ總會議ニ提出スヘシ

第十九條 部長ハ各課ヨリ提出スル文書ニシテ總會議又ハ部會議ノ議決ヲ要セサルモノニ付再調査ヲ爲サシムルコトヲ得

第二十條 検査官ハ各課ノ長トナリ課務ヲ掌理ス

第二十一條 検査官ハ検査ノ執行ニ因リ檢定、判決、審理等ニ關スル文書ヲ調製シ之ヲ部長ニ提出ス

第二十二條 副検査官ハ各課ニ分屬シ課長ヲ助ケ又ハ院長官房若ハ各部ニ分屬シ審議立案ヲ掌ル

第二十三條 副検査官ハ検査ノ事項ニ關シ意見アル場合ニ於テ總會議又ハ部會議ニ議案ヲ提出セムトスルトキハ院長又ハ當該部長ノ承認ヲ經ヘシ

第二十四條 書記官ハ院長官房ニ屬シ庶務ヲ掌ル

第二十四條ノ二 理事官ハ院長官房又ハ各課ニ分屬シ上官ノ命

ヲ承ケ検査ノ事務又ハ庶務ヲ掌ル

第二十五條 書記ハ上官ノ指揮ヲ承ケ検査ノ事務又ハ庶務ニ從事ス

第二十六條 會計検査院ハ行務年度ヲ定メ検査ノ事務ヲ執行ス

第二十七條 會計検査院ハ検査ノ事項ニ付當該官吏ニ對シテハ審理書ヲ發シ國務大臣ニ對シテハ質問書又ハ注意書ヲ發スルコトヲ得

第二十八條 會計検査院ハ出納官吏ノ計算正當ナリト判決シタルトキハ本屬長官ヲ經由シテ認可狀ヲ交付シ正當ナラスト判決シタルトキハ本屬長官ニ對シテ處分要求書ヲ發スヘシ

會計検査院ハ出納官吏其ノ負擔スヘキ缺損金ノ辨償ヲ終ヘタルトキハ本屬長官ヲ經由シテ認可狀ヲ交付スヘシ

八 行務監督規程及其ノ他ノ行政事務ニ關スル諸規程ヲ定ムルコト

第十二條 院長ハ各部ヨリ提出スル文書ニ付主任部長及検査官ノ同意ヲ得テ其ノ主意ヲ變更スルコトヲ得若其ノ同意ヲ得サルトキハ之ヲ總會議ニ付スヘシ

總會議又ハ總會議ノ議決ヲ經タル文書ト雖其ノ主意ヲ變更セサル限り院長ハ文章ノ訂正ヲ爲スコトヲ得

第十三條 院長ハ總會議ノ議決ヲ不當ト認ムルトキハ其ノ執行ヲ停止シ議決ノ日ヨリ十四日以内ニ之ヲ再議ニ付スヘシ

再議ノ議決ニ對シテハ其ノ執行ヲ停止スルコトヲ得ス

院長ハ部會議ノ議決ヲ不當ト認ムルトキハ其ノ執行ヲ停止シ其ノ議決書ヲ受ケタル日ヨリ十四日以内ニ之ヲ總會議ニ付スヘシ

第十四條 院長ハ各部ヨリ提出スル文書ニシテ總會議又ハ部會議ノ議決ヲ要セサルモノニ付再調査ヲ爲サシムルコトヲ得

第十五條 左ノ事項ハ部長ノ職權ニ屬ス  
一 其ノ名ヲ以テ審理書ヲ發スルコト  
二 副検査官及理事官ニ部會議出席ヲ命スルコト  
三 部員ヲシテ其ノ部主管ノ事務ニ付一時相互ニ幫助セシムルコト

四 部員ノ行務ヲ監督シ院長ニ報告スルコト

第十六條 部長ハ各課ヨリ提出スル文書ヲ審查シ其ノ總會議若

追録第十號

追録第十號

追録第十號

追録第十號

追録第十號

追録第十號

追録第十號

追録第十號

追録第十號

追録第十號

追録第十號

追録第十號

追録第十號

追録第十號

追録第十號

追録第十號



第三十二條 會計検査院ハ出納官吏ノ請求ニ因リ再審ヲ行フ場  
合ニ於テハ其ノ旨ヲ本屬長官ニ通知スヘシ

會計検査院ハ職權ヲ以テ再審ヲ行フ場合ニ於テハ本屬長官ヲ  
經由シテ其ノ旨ヲ當該出納官吏ニ通知スヘシ

第三十三條 會計検査院ハ左ノ場合ニ於テ本屬長官ヲシテ直ニ  
報告ヲ爲サシムルコトヲ得

- 一 出納官吏其ノ保管スル現金ヲ亡失シタルトキ
- 二 各省大臣出納官吏ニ對シ辨償ヲ命シタルトキ
- 三 出納官吏ニ對スル公訴ニ附帶シテ國ノ代表者私訴ヲ提起  
シタルトキ

第三十三條ノ二 會計検査院ハ必要ニ應シ技術顧問員ヲ置クコ  
トヲ得

技術顧問員ハ院長之ヲ囑託ス院長ノ命ニ依リ技術ニ關スル事  
項ヲ調査シ意見ヲ開陳ス

第三十四條 會計検査院ハ各地方官廳ヲシテ其ノ地ノ物價ヲ定  
期又ハ臨時ニ報告セシムルコトヲ得

第三十五條 會計検査院ハ必要アルトキハ検査事項ニ關スル資  
料ノ調査ヲ關係官廳ニ囑託スルコトヲ得

附 則 (昭和九年三月勅令第三十六號)  
本令ハ昭和九年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

附 則 (昭和十二年四月勅令第四百九十九號)  
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●會計検査院各部課管理事務

大正十年九月 昭和十二年四月  
院達第五號 改正

- 第一部
  - 第一課 大藏省所管、國債、日本銀行出納
  - 第二課 租稅、內國稅徵收費、稅關
  - 第三課 農林省所管、北海道廳
  - 第四課 內務省所管
- 第二部
  - 第一課 陸軍省所管
  - 第二課 內地所在師團、臺灣軍、陸軍造兵廠、陸軍兵器廠
  - 第三課 海軍省所管
  - 第四課 司法省所管、商工省所管、日本製鐵株式會社
- 第三部
  - 第一課 文部省所管
  - 第二課 逓信省所管
  - 第三課 鐵道省所管
- 第四部
  - 第一課 外務省所管、拓務省所管、對滿事務局、關東局、樺  
太廳、南滿洲鐵道株式會社
  - 第二課 朝鮮總督府、東洋拓殖株式會社
  - 第三課 臺灣總督府、南洋廳
- 備考
  - 一 租稅外歲入及物品ハ各支出主管ノ課ニ於テ之ヲ管理ス  
補助保證團體ノ收支ハ各其ノ所管省主管ノ課ニ於テ之ヲ管  
理ス
  - 二 各省所管中他ノ部課ノ事務ニ列記セシ事項ハ所管事務中ヨ  
リ之ヲ除ク
  - 三 各省又ハ各會計ニ共通スル事項ニ對シテハ第一部第一課ニ  
於テ之ヲ管理ス

●歳入歳出外現金出納計算ノ検査及責任解除委託ノ件

明治二十八年十月九日  
會計検査院長委託

會計検査院ハ會計検査院法第十六條ニ據リ明治二十八年年度以降  
文部省直轄學校及圖書館歳入歳出外現金出納計算ノ検査及責任  
解除ヲ文部省ニ委託ス

●物品出納計算ノ検査及責任解除委託ノ件

明治三十二年五月三十日送第五六四號検査院長  
委託 同年七月七日文部大臣訓令

會計検査院法第十六條ニ依リ明治三十一年度以降左記物品出納  
計算ノ検査及責任解除ヲ其ノ廳ニ委託ス

- 一 文部本省物品
- 一 官立學校及圖書館物品但醫科大學附屬醫院物品札幌農學校  
實驗農場物品及農科大學實驗用材料並生産品及東京美術學  
校、東京工業學校、大阪工業學校、實驗製品工場物品ヲ除ク(次  
ノ件参照)

●委託検査ノ範圍擴張ノ件

大正四年四月八日送第四六〇號検査院長委託  
同四月十六日關係部局訓令

會計検査院ハ同院法第十六條ニ依リ大正三年度以降左記ノ物品  
出納計算ノ検査及責任解除ヲ文部省ニ委託ス

- 一 帝國大學附屬醫院、新潟醫學專門學校附屬病院物品、東京  
帝國大學農科大學實驗用材料並生産品、東北帝國大學農科大  
學實驗農場物品、各高等工業學校京都高等工藝學校東京美術  
學校實驗製品工場物品

●建築工事ニ關スル物品ノ出納検査ノ件

大正十一年五月四日送第二五三號  
會計検査院長通牒

- 一、明治三十二年五月三十日付會計検査院送第五六四號及大正  
四年四月八日付送第四六〇號ヲ以テ委託シタル物品出納計算  
ノ検査及責任解除事項中直營工事ニ屬スル一廉總價格壹萬圓  
以上ノモノヲ除ク
- 右ハ大正十一年度分ヨリ施行ス







右検査ノ要領ヲ摘載スルコト左ノ如シ

- 一 審理ノ結果違法又ハ不當ト認メタルモノ何件其ノ要領別紙ノ如シ
- 二 出納官吏辨償責任ニ關シ判決ヲナシタルモノ何件其ノ要領別紙ノ如シ

右検査完了セリ依テ茲ニ之ヲ報告ス

年 月 日

受託廳長官氏名印

會計検査院長宛

第二號書式乙

大正何年度物品出納検査成績報告書

廳 名	證 名 者 職 官 氏 名	管 理 期	認 可 狀 交 付 年 月 日
備考 帳簿ニ依リ検査シタルモノハ△ノ符號ヲ第二段ニ附記スヘシ 右検査ノ要領ヲ摘載スルコト左ノ如シ (以下前例ニ同シ)			

●委託検査事務執行規程

昭和五年一月 文部省訓令第三號

- 第一條 會計検査院法第十六條ノ規定ニ依リ委託ヲ受ケタル検査及責任解除ノ事務ハ本規程ニ依リ之ヲ執行スヘシ
- 第二條 歳入歳出外現金出納官吏ハ検査判決ヲ受クル爲計算證明規程ニ依リ出納計算書ニ證憑書類ヲ添ヘ當該部局長ヲ經由シテ之ヲ文部省ニ提出スヘシ
- 第三條 部局長ハ其ノ委任經理ニ屬スル現金及有價證券ノ出納受拂ニ關シ検査判決ヲ受クル爲左ノ書類ヲ文部省ニ提出スヘシ
  - 一 現金ニ關シテハ前條ノ例ニ準ス但シ計算書ノ表紙ニハ委任經理現金出納計算書ト記載シ利子ニ關シテハ其ノ計算ノ基礎ヲ示スヘシ
  - 二 有價證券ニ關シテハ別表第一號様式ニ依ル調書
- 第四條 物品出納ノ證明及検査ハ左ノ各號ニ依ルヘシ但シ一廉總金額壹萬圓以上ノ工用物品ヲ除ク
  - 一 文部本省所屬ノ物品ニ關シテハ大臣官房會計課長検査官吏ヲ命シ検査報告書ヲ徵スヘシ
  - 二 直轄各部局ニ屬スル物品ニ關シテハ當該部局長ニ於テ検査官吏ヲ命シ検査報告書ヲ徵シ之ヲ文部省ニ提出スヘシ
  - 三 物品會計官吏ハ毎年度又ハ會計官吏交替ノ際物品出納簿

ニ證憑書類ヲ添ヘ年度經過後又ハ會計官吏交替後二箇月限り本省ニ在リテハ會計課長ニ直轄各部局ニ在リテハ當該部局長ニ提出スヘシ但シ交替ノ場合ニ於テハ各管理期ヲ帳簿ノ末尾ニ記載シ連署ヲ以テ年度經過後證明スルコトヲ得

物品出納證明ノ證憑書類トシテ提出スヘキ書類ハ計算證明規程第六十七條ノ例ニ據ル

四 検査官吏ハ物品出納簿ト證憑書類ヲ對照検査スヘシ  
検査官吏検査ヲ了シタルトキハ帳簿ノ末尾ニ検査済ノ旨及其ノ年月日ヲ記載シ署名捺印シ證憑書類ト共ニ之ヲ物品會計官吏ニ還付シ別表第二號様式ニ依リ検査ノ結果ヲ報告スヘシ但シ事實ニ適合セス又ハ違法又ハ不當ト認メタルモノアルトキハ認可狀ノ交付アルマテ其ノ部分ニ關スル證憑書類ヲ留置クヘシ

第五條 第二條並第三條ノ規定ニ依ル出納計算ノ検査判決ノ事務並物品出納計算ノ判決ノ事務ハ大臣官房會計課長之ヲ執行スヘシ

附 則

左ノ訓令及通牒ハ之ヲ廢止ス

- 一 明治二十八年十月訓令本省直轄學校及圖書館歳入歳出外現金出納計算ノ検査及責任解除ノ事務執行方ノ件
- 一 明治四十一年四月訓令委任經理ニ屬スル金錢及物品出納計算ノ検査及責任解除ノ事務執行方ノ件







●會計規則第七十五條ニヨリ計算書取扱  
方ヲ直轄各部長及支部長ヘ委任ノ件

明治三十一年十一月四日  
文部省訓令第二十二號

會計規則第五十二條第四項(現行第七十五條)ニ依リ同條第二  
項第三項(現行第七十三條及第七十四條)ノ計算書ヲ取扱フコ  
トヲ委任ス

●會計規則第七十五條ニ依リ支出計算  
書ヲ會計檢査院ヘ直送方ノ件

明治四十年十二月  
文部省訓令第二十二號

道廳長官 府縣知事

當省所管經費ノ仕拂命令發行ヲ委任シタル場合ニ於テ會計規則  
第五十二條第三項(現行第七十四條)ノ支出計算書ハ直ニ會計  
檢査院ヘ送附スヘシ

●計算證明規程

大正十一年三月 昭和九年  
會計檢査院達第一號 一號改正

第一章 總 則

第一條 計算書ハ改描塗抹ヲ爲スヘカラス若誤記脱字等ニ因リ

訂正ヲ爲シタルトキハ二線ヲ畫シ之ニ捺印スヘシ

第二條 證憑書類ハ原本ニ限ル若原本ヲ提出シ難キトキハ當該  
主任者ノ保證アル謄本ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

外國文ヲ以テ記載シタル證憑書類ニハ譯文ヲ附スヘシ但シ會  
計檢査院ノ承認ヲ經タルモノハ之ヲ省略スルコトヲ得

第三條 外國貨幣ヲ基礎トシ又ハ外國貨幣ヲ以テ收支ヲ爲シタ  
ルモノハ換算ニ關スル書類ヲ添附スヘシ但シ別ニ定メアル外  
國貨幣換算價格ニ依リタルモノハ證憑書類ニ其ノ換算價格ヲ  
附記シ本文ノ書類ヲ省略スルコトヲ得

第四條 證憑書類中既ニ他ノ計算證明上提出濟ノモノアルトキ  
ハ其ノ旨計算書ノ備考ニ記載スヘシ

第二章 歲 入

第一節 通 則

第五條 歲入徵收官ハ第一號書式ニ依リ毎月歲入徵收額計算書  
ヲ調製シ證憑書類ヲ添ヘ翌月十五日限之ヲ提出スヘシ但シ會  
計檢査院ニ於テ特ニ指定シタルモノ若ハ其ノ承認ヲ經タルモ  
ノハ年一回又ハ數回ニ提出スルコトヲ得

第六條 左ノ事項ハ最終徵收額計算書ノ備考ニ記載スヘシ但シ  
事ノ複雑ナルモノハ説明書ヲ添附スヘシ

一 年度、科目其ノ他ノ更正ヲ爲スヘキモノアルトキハ其ノ  
金額事由  
二 測定誤謬其ノ他ノ爲拂戻ヲ爲スヘキモノアルトキハ其ノ

其ノ關係書類

六 前各項ノ外賦課徵收上ノ處理ニ關スル書類

第十條 證憑書類ハ會計檢査院ノ指定ニ從ヒ之ヲ提出スヘシ

第三節 租稅外歲入

第十一條 證憑書類トシテ提出スヘキモノ左ノ如シ

一 物件ノ賣拂、貸付、製造、修繕其ノ他收入ニ關スル決議  
書、契約書、賣渡請求書等徵收ノ基礎ヲ證明スヘキ一切ノ  
書類

二 延納ヲ許可シタルモノアルトキハ其ノ關係書類

三 滯納處分ヲ爲シタルモノアルトキハ其ノ關係書類

四 不納缺損ニ係ルモノアルトキハ其ノ事實ヲ證明スヘキ書  
類

會計規則第八十七條第五號ニ依リ契約書ノ作成ヲ省略シタル  
モノハ其ノ事由ヲ證憑書類ニ附記スヘシ

第十二條 物件ノ賣拂、貸付其ノ他ノ契約ニ付一般競争ニ付シ  
タルモノハ左ノ書類ヲ添附スヘシ

一 公告書案但シ公告ノ方法及公告期間ヲ短縮シタルモノハ  
其ノ事由ヲ附記スヘシ

二 豫定價格調書及其ノ算出ノ基礎ヲ示セル書類

三 一番札ヨリ五番札ニ至ル入札書

前項ノ規定ハ釋賣又ハ指名競争ニ依リタル契約ニ付之ヲ準用  
ス

金額事由

第七條 歲入徵收額計算書ニハ日本銀行月計突合表及別ニ指定  
スル明細書ヲ添附スヘシ

第八條 證憑書類ノ編纂ハ左ノ區分ニ依ル

一 內國稅ニ在リテハ各目ニ區分シ尙準據シタル條項ノ異ル  
毎ニ細分スヘシ

二 關稅、噸稅及稅關雜收入ニ在リテハ本關及各支署若ハ出  
張所毎ニ各目ニ區分スヘシ

三 其ノ他ノ歲入ニ在リテハ各目ニ區分シ事ノ複雑ナルモノ  
ハ尙適宜細分スヘシ

證憑書類ノ表紙ニハ其ノ紙數及金額ヲ記載スヘシ

第二節 租 稅

第九條 證憑書類トシテ提出スヘキモノ左ノ如シ

一 課稅基本ノ決定及其ノ取消變更ニ關スル決議書、申告書、  
檢査簿、査定簿等賦課徵收ノ基礎ヲ證明スヘキ一切ノ書類

二 課稅免除、徵收猶豫、延納許可ヲ爲シ若ハ之カ取消變更  
ヲ爲シタルモノアルトキハ其ノ關係書類

三 滯納處分、擔保物件及收容貨物ノ處分ヲ爲シタルモノアル  
ルトキハ之ニ關スル一切ノ書類

四 不納缺損ニ係ルモノアルトキハ其ノ事實ヲ證明スヘキ書  
類

五 賦課又ハ滯納處分ノ引繼引受ヲ爲シタルモノアルトキハ



**第十三條** 競争ニ付スルモ入札者ナク又ハ再度ノ入札ニ付スルモ落札者ナク若ハ落札者契約ヲ結ハサル場合ニ於テ更ニ競争ニ付シタルトキハ尙前回ノ競争ニ關スル書類若ハ其ノ概要ヲ記載シタル調書ヲ添付スヘシ

前項ノ場合ニ於テ隨意契約ヲ爲シタルトキハ其ノ事由ヲ證憑書ニ附記シ尙競争ニ關スル書類ヲ添付スヘシ

**第十四條** 豫定代價千圓ヲ超ユル財産ノ賣拂、豫定貸料年額又ハ總額五百圓ヲ超ユル物件ノ貸付及二千圓ヲ超ユル其ノ他ノ契約ニシテ一般競争ニ付セサルモノハ其ノ適用シタル法令ノ條項ヲ證憑書ニ附記シ尙會計規則第一百四條第一項第十九號乃至第二十一號ニ依リ隨意契約ヲ爲シタルモノハ其ノ必要トセル事由ヲ證憑書ニ附記スヘシ

**第十五條** 國有財産ノ賣拂及貸付ニシテ隨意契約ニ依リタルモノハ其ノ賣拂價格又ハ貸付料ノ評定調書ヲ提出スヘシ

**第十六條** 物件ノ賣拂、貸付其ノ他ノ契約ニシテ變更解除又ハ違約處分ヲ爲シタルモノアルトキハ其ノ關係書類ヲ提出スヘシ

**第十七條** 證憑書類ハ會計檢査院ノ承認ヲ經他ノ書類ヲ以テ代用シ又ハ之カ提出ヲ省略スルコトヲ得

第三章 歲 出

第一節 通 則

**第十八條** 支出官ハ第二號書式ニ依リ毎月支出計算書ヲ資金前

渡官吏ハ第三號書式ニ依リ毎月前渡資金出納計算書ヲ調製シ證憑書類ヲ添ヘ翌月十五日限之ヲ提出スヘシ但シ會計檢査院ノ承認ヲ經タルモノハ一年一回又ハ數回ニ提出スルコトヲ得

資金前渡官吏交替シタルトキハ連名ヲ以テ之カ證明ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ出納計算書ニ各自ノ管理期ヲ記載スヘシ

**第十九條** 資金前渡官吏ノ分任官ニシテ特ニ計算ヲ證明スルトキハ主任官ヲ經由スヘシ

**第二十條** 證憑書類ハ各自ニ區分編纂シテ其ノ金額紙數ヲ表紙ニ記載シ概算拂ニ係ルモノアルトキハ其ノ金額ヲ附記スヘシ但シ各目ニ區分シ難キモノハ其ノ關係書類ト共ニ各項ニ區分編纂シ各目仕譯書ヲ添付スヘシ

概算拂ニ對スル精算證書ハ別ニ之ヲ編纂シ各目ニ區分スヘシ資金前渡官吏ノ支拂ニ關シ領收證書ノ未到達ニ係ルモノアルトキハ其ノ金額ヲ證憑書ノ表紙ニ附記シ爾後到達ニ從ヒ支拂ノ月ヲ以テ區分スヘシ

資金前渡官吏ノ分任官ノ取扱ニ係ル證憑書ハ別ニ之ヲ編纂シ其ノ各目、金額、紙數及官氏名ヲ表紙ニ記載スヘシ

第二節 支 出

**第二十一條** 左ノ事項ハ支出計算書ノ備考ニ記載スヘシ但シ事ノ複雑ナルモノハ説明書ヲ添付スヘシ

一 年度、科目其ノ他ノ更正若ハ定額戻入ヲ爲スヘキモノアルニ至ラサルモノ、前金拂ニ係ル工事、製造又ハ物件ノ買入若ハ運送ニシテ完了ニ至ラサルモノ、年度、科目其ノ他ノ誤謬ニシテ處分未済ニ係ルモノアルトキハ其ノ事由及完結スヘキ期限ヲ記載シタル調書ヲ添付スヘシ

最終支出計算書提出ノ後年度科目其ノ他ノ誤謬ヲ發見シタルトキハ其ノ都度之ヲ報告スヘシ

**第二十四條** 證憑書トシテ提出スヘキモノハ領收證書、請求書、契約書等支出ノ所由並計算ノ基ヲ所ヲ證明スヘキ書類トス但シ事ノ簡明ナルモノニ付テハ會計檢査院ノ承認ヲ經テ仕譯書、簿冊又ハ證明書ヲ以テ代用スルコトヲ得

隔地者ニ支拂ノ爲日本銀行ニ資金ヲ交付シタル場合ニ在リテハ日本銀行ノ領收證書ヲ提出スヘシ

領收證書ヲ得難キ場合ニ在リテハ其ノ事由ヲ記載シタル證明書ヲ提出スヘシ

領收證書ニハ小切手ノ番號ヲ附記スヘシ

**第二十五條** 俸給其ノ他一定ノ給與ニシテ給額ニ異動ヲ生シタルモノアルトキハ其ノ事由及年月日ヲ證憑書ニ附記スヘシ

年金又ハ恩給ノ領收證書ニハ年額及受領者ノ資格ヲ示シ遺族ノ受領ニ係ルモノハ其ノ權利ノ起因ヲ附記スヘシ

ルトキハ其ノ金額事由

二 誤拂、過渡其ノ他ノ返納ニ依リ歲入ニ編入スヘキモノアルトキハ其ノ金額事由

**第二十二條** 受拂勘定ヲ爲スヘキ特別會計ニ屬スル最終支出計算書ニハ左ニ掲グル書類ヲ添付スヘシ其ノ他ノ特別會計ニ在リテハ別ニ之ヲ指定ス

一 受拂勘定表並物品會計官吏毎ニ區分シタル物品價格受拂仕譯書

二 年度末日計算表

三 固定資本價格増減表並其ノ評價書類

四 物品ノ價格ヲ評定シ又ハ改定シタルモノアルトキハ每件其ノ事由及計算ノ基礎ヲ示セル調書

五 支出未済ニシテ翌年度ニ繰越シタルモノアルトキハ每件其ノ金額事由調書

六 代價收入済ニシテ物品未渡ニ係ルモノ又ハ代價支出済ニシテ物品未收ニ係ルモノアルトキハ每件其ノ金額事由調書

七 既往年度代價收入済ニ係ル物品ノ拂出ヲ爲シタルモノ又ハ既往年度代價支出済ニ係ル物品ノ受入ヲ爲シタルモノアルトキハ每件其ノ數量金額調書

八 賣渡代價確定未済ニシテ物品ノ拂出ヲ爲シタルモノアルトキハ每件其ノ數量金額事由調書

**第二十三條** 最終支出計算書提出ノ際概算拂、資金前渡ノ精算



**第二十六條** 旅費ノ領收證書若ハ精算證書ニハ其ノ用務及旅行ノ年月日、日數、路程、汽車汽船賃、宿泊地等ヲ記載シタル仕譯書ヲ添附スヘシ但シ領收證書又ハ精算證書ニ附記シテ仕譯書ヲ省略スル事ヲ得

旅行中迂路ヲ經過セシモノ病氣滞在其ノ他ノ事故ニ因リ特ニ日數ヲ要シタルモノ又ハ實費拂フ爲シタルモノアルトキハ其ノ事由ヲ記載スヘシ

**第二十七條** 渡切經費ニ付テハ最初支出證明ノ際其ノ領收證書ニ支給額決定ノ基礎ヲ明ニシタル仕譯書ヲ添附スヘシ爾後支給額ヲ増減シタルトキ亦同シ

會計檢査院ノ承認ヲ經タルモノハ前項ノ仕譯書ヲ省略スルコトヲ得

**第二十八條** 工事、製造及物件ノ買入、借入其他ノ契約ニ付一般競争ニ付シタルモノハ左ノ書類ヲ添附スヘシ

- 一 契約ニ關スル決議書類
- 二 公告書案但シ公告ノ方法及公告期間ヲ短縮シタルモノハ其ノ事由ヲ附記スヘシ
- 三 豫定價格調書及其ノ算出ノ基礎ヲ示セル書類
- 四 一番札ヨリ五番札ニ至ル入札書

前項ノ規定ハ指名競争ニ付シタル契約ニ付之ヲ準用ス

**第二十九條** 競争ニ付スルモノ入札者ナク又ハ再度ノ入札ニ付スルモノ落札者ナク若ハ落札者契約ヲ結ハサル場合ニ於テ更ニ競争ニ付シタルトキハ尙前同ノ競争ニ關スル書類若ハ其ノ概要ヲ記載シタル調書ヲ添附スヘシ

略スルコトヲ得

工事製造ノ既濟部分又ハ物品ノ既納部分ニ對シ完済前又ハ完納前ニ代價ノ一部分ヲ支拂ヒタルモノハ其ノ領收證書ニ會計規則第九十二條第二項ニ依リ檢査官吏又ハ技術者ノ作りタル調書ヲ添附スヘシ

前項ノ部分拂ニシテ第二回以降ノ支拂ニ係ルモノナルトキハ前支拂ノ年月ヲ附記スヘシ

前各項ノ規定ハ工事又ハ製造以外ノ請負契約ノ全部又ハ一部ノ履行ニ對シ支拂ヲ爲シタル場合ニ之ヲ準用ス

**第三十四條** 總價額五千圓ヲ超ユル直營工事ニ付テハ最初支出證明ノ際起工ニ關スル決議書類、設計書、仕譯書、圖面及其ノ附屬書類ヲ提出シ設計ヲ變更シタルトキハ其ノ書類ヲ提出スヘシ

直營工事竣功シタルトキハ竣功報告書ヲ調製シ竣功後一箇月以内ニ提出スヘシ但シ二箇年度以上ニ亙ル工事ニアリテハ當該年度内ニ於ケル既濟ノ部分ニ付竣功報告書ヲ調製シ最終支出計算書ニ添附スヘシ

竣功報告書ヲ提出スヘキ工事及其ノ報告書ノ様式ハ別ニ之ヲ指定ス

**第三十五條** 直營ニ係ル製造其他ノ作業ニ關シテハ會計檢査院ノ指定ニ從ヒ事業成績書ヲ調製シ最終支出計算書ニ添附スヘシ

争ニ付シタルトキハ尙前同ノ競争ニ關スル書類若ハ其ノ概要ヲ記載シタル調書ヲ添附スヘシ

前項ノ場合ニ於テ隨意契約ヲ爲シタルトキハ其ノ事由ヲ證書ニ附記シ尙競争ニ關スル書類ヲ添附スヘシ

**第三十條** 五千圓ヲ超ユル工事、製造又ハ三千圓ヲ超ユル財産ノ買入若ハ賃借料年額又ハ總額千五百圓ヲ超ユル物件ノ借入及二千圓ヲ超ユル其ノ他ノ契約ニシテ一般競争ニ付セサルモノハ決議書類ヲ添附シ其ノ適用シタル法令ノ條項ヲ證書ニ附記シ尙會計規則第一百四條第一項第十九號及第二十二號ニ依リ隨意契約ヲ爲シタルモノハ其ノ必要トセル事由ヲ證書ニ附記スヘシ

**第三十一條** 豫定年額又ハ總額貳千圓ヲ超ユル物件ノ買入、運送及勞力供給ノ請負等ニ關シ單價契約ヲ爲シタルモノアルトキハ其ノ契約書類ヲ最初支出證明ノ際ニ提出シ爾後支出ヲ爲シタルトキハ領收證書ニ契約書類提出ノ年月ヲ附記スヘシ

**第三十二條** 二千圓ヲ超ユル工事、製造及物件ノ買入、借入其他ノ契約ニシテ變更解除又ハ違約處分ヲ爲シタルモノアルトキハ其ノ關係書類ヲ提出スヘシ

**第三十三條** 三千圓ヲ超ユル工事、製造又ハ物件ノ買入ニ關スル領收證書ニハ會計規則第九十二條第一項ニ依リ監督又ハ檢査シタル官吏若ハ技術者ノ作りタル調書ヲ添附スヘシ但シ物品ニ付テハ證書ニ檢査院ノ年月日ヲ附記シ調書ヲ添附スヘシ

**第三十六條** 請負ニ付シタル工事、製造等ニ付材料ヲ官給シ又ハ代價ヲ支拂ハスシテ物件勞力ヲ使用シタルトキハ其ノ種類、員數及價格ヲ記載シタル仕譯書ヲ證書ニ添附スヘシ但シ證書ニ附記シテ仕譯書ヲ省略スルコトヲ得

**第三十七條** 一工事ニシテ數廉ニ分チ起工スルモノニ在リテハ最初支出證明ノ際大體ニ關スル計畫書若ハ目論見書ヲ提出スヘシ

**第三十八條** 國有財産ヲ取得シタルトキハ之ニ對スル支出ノ證書ニ國有財産臺帳登錄ノ年月日、物品ヲ取得シタルトキ又ハ運送ヲ爲サシメタルトキハ之ニ對スル支出ノ證書ニ物品出納簿登記簿又ハ運送簿ノ年月日ヲ記載シ其ノ物品出納簿ニ登記シ雜キモノハ受領簿ノ年月日ヲ記載スヘシ但シ前金拂又ハ概算拂ニ係ルモノハ其ノ完結スヘキ期限ヲ附記スヘシ

**第三十九條** 諸拂戻金、缺損補填金、償還金ノ類ハ其ノ證書ニ支出ヲ要スル事由及事實ノ生シタル年月日ヲ記載スルノ外之カ支出ノ決定ヲ爲シタル年月日ヲ附記スヘシ

**第四十條** 左ノ事項ハ前渡資金出納計算書ノ備考ニ記載スヘシ但シ事ノ複雑ナルモノハ説明書ヲ添附スヘシ

- 一 年度、科目其ノ他ノ更正ヲ爲スヘキモノアルトキハ其ノ金額事由
- 二 誤拂、過渡其ノ他ノ返納ニ付處分ヲ爲スヘキモノアルト



キハ其ノ金額事由

三 現金ヲ亡失シ又ハ缺損補填ヲ受ケタルモノアルトキハ其ノ金額事由

四 會計規則第三百三十四條ニ依リ辨償ヲ命セラレタルモノアルトキハ其ノ金額事由

五 他ノ出納官吏ト現金ノ受授ヲ爲シタルモノアルトキハ其ノ氏名及金額

第四十一條 最終前渡資金出納計算書提出ノ際概算拂ノ精算ニ至ラサルモノ、前金拂ニ係ル工事、製造又ハ物件ノ買入若ハ運送ニシテ完了ニ至ラサルモノ、領收證書ノ到達セサルモノ、年度科目其ノ他ノ誤謬ニシテ處分未済ニ係ルモノ、支拂殘額ノ返納ヲ了セサルモノアルトキハ其ノ事由及完結スヘキ期限ヲ記載シタル調書ヲ添附スヘシ

最終前渡資金出納計算書提出ノ際振出小切手ニ對シ日本銀行ニ於テ支拂未済ノモノアルトキハ振出日附、番號、科目、金額及債主名ヲ記載シタル調書ヲ添附スヘシ  
最終前渡資金出納計算書提出ノ後年度、科目其ノ他ノ誤謬ヲ發見シタルトキハ其ノ都度之ヲ報告スヘシ  
前各項ノ事項ハ完結ニ從ヒ其ノ證憑書類ヲ添ヘ之ヲ報告スヘシ

第四十二條 前渡資金出納計算書ニハ會計規則第三百三十八條ニ依ル檢定書ヲ添附スヘシ

證憑書類ハ會計檢査院ノ承認ヲ經他ノ書類ヲ以テ代用シ又ハ之カ提出ヲ省略スルコトヲ得

第五章 國債

第四十七條 國債事務ヲ管掌スル官吏ハ第六號書式ニ依リ毎月國債増減計算書ヲ調製シ證憑書類ヲ添ヘ翌月末日限之ヲ提出スヘシ

第四十八條 證憑書トシテ提出スヘキ書類左ノ如シ

- 一 證券ヲ發行シタルモノニ在リテハ監督官吏ノ調製シタル證券發行濟確證書但シ交付公債ニ在リテハ證券ノ領收證書
- 二 借入金ヲ爲シタルモノニ在リテハ其ノ決議書及契約書類
- 三 甲種國債登錄簿ニ登錄シタルモノニ在リテハ監督官吏ノ調製シタル登錄濟確證書
- 四 鐵道ノ買收其ノ他代價ノ爲公債ヲ發行シタルモノニ在リテハ其ノ決議書類及發行額算定ノ基礎ヲ認ムヘキ一切ノ書類

證憑書類ハ會計檢査院ノ承認ヲ經他ノ書類ヲ以テ代用シ又ハ之カ提出ヲ省略スルコトヲ得

第四十九條 證憑書類ハ國債ノ種類毎ニ區分シテ之ヲ編纂シ表紙ニ其ノ金額紙數ヲ記載スヘシ證憑書未到達ノモノアルトキハ其ノ旨ヲ表紙ニ記載シ爾後到達ニ從ヒ別ニ區分編纂シテ之ヲ提出スヘシ

第四十三條 證憑書トシテ提出スヘキモノニ付テハ第二節ノ規定ヲ準用ス

第四章 國庫金運用

第四十四條 國庫金ノ運用ヲ管掌スル官吏ハ第四號書式又ハ第五號書式ニ依リ毎月運用計算書ヲ調製シ證憑書類ヲ添ヘ翌月末日限之ヲ提出スヘシ但シ會計檢査院ノ承認ヲ經タルモノハ年一回又ハ數回ニ提出スルコトヲ得

毎年度最終計算書ニハ別ニ指定スル明細書ヲ添附スヘシ

第四十五條 國庫金運用ノ計畫ヲ決定シタルトキハ當月分ノ計算書ニ之カ決議書類ヲ添附スヘシ其ノ計畫ヲ變更シタルトキ亦同シ

第四十六條 證憑書トシテ提出スヘキ書類左ノ如シ

- 一 證券類ノ應募、引受又ハ買入等ヲ爲シタルトキハ其ノ決議書類
- 二 大藏省證券類ヲ發行シ又ハ一時借入ヲ爲シタルトキハ其ノ必要ノ事由ヲ記載シタル決議書類
- 三 貸付又ハ用途指定ノ預入ヲ爲シタルトキハ其ノ決議書及契約書類
- 四 證券類ヲ賣却シ又ハ其ノ他ノ事由ニ依リ之ヲ拂出シ若ハ地金類ヲ賣買シタルトキハ其ノ關係書類
- 五 貨幣類ノ價格差増減其ノ他ノ損益ニ對シテハ算出ノ基礎ヲ認ムヘキ書類

第六章 現金出納

第一節 通則

第五十條 收入官吏ハ第七號書式、歳入歳出外現金出納官吏ハ第八號書式、繰替拂出納官吏ハ第九號書式ニ依リ現金出納計算書ヲ調製シ證憑書類ヲ添ヘ左ノ期限ニ從ヒ之ヲ提出スヘシ  
一 月證明ニ屬スルモノハ翌月十五日限  
二 年證明ニ屬スルモノハ年度經過後若ハ出納官吏及出納員交替後三十日限

出納官吏交替シタルトキハ連名ヲ以テ之カ證明ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ出納計算書ニ各自ノ管理期ヲ記載スヘシ  
分任出納官吏及出納員ニシテ特ニ計算ヲ證明スルトキハ主任出納官吏ヲ經由スヘシ

第五十一條 現金出納計算書ニハ會計規則第三百三十八條ニ依リ檢定書ヲ添附スヘシ

第五十二條 證憑書類ハ所屬年度毎ニ受入拂出ニ大別シ適宜區分編纂シテ其ノ金額紙數ヲ表紙ニ記載スヘシ

第二節 收入金

第五十三條 收入官吏ノ調製スヘキ收入金現金出納計算書ハ毎年度之ヲ提出スヘシ

第五十四條 左ノ事項ハ收入金現金出納計算書ノ備考ニ記載スヘシ但シ事ノ複雑ナルモノハ説明書ヲ添附スヘシ  
一 現金ヲ亡失シ又ハ缺損補填ヲ受ケタルモノアルトキハ其



ノ金額事由

二 會計規則第三百二十四條ニ依リ辨償ヲ命セラレタルモノアルトキハ其ノ金額事由

三 拂込未済ノモノ又ハ後任官吏ニ引繼キタルモノアルトキハ其ノ金額事由

第五十五條 證憑書トシテ提出スヘキモノハ日本銀行又ハ他ノ出納官吏ノ領收證書トス

第三節 歳入歳出外現金  
第五十六條 歳入歳出外現金出納官吏ノ調製スヘキ歳入歳出外現金出納計算書ハ毎年度之ヲ提出スヘシ但シ會計檢査院ニ於テ特ニ指定シタルモノハ毎月又ハ年數回ニ之ヲ提出スヘシ

第五十七條 左ノ事項ハ歳入歳出外現金出納計算書ノ備考ニ記載スヘシ但シ事ノ複雑ナルモノハ説明書ヲ添付スヘシ

一 現金ヲ亡失シ又ハ現金ノ缺損ニ對シ補充ヲ受ケタルモノアルトキハ其ノ金額事由

二 會計規則第三百三十四條ニ依リ辨償ヲ命セラレタルモノアルトキハ其ノ金額事由

三 後任官吏ニ引繼キタルモノアルトキハ其ノ金額事由

第五十八條 振出小切手ニ對シ日本銀行ニ於テ支拂未済ノモノアルトキハ其ノ振出日附、番號、種別、金額、債主名ヲ歳入歳出外現金出納計算書ノ備考ニ記載シ完結ニ從ヒ之ヲ報告スヘシ

前項ノ事項ハ完結ニ從ヒ之ヲ報告スヘシ

第六十三條 證憑書トシテ提出スヘキ書類左ノ如シ

一 受入ニ對シテハ其ノ金額事由ヲ證明スルニ足ルヘキ他ノ官吏ノ保證書若ハ其ノ他ノ書類

二 拂出ニ對シテハ領收證書若ハ他ノ官吏ノ保證書

第七節 物品出納  
第六十四條 物品會計官吏ハ第十號書式ニ依リ毎年度又ハ會計官吏交替ノ際物品出納計算書ヲ調製シ證憑書類ヲ添へ年度經過後又ハ會計官吏交替後二箇月限之ヲ提出スヘシ

物品會計官吏交替シタルトキハ連名ヲ以テ之カ證明ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ出納計算書ニ各自ノ管理期ヲ記載スヘシ

主任物品會計官吏ノ計算書ニ分任物品會計官吏ヨリ提出シタル報告書ヲ添付スルトキハ其ノ出納計算ノ併算ヲ省クコトヲ得但シ該報告書ハ計算書ノ書式ヲ準用スヘシ

分任物品會計官吏ニシテ特ニ計算ヲ證明スルトキハ主任物品會計官吏ヲ經由スヘシ

第六十五條 物品出納計算書ハ物品ノ種類若ハ所用ノ目的ニ依リ類別シテ毎品之ヲ列記スヘシ

國有財産ニ編入セラレタル動産ニシテ國有財産増減計算書ニ品名、數量ヲ掲記シタルモノニ在リテハ物品出納計算書各類別ノ備考ニ其ノ價額ヲ記載シ毎品ノ記載ヲ省略スルコトヲ

得

第五十九條 證憑書トシテ提出スヘキ書類左ノ如シ

一 受入ニ對シテハ其ノ金額事由ヲ證明スルニ足ルヘキ他ノ官吏ノ保證書若ハ其ノ他ノ書類

二 拂出ニ對シテハ領收證書若ハ他ノ官吏ノ保證書

第五十六條但書ニ依リ毎月又ハ年數回ニ證明スヘキモノノ證憑書類ハ別ニ之ヲ指定ス

第四節 繰替拂現金  
第六十條 繰替拂出納官吏ノ調製スヘキ繰替拂現金出納計算書ハ鐵道官署ニ在リテハ毎月、遞信官署ニ在リテハ毎年度之ヲ提出スヘシ

第六十一條 左ノ事項ハ繰替拂現金出納計算書ノ備考ニ記載スヘシ但シ事ノ複雑ナルモノハ説明書ヲ添付スヘシ

一 現金ヲ亡失シ又ハ缺損補填ヲ受ケタルモノアルトキハ其ノ金額事由

二 會計規則第三百三十四條ニ依リ辨償ヲ命セラレタルモノアルトキハ其ノ金額事由

三 後任官吏ニ引繼キタルモノアルトキハ其ノ金額事由

第六十二條 振出小切手ニ對シ日本銀行ニ於テ支拂未済ノモノアルトキハ其ノ振出日附、番號、種別、金額、債主名ヲ繰替拂現金出納計算書ノ備考ニ記載スヘシ但シ鐵道官署ニ在リテハ毎年度最終ノ繰替拂現金出納計算書ニ限り之ヲ記載スヘシ

第六十六條 左ノ事項ハ物品出納計算書ノ備考ニ記載スヘシ但シ事ノ複雑ナルモノハ説明書ヲ添付スヘシ

一 前年度ヨリノ越高ニシテ前年度末現在高ニ比シ異動アルモノハ其ノ事由

二 物品會計官吏物品ノ亡失毀損ニ對シ辨償ヲ命セラレタルモノアルトキハ其ノ金額事由

第六十七條 證憑書トシテ提出スヘキ書類左ノ如シ

一 物品ノ出納ニ關スル命令書及領收證書但シ特ニ指定スルモノヲ除ク外他ノ官吏ノ保證書ヲ以テ代用スルコトヲ得

二 亡失毀損ノ物品ニ對シテハ他ノ官吏ノ認定セル品目、數量、價格及其ノ亡失毀損ノ事實ヲ記載シタル證明書、辨償ニ係ルモノハ其ノ仕譯書

三 贈與拂等ノ物品ニ對シテハ其ノ價格事由ヲ記載シタル證明書又ハ決議書

四 作業、鐵道、海軍工廠資金及鐵道用品資金所屬其ノ他ノ事業用物品ニシテ不用物品ニ組換ヘタルモノアルトキハ每件其ノ事由及原價又ハ見積價格ヲ記載シタル仕譯書若ハ決議書

五 現在高ニ對シテハ監督ノ任アル官吏ノ保證書

造幣局地金類ニ對シテハ前項ノ外左ノ書類ヲ提出スヘシ

一 受入地金ニ對シテハ地金預リ證書原符、地金勘定書其ノ



他受入ノ事實ヲ證明スヘキ書類

二 地金拂ニ對シテハ地金領收證書其ノ他拂渡ノ事實ヲ證明スヘキ書類

三 貨幣拂ニ對シテハ日本銀行ノ貨幣拂渡報告書又ハ貨幣領收證書

四 差増減ニ對シテハ當該上官ノ認定アル主任官吏ノ證明書

五 各種地金ノ殘高ニ對シテハ年度末地金貸借計算表

收入印紙及郵便切手類ニ對シテハ第一項ノ外左ノ書類ヲ提出スヘシ

一 交換渡ニ對シテハ其ノ事由並種類、員數ヲ記載シタル決議書又ハ當該上官ノ認定書

二 廢棄賣藥ニ係ル拂渡ニ對シテハ賣藥營業者ノ請求書及領收證書

三 燒却拂ニ對シテハ其ノ事由並種類、員數ヲ記載シタル當該上官ノ認定書及立會官吏ノ證明書

四 保管轉換及返納等ノ爲他ノ會計官吏トノ間ニ受拂ヲ爲シタルモノニ對シテハ其ノ科目及種類毎ニ官署名、數量ヲ記載シタル明細書

第六十八條 證憑書類ハ受拂ニ大別シ物品出納計算書ニ掲クル區別ニ從ヒ品目毎ニ區分編纂シ其ノ表紙ニ數量並價格ノ合計及證憑書ノ枚數ヲ記載スヘシ但シ一品目ノ證憑書僅少ナルモノハ計算書ニ掲クル品目ノ順次ニ從ヒ合綴スルモ妨ケナシ

一ノ證憑書中數種ノ品目ヲ混記セルモノアルトキハ別冊ニ編纂シ其ノ表紙ニ品目ノ數量價格合計ヲ記載スヘシ

第八章 國有財產

第六十九條 各省大臣又ハ國有財產ニ關スル事務ヲ分掌スル部長ハ第十一號書式ニ依リ毎三箇月間ニ於ケル國有財產増減計算書ヲ調製シ證憑書類ヲ添ヘ翌月末日限之ヲ提出スヘシ但シ會計檢査院ノ承認ヲ經タルモノハ一年一回又ハ二回ニ提出スルコトヲ得

第七十條 國有財產増減計算書ハ財產ノ種類ニ應シ其ノ用途又ハ目的ニ依リ類別シ種目毎ニ列記スヘシ

第七十一條 毎年度最終ノ國有財產増減計算書ニハ別ニ指定スル明細書ヲ添附スヘシ

第七十二條 證憑書トシテ提出スヘキ書類左ノ如シ

一 國有財產ノ種類ヲ變更シタルモノアルトキハ其ノ事由ヲ明ニシタル關係書類

二 國有財產ノ減失シタルモノアルトキハ其ノ事由ヲ明ニシタル調書

三 無償ヲ以テ國有財產ヲ得喪シタルモノアルトキハ其ノ決議書、契約書其ノ他ノ關係書類

四 公債ノ發行ニ依リ國有財產ヲ取得シタルモノアルトキハ其ノ決議書及價格算定ノ基礎ヲ認ムヘキ一切ノ書類

五 交換ヲ爲シタルモノアルトキハ其ノ決議書、契約書、價格算定ノ基礎ヲ認ムヘキ一切ノ書類

格評定ニ關スル調書其ノ他ノ關係書類但シ價格評定調書ニハ相互ノ地位及隣接地ノ狀況ヲ明ニシタル圖面ヲ添附スヘシ

六 出資ノ目的ト爲シタルモノアルトキハ其ノ決議書類及出資額算定ノ基礎ヲ認ムヘキ一切ノ書類

七 無償ヲ以テ貸付、準貸付、保管、委託又ハ部分林ト爲ス等ノ契約ヲ締結シタルモノアルトキハ其ノ用途ヲ明ニシタル決議書類但シ缺議書類ニハ其ノ適用シタル法令ノ條項ヲ附記スヘシ

八 賣拂、讓與又ハ貸付ノ豫約ヲ爲シタルモノアルトキハ其ノ決議書、契約書其ノ他ノ關係書類

九 前各號中ノ契約ニシテ變更解除ヲ爲シタルモノアルトキハ其ノ關係書類

第七十三條 前條ノ證憑書類ハ會計檢査院ノ承認ヲ經他ノ書類ヲ以テ代用シ又ハ之カ提出ヲ省略スルコトヲ得

第九章 日本銀行

第七十四條 日本銀行ハ第十三號書式ニ依リ毎月國庫金出納及政府有價證券受拂計算書ヲ調製シ證憑書類ヲ添ヘ翌月末日限之ヲ提出スヘシ

前項ノ計算書ニハ別ニ指定スル内譯書ヲ添附スヘシ

第七十五條 政府ノ爲ニ取扱フ現金又ハ有價證券ノ出納保管ニ關シ損害ヲ生シタルモノアルトキハ其ノ事實ヲ記載シタル報

告書ヲ提出スヘシ

前項ノ場合ニ於テ損害ニ對シ賠償又ハ其ノ他ノ處理ヲ爲シタルモノアルトキハ其ノ顛末ヲ報告スヘシ

第七十六條 毎月國庫金出納及政府有價證券受拂計算書ニハ左ニ掲クル明細書ヲ添附スヘシ

一 國債ノ發行ニ依ル收入金受拂明細書 第十四號書式

二 國債應募拂込金延滞ニ因ル失效高明細書 第十五號書式

三 國債元利拂資金受拂明細書 第十六號書式

前項第一號ノ明細書ニハ外國貨幣ヲ以テ領收シタルモノアルトキハ其ノ種類員額ヲ備考ニ記載スヘシ

第七十七條 毎年度五月分國庫金出納及政府有價證券受拂計算書ニハ第十七號書式ニ依リ調製シタル前年度所屬歲入金歳出金出納明細書ヲ添附スヘシ

前項ノ明細書提出ノ後年度、科目其ノ他ノ誤謬ヲ發見シタルトキハ其ノ都度金額事由ヲ記載シタル報告書ヲ提出スヘシ

第七十八條 證憑書トシテ提出スヘキ書類左ノ如シ

一、歳入金、歳出金、預託金ノ受拂及歳出支拂未濟繰越金ノ



- 支拂ニ對シテハ當該官吏ノ證明ヲ受ケタル月計突合表
  - 二 預金部資金ノ受拂ニ對シテハ當該官吏又ハ大藏大臣ノ指定シタル官吏ノ證明ヲ受ケタル月計突合表及受拂計算表
  - 三 隔地拂資金振替金ノ受拂ニ對シテハ債主ノ領收證書及統轄店又ハ取纏郵便局ノ證明ヲ受ケタル突合表但シ領收證書ハ會計檢査院ノ指定ニ從ヒ提出スヘシ
  - 四 國債ノ發行ニ依ル收入金ノ出納ニ對シテハ大藏大臣命令ノ謄本、應募申込書及應募保證金還付ノ領收證書但シ應募申込書及應募保證金還付ノ領收證書ハ會計檢査院ノ指定ニ從ヒ提出スヘシ
  - 五 國債ノ應募額募集額ニ超過シタルモノアルトキハ其ノ割當方法決定ニ關スル書類
  - 六 國債元利金ノ支拂ニ對シテハ大藏大臣令達ノ謄本、監督官廳ノ保證アル支拂濟證券調書、支拂濟利賦札調書又ハ領收證書
  - 七 大藏大臣ノ令達ニ依リ受拂ヲ爲シタルモノニ對シテハ其ノ令達ノ謄本
  - 八 前各號以外ノ國庫金ノ受拂ニ對シテハ命令書、通知書、領收證書其ノ他ノ關係書類
  - 九 有價證券ノ受拂ニ對シテハ當該官吏又ハ大藏大臣ノ指定シタル官吏ノ證明ヲ受ケタル月計突合表及受拂計算表
- 證憑書類ハ會計檢査院ノ承認ヲ經他ノ書類ヲ以テ代用シ又ハ

之カ提出ヲ省略スルコトヲ得

第七十九條 證憑書類ハ分類編纂シ其ノ金額紙數ヲ表紙ニ記載スヘシ

第十章 團體諸營造其ノ他ノ決算

第八十條 政府ヨリ補助金又ハ特約保證ヲ受クル團體及諸營造並法律勅令ニ依リ特ニ會計檢査院ノ檢査ニ屬セラレタルモノハ第十八號書式ニ依リ毎年度收支計算書ヲ調製シ證憑書類ヲ添ヘ公共團體ニ在リテハ出納閉鎖期經過後一箇月其ノ他ニ在リテハ決算期經過後三箇月限之ヲ提出スヘシ但シ會社ニ在リテハ會計檢査院ノ承認ヲ經商法第九十條ニ依ル書類ヲ以テ計算書ニ代用スルコトヲ得

第八十一條 收支計算書ニハ左ノ書類ヲ添附スヘシ但シ會計檢査院ノ指定シタルモノハ別ニ之ヲ提出スヘシ

- 一 補助金又ハ特約保證ニ關スル申請書、命令書及計畫書
- 二 命令書ノ定ムル所ニ依リ特ニ政府ノ許可又ハ認可ヲ經若ハ更正ヲ命セラレタルモノアルトキハ其ノ書類
- 三 收支豫算書
- 四 公共團體ニ在リテハ決算報告書會社ニ在リテハ商法第九十條ニ依ル書類其ノ他ニ在リテハ決算明細書及財産目錄左ノ補助又ハ特約保證ニ對シテハ前項ノ外各書類ヲ添附スヘシ
- 一 災害土木費補助ニ在リテハ一位單價表及工事箇所別明細書

- 二 關東州地方費ニ在リテハ水道電氣其ノ他之ニ類スル事業ノ損益仕譯書
  - 三 航路補助ニ在リテハ各航路別收支明細書
  - 四 南滿洲鐵道株式會社ニ在リテハ諸勘定内譯書
  - 五 鐵道補助ニアリテハ收支計算書附屬仕譯書
- 第八十二條 證憑書トシテ提出スヘキ書類左ノ如シ
- 一 契約書、決議書其ノ他收支ノ事實ヲ證明スヘキ書類但シ會計檢査院ノ指定ニ從ヒ之ヲ提出スヘシ
  - 二 工事ノ補助ニ在リテハ前號ノ外設計書、圖面、直營工事は係ル竣功報告書、竣功認定及殘餘金處分ニ關スル書類但シ竣功報告書ニ付テハ第三十四條ノ規定ヲ準用ス

附 則

本規程ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ大正十一年三月以前ノ月證明並大正十年度以前ノ年證明ニ係ルモノハ従前ノ規程ニ依ル



書式

- 第一號 歳入徴収額計算書
  - 第二號 支出計算書
  - 第三號 前渡資金出納計算書
  - 第四號 國庫金運用計算書
  - 第五號 簡易生命保險積立金運用計算書
  - 第六號 國債増減計算書
  - 第七號 收入金現金出納計算書
  - 第八號 歳入歳出外現金出納計算書
  - 第九號 甲) 繰替拂現金出納計算書(鐵道官署)  
乙) 繰替拂現金出納計算書(逓信官署)
  - 第十號 物品出納計算書
  - 第十一號 國有財産増減計算書 (削除)
  - 第十二號 (削除)
  - 第十三號 國庫金出納及政府有價證券受拂計算書
  - 第十四號 國債ノ發行ニ依ル收入金受拂明細書
  - 第十五號 國債應募拂込金延滞ニ依ル失効高明細書
  - 第十六號 國債元利拂資金受拂明細書
  - 第十七號 歳入金歳出金出納明細書
  - 第十八號 收支計算書
- 凡例
- 一 計算書及明細書ハ一般會計各特別會計毎ニ別冊ニ調製シ特別會計ニ在リテハ其ノ會計名ヲ表紙ニ記載スヘシ
  - 二 計算書ヲ受授スルモノハ其ノ年月日ヲ表紙ニ記載スヘシ
  - 三 用紙ハ成ルヘク堅牢ナルモノヲ用フヘシ
  - 四 書式中△印ハ朱書トス

第一號 一

收入(出納)官吏現金領收額、收入済額ト日本銀行領收済額トノ對照及收入未済額内譯ノ欄ハ最終徴収額計算書ニ之ヲ附スヘシ

大正何年度

何年何月何分(自何年月) 至何年月

歳入徴収額計算書

證憑書 何冊

何 何

廳 名

職 官 氏 名 印

年 月 日 提 出







収入未済額内訳

摘要	金額	備考
經常部 (款)	0	○前年度ヨリ繰越収入未済額ニシテ本年度中尙收入ニ至ラサルモノアルトキハ各之ヲ別項ト爲シ毎年度ニ區分 掲記スヘシ
何何 (項)	0	
何何 (目)	0	
氏名 何何	0	
氏名 外何名	0	
計	0	
何何 (目)	0	
氏名 外何名	0	
合計	0	
何何 (款)	0	
何何 (項)	0	
何何 (目)	0	
氏名 外何名	0	
經常部計	0	
臨時部 (經常部ノ例ニ倣フ)	0	
總計	0	

収入済額ト日本銀行領收済額トノ對照

摘要	金額	備考
収入済額	0	
何年度歳入ヲ本年度歳入トシテ 日本銀行へ誤拂込額	0	何年月日据置認可ノ分
何特別會計歳入 同上	0	"
何何	0	"
計	0	
本年度歳入ヲ何年度歳入トシテ 日本銀行へ誤拂込額	0	"
本年度歳入ヲ何特別會計歳入ト シテ 同上	0	"
出納閉鎖期迄ニ日本銀行へ拂込 未済額	0	内何圓ハ某扱ノ分何々ノ事由ニ 因リ何圓ハ某扱ノ分何々ノ事由 ニ因ル
何何	0	
計	0	
日本銀行領收済通知總額	0	
内訳		
日本銀行本店	0	
" 何地支店	0	
" 何地統轄代理店	0	
計	0	



總 括		支拂豫算現額(豫算現額)	支 出 額	残 額	備 考
經 常 部					○本欄ハ最終計算書ニ附スヘシ
何 何 (款)					
何 何 (項)					
何 何 (目)			0		
何 何 (目)			0		
計		0	0	0	
何 何 (項)					
何 何 (目)			0		
何 何 (目)			0		
計		0	0	0	
合 計		0	0	0	
何 何 (款)					
何 何 (項)					
何 何 (目)			0		
何 何 (目)			0		
計		0	0	0	
經常部計		0	0	0	
臨時部					
(經常部ノ例ニ倣フ)					
總 計		0	0	0	

第二號

一 他省所管ニ屬スルモノニ在リテハ年月ノ下ニ何省所管タルコトヲ記載スヘシ

大 正 何 年 度  
 何 年 何 月 (自何年月 至何年月)  
 支 出 計 算 書

證 憑 書 何 冊  
 何 何 々

廳 名  
 職 官 氏 名 印  
 年 月 日 提 出



支 出 額

摘 要	本 月 支出額	前月迄 支出額	本 月 戻入額	差引計	備 考
經 常 部 (總括ノ例ニ倣フ)					
臨 時 部 (同 上)					
總計	0	0	0	0	
隔地ノ債主ニ支拂ノ爲 日本銀行ニ資金交付高	0	0	0	0	

○支出額ニハ出納官吏ニ對スル資金前渡及國債元利拂ノ爲日本銀行ニ資金ノ前渡ヲ爲シタルモノヲ除クヘシ  
○帝國鐵道ニ在リテハ本月支出額ニ對シ各出納官吏別各日內譯書ヲ添附スヘシ

資 金 前 渡

摘 要	本 月 支出額	前月迄 支出額	本 月 戻入額	差引計	備 考
何 廳 官 氏 名 何 (何(款))					
何 (何(項))	0	0	0	0	
何 (何(項))	0	0	0	0	
計	0	0	0	0	
何 (何(款))					
何 (何(項))	0	0	0	0	
何 (何(項))	0	0	0	0	
計	0	0	0	0	
合計	0	0	0	0	
何 廳 官 氏 名 (前例ニ倣フ)					
集 合 ノ 部 (前例ニ倣フ)					
總計	0	0	0	0	
隔地ノ出納官吏ニ 資金前渡ノ爲日本 銀行ニ資金交付高	0	0	0	0	

○本欄ハ出納官吏ニ對シ資金前渡ヲ爲シ又ハ日本銀行ニ對シ國債元利拂ノ爲資金前渡ヲ爲シタルモノヲ掲クヘシ  
○資金前渡ヲ受ケタル官吏交替ヲ爲シタルトキハ其ノ翌月分ヨリ後任官吏ノ部ニ計算額ヲ併算シ前任官吏ノ氏名ヲ備考ニ附記スヘシ  
○臨時資金前渡ヲ受ケタル官吏ニシテ支拂ヲ完結シタルトキハ其ノ翌月分ヨリ集合ノ部ニ計算額ヲ併算シ其ノ月限該氏名ヲ備考ニ附記スヘシ



科目更正、定額戻入、歳入納付、過年度支出内訳

摘要	金額
<b>科目更正</b>	
事務費	
通信運搬費	
何月分小切手第何號何某渡金若干圓何科目ヲ以テ整理ノ處何何ニ因リ更正	0
<b>定額戻入</b>	
俸給	
奏任俸給	
何月分小切手第何號何官何級俸何某渡ノ内何月日何廳何官ニ轉任セシニ付何日分俸給過渡戻入	0
<b>歳入納付</b>	
雜給及雜費	
備人料	
何月分小切手第何號何某渡ノ内何何ニ因リ誤拂ヲ爲シタルニ付何年度歳入トシテ納付	0
<b>過年度支出</b>	
旅費	
内國旅費	
何年度何月分小切手第何號何某渡旅費何何ニ因リ支給不足ノ分本年度ニ於テ支出ヲ要シタルモノナリ	0

○年度、所管廳、一般會計ト特別會計トノ更正ハ科目更正ノ例ニ依ル  
 ○定額戻入、歳入納付ニシテ資金前渡又ハ概算拂ノ結果ニ因ルモノハ掲載ヲ要セス  
 ○過年度支出ニシテ第一豫備金ヲ以テ補充シタルモノニ付テハ掲載ヲ要セス

概算拂内訳

摘要	概算額			精算額			未精算額	備考
	前月末 未精算額	本月概 算拂額	計	支拂額	戻入額	歳入 納付額		
經常部	0	0	0	0	0	0	0	
何何(款)								
何何(項)								
何何(目)	0	0	0	0	0	0	0	
何何(目)	0	0	0	0	0	0	0	
計	0	0	0	0	0	0	0	
何何(款)								
何何(項)								
何何(目)	0	0	0	0	0	0	0	
何何(目)	0	0	0	0	0	0	0	
計	0	0	0	0	0	0	0	
經常部計	0	0	0	0	0	0	0	
臨時部								
(經常部ノ例) ニ倣フ								
總計	0	0	0	0	0	0	0	











當 座 預 金

摘 要	前	月	受 入	拂 出	現 在	備 考
	日	越				
利 利 計	円		円	円	円	
	0		0	0	0	
	0		0	0	0	
有 無						

總 括

摘 要	前	月	受 入	拂 出	現 在	備 考
	日	越				
日本銀行預金	円		円	円	円	
當 座 預 金	0		0	0	0	
別 口 預 金	0		0	0	0	
指 定 預 金						
内地指定預金	0		0	0	0	
在外指定預金	0		0	0	0	
計	0		0	0	0	
合計	0		0	0	0	
任 付 金						
國 庫 內	0		0	0	0	
公 共 團 體	0		0	0	0	
特 殊 銀 行	0		0	0	0	
何 々	0		0	0	0	
計	0		0	0	0	
大藏省預金部預入	0		0	0	0	
有 價 證 券						
國 債 證 券	0		0	0	0	
外 國 債 證 券	0		0	0	0	
地 方 債 證 券	0		0	0	0	
特 殊 銀 行 會 社 債	0		0	0	0	
何 々	0		0	0	0	
計	0		0	0	0	
總計	0		0	0	0	



内地指定預金

摘要	令達又ハ報告番	執行年月日	預入又ハ貸付先	利率	返済期限	前月ヨリ越	受入		拂出		現在	備考
							円	円	円	円		
圓形銀塊(何程)						0	0	0	0	0		○預入又ハ貸付ノ事由ヲ備考ニ附記スヘシ其ノ條件ヲ變更シタルトキ亦同シ
何						0	0	0	0	0		
計						0	0	0	0	0		

別口預金

摘要	前月ヨリ越		受入		拂出		現在		備考
	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	
金地	0	円	0	円	0	円	0	円	○外國貨幣、金銀地金類ノ受拂ニ付テハ其ノ事由ヲ備考ニ附記スヘシ
銀地	0	0	0	0	0	0	0	0	
圓形銀塊	0	0	0	0	0	0	0	0	
外國貨幣	0	0	0	0	0	0	0	0	
補助貨幣	0	0	0	0	0	0	0	0	
何	0	0	0	0	0	0	0	0	
計	0	0	0	0	0	0	0	0	











損 益 金

摘 要	事 由	本月分	前月迄	計	備 考
<p>○減價銷却ニ在リテハ其ノ内譯明細書ヲ添附スヘシ</p>					
利 益		面	面	面	
何公債證書利子	第何期分	0	0	0	
當座預金利息積數	自何年月日	0	0	0	
何々賣却利益	至何年月日	0	0	0	
何		0	0	0	
計		0	0	0	
損 失					
何證券賣却損		0	0	0	
減價銷損		0	0	0	
何		0	0	0	
計		0	0	0	

在 外 保 有

摘 要	執行年月日	購入又賣却單價	利率	前月ヨリ越			受			
				額面	購入原價	換算率	邦貨	額面	購入原價	換算率
在英國保有證券										
英國何々								0	0	
何								0	0	
計				0	0		0	0	0	
在米國保有證券										
米國何々								0	0	
何								0	0	
計				0	0		0	0	0	
合計				0	0		0	0	0	



預 金 部 資 金

摘 要	前月ヨリ越	受 入	拂 出	現 在	備 考
預 金					
郵便貯金	0	0	0	0	
公債金(定期)	0	0	0	0	
	0	0	0	0	
特別會計(通普)	0	0	0	0	
	0	0	0	0	
何々(定期)	0	0	0	0	
	0	0	0	0	
計	0	0	0	0	
積立金					
何年度歳入	0	0	0	0	
何年度歳出	△ 0		0	△ 0	
減價銷却	△ 0		0	△ 0	
拂出小切手支拂未済	0	0	0	0	
何々	0	0	0	0	
合計	0	0	0	0	

○大藏省預金部ニ在リテハ本表ヲ添附スヘシ

大藏省證券、融通證券、一時借入金

摘 要	前月ヨリ越	受 入	拂 出	現 在	備 考
大藏省證券					
何年何月發行	0		0		
何年何月發行		0		0	
計	0	0	0	0	
何々					
(前例ニ倣フ)					
合計	0	0	0	0	

○一般會計ニ在リテハ本表ヲ添附スヘシ



一、郵便年金、健康保險各積立金、對支文化事業資金並教育改善及農村振興基金ノ運用ハ本書式ニ準シ調製スヘシ

大正何年度

何年何月分

簡易生命保險積立金運用計算書

證憑書何冊

何々々

廳名

職官氏名印

年月日提出

總括

摘要	高	増	減	殘高	備考	現放預有	
						價	證
現金	0	0	0	0		計	
金	0	0	0	0			
金	0	0	0	0			
券	0	0	0	0			
計	0	0	0	0			







摘 要	利率	越 高		預金入	拂戻高	殘 高	運 收	用 入	備 考
		額面	價額						
預 金 部	0	0	0	0	0	0	0	0	
何々銀行	0	0	0	0	0	0	0	0	
計	0	0	0	0	0	0	0	0	

有 價 證 券 內 譯

摘 要	利率	越 高		購 入	賣 却	償 還		何 々	殘 高		運 用	收 入	備 考
		額面	價額			額面	價額		額面	價額			
何々證券	(	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○賣却ノ分ハ其ノ價額ヲ備考ニ附記スヘシ ○殘高保管ノ方法、運用收入計算ノ基礎並其ノ歳入所屬年度ヲ備考ニ附記スヘシ
何々證券	(	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
何々證券	(	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	



大正何年度  
何年何月分  
國債増減計算書

證憑書何冊

何々々

職官氏名印

年月日提出

種別	起債		償還		備考
	適用法條	額面金額	本年額	既往年度分	
債 公 債 計	何	何	何	何	○起債償還以外ノ事由ニ依リ増減ヲ生シタルトキハ起債高又ハ償還高ニ區分掲記シ適用法條又ハ償還方法ノ區ニ其ノ事由ヲ記載スルヲ載ス ○起債高ハ拂込済、償還高ハ支拂済ノ報告アリタルモノニ付之ヲ記
計 國庫證券	何	何	何	何	
計 鐵道證券	何	何	何	何	
計 借入證券	何	何	何	何	
計 借入票	何	何	何	何	
計 借入票何合計	何	何	何	何	
五 同 第何回何分利附英貨公債	何	何	何	何	
同 臨同	何	何	何	何	
同 米大同	何	何	何	何	
同 鐵同	何	何	何	何	
同 軍何	何	何	何	何	











摘要	受高	拂高	残高	備考
前月迄	0	0	0	
本月分	0	0	0	
計	0	0	0	
隔地者支拂ノ爲日本銀行へ資金交付高				
出納官吏				
前月迄		0		
本月分		0		
計		0		
債主				
前月迄		0		
本月分		0		
計		0		
合計		0		

  

残高	0
手元保管高	0
何々	0
計	0

  

振出小切手支拂未済額	
前月迄支拂未済額	0
本月支拂済額	0
差引残高	0
本月支拂未済額	0
計	0

○ 本分受拂高ニシテ内譯掲記ノ金額ト符合セサルモノアルトキハ備考ニ其ノ金額事由ヲ附記スヘシ  
 ○ 他ノ出納官吏へ送金シ又ハ送金ヲ受ケタルトキハ其ノ氏名及金額ヲ備考ニ附記スヘシ

大正何年度  
 何年何月分(自何年月日至何年月日)  
 繰替拂  
 現金出納計算書

證券書何冊  
 何々々

鐵道官署名  
 職官氏名印  
 年月日提出



内

譯

摘要	受		拂		残高	備考
	本月分	前月迄	本月分	前月迄		
確定金	0	0	0	0	0	<p>○左記事項ハ各勘定別ニ備考ニ附記スレドモ但シ事ノ複雑ナルモノハ住 譯書ヲ添附スレシ</p> <p>一、受高ハ歳入金、返納金、回收金、戻入金等事項ノ異ナル毎ニ其 ノ金額</p> <p>二、拂高ハ歳出金、歳入ニ拂込金等事項ノ異ナル毎ニ其ノ金額</p> <p>三、科目更正ヲ爲シタルモノアルトキハ繰替拂ヲ爲シタル月並金額 ノ入金、繰替拂入金、歳入歳出外現金及官吏遺族扶助法納金ハ三月三 十一日ニテ打切り受高ヨリ拂高ヲ差引キ受高多キトキハ其ノ差額ヲ 四月分計算書中受高本月ノ區ニ又拂高多キトキハ其ノ差額ヲ拂高本 月ノ區ニ掲載シ其ノ金額ヲ備考ニ附記スレシ</p> <p>○舊年度ノ出納ヲ了シタルトキハ受高ヨリ拂高ヲ差引キ受高多キトキ ハ其ノ差額ヲ翌月分計算書中回金受高本月ノ區ニ拂高多キトキハ 高本月ノ區ニ掲載シ其ノ金額ヲ備考ニ附記スレシ</p> <p>○日本銀行ニ回金ヲ請求シ當月中ニ領收證書到達セサルモノアルトキ ハ出納官更毎ニ其ノ氏名及金額ヲ備考ニ附記スレシ</p>
確定金	0	0	0	0	0	
勘定金	0	0	0	0	0	
勘定金	0	0	0	0	0	
勘定金	0	0	0	0	0	
勘定金	0	0	0	0	0	
勘定金	0	0	0	0	0	
勘定金	0	0	0	0	0	
勘定金	0	0	0	0	0	
勘定金	0	0	0	0	0	

大正何年度 (自何年月日 至何年月日)

繰替

現金出納計算書

證憑書何冊

何々々

遞信官署名

職官氏名印

年月日提出























大正何年度

何年何月分

國庫金出納及政府有價證券受拂計算書

日本銀行總裁氏名印

年月日提出

第十二號(削除)  
第十三號

公用財産(何々)

摘要	異動年月	單位稱呼	増		減		備考
			數量	價額	數量	價額	
何々(用途別名稱)							○○○○ 國有財産法施行初年度ノ前報第一回分ニ在リテハ同法施行ノ日ニ於ケル現在高ヲ前報現在高トシテ記載スヘシ 公用財産法施行規則第三號様式國有財産増減報告書ノ格式ニ付テハ前報第一回分ニ在リテハ同法施行ノ日ニ於ケル現在高ヲ前報現在高トシテ記載スヘシ 公用財産法施行規則第三號様式國有財産増減報告書ノ格式ニ付テハ前報第一回分ニ在リテハ同法施行ノ日ニ於ケル現在高ヲ前報現在高トシテ記載スヘシ 公用財産法施行規則第三號様式國有財産増減報告書ノ格式ニ付テハ前報第一回分ニ在リテハ同法施行ノ日ニ於ケル現在高ヲ前報現在高トシテ記載スヘシ
何々(所在地名)							
敷地			0	0			
建物							
事務所建			0	0			
何々			0	0			
工作物(何々)			0	0			
敷地					0	0	
何々					0	0	
計				0		0	
何々(所在地名)							
(前例 = 倣フ)							
合計				0		0	
何々(用途別名稱)							
(前例 = 倣フ)							
總計				0		0	
			前報	現在高	差引	現在高	
				0		0	







大 正 何 年 度

何 年 何 月 分

國債ノ發行ニ依ル收入金受拂明細書

日本銀行總裁氏名印

年 月 日 提 出

集 金 券

摘 要	受		拂		残	備 考
	本月分	前月迄	本月分	前月迄		
何年發行何公債 (第何回何公債)	0	0	0	0	0	同種ノ公債ト雖募集ノ時期方法等異ナルモハ別廉ニ記 載スヘシ應募保證金ノ欄亦同シ ○本月分受高及拂高ハ當月ノ日本銀行本店ニ於テ處理シタ ル金額ヲ又前年度末ニ於ケル殘高ハ年度首明細書ノ受高 前月迄ノ區ニ掲記スヘシ應募保證金ノ欄亦同シ 本應何 月募々 分保々
何期金利息	0	0	0	0	0	
何期何達	0	0	0	0	0	
何期何	0	0	0	0	0	
何期何	0	0	0	0	0	
計	0	0	0	0	0	
何第第何	0	0	0	0	0	
何第第何	0	0	0	0	0	
計	0	0	0	0	0	







摘要	額面	拂込額	未拂込額	備考
何年發行何公債 (第何回何公債)	0	0	0	
第何期拂込延滞ノ爲失敗 申込價格何程ノ分	0	0	0	
申込價格何程ノ分	0	0	0	
計	0	0	0	
何證券				
第何期拂込延滞ノ爲失敗 申込價格何程ノ分	0	0	0	
申込價格何程ノ分	0	0	0	
計	0	0	0	
合計	0	0	0	

○同種ノ公債ト雖募集ノ時期方法等ヲ異ニスルモノハ別廉ニ記載ス

大正何年度

何年何月分

國債元利拂資金受拂明細書

日本銀行總裁氏名印

年月日提出



摘要	受			拂			残	備考
	本月分	前月迄	本還納額	本月分	前月迄	本回収額		
何年度(部)何月何日(款)何(項)	0	0	0	0	0	0	0	○ 本月分拂高ハ當月日本銀行本店ニ於テ處理シタル金額ヲ掲記ス ○ 年度、科目其ノ他ノ更正ヲ爲シタルトキハ備考ニ金額事由ヲ附記ス
何年々々々(目)何年何月何分(目)	0	0	0	0	0	0	0	
何々々(目)何(目)	0	0	0	0	0	0	0	
何(前例ニ倣フ)	0	0	0	0	0	0	0	
合計	0	0	0	0	0	0	0	

國貨元金支拂濟否内訳

摘要	時效完成期	支拂確定額	支拂濟額	銷却差増減	時效完成ニ 因ル支拂不要額	支拂未濟額	備考
何年々々々(款)何(項)	何年月日	0	0	0	0	0	○ 本欄ハ各年度所屬ノ支拂證明完結ノ月ニ限り之ヲ掲載ス ○ 支拂確定額ノ區ニハ既往年度ニ於ケル支拂未濟額及本年度中支拂 フキ額ヲ掲記ス
何年々々々(目)何年何月何分(目)	何年月日	0	0	0	0	0	
何(前例ニ倣フ)	何年月日	0	0	0	0	0	
合計	何年月日	0	0	0	0	0	